

令和8年度 授業シラバス

基本情報

学科目名	ライフサイエンス	分野	基礎分野[科学的思考の基礎]自然科学			講師名	澤村精昭	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	生物8回 化学7回
教員の 実務経験	元熊本県立高校理科化学教諭 現熊本学園大学付属高等学校理科(化学)教諭 現文徳学園文徳高等学校理化(化学)教諭							
授業との 関連性	化学の教諭として長年の経験をとおして、科学的思考の基盤となる物質の性質や構造、変化を知り、歯科医療に用いる関連物質の組成構造や使用時の注意点について講義・演習する。							

詳細情報

授業目標	化学は、物質の性質・構造、変化に関する学問である。本学院の学生が志す歯科衛生士は、医療の現場で、種々雑多な歯科材料などの物質に日常的に接する立場にあり、化学の基礎知識が必要不可欠である。高等学校で化学を履修した学生も履修しなかった学生もいるであろう。講義時間数が限られている中、学生に理解できるよう、平易に効率よく授業に取り組む予定である。医療関係に登場する専門的な語句が理解でき、いろんな本を読めるようにしたい。									
成績評価 方法	定期試験	生物60点 化学40点	小テスト レポート 授業ノート提出	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学「化学」 鶴房繁和著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	講談社ブルーバックスシリーズ(化学、医療関係)平易にわかりやすく解説した本が多い。※『歯科医療最前線 自分の歯を守るための最新情報』下野真基著 ※歯を守る歯の病気の仕組みとその予防 寛道幸男著など 高校在籍時の化学基礎教科書									
使用設備・備 品・準備物	PC, プロジェクター, 分子模型など									
履修上の 注意	本講義では、教科書を基にできるだけ分かりやすく解説し、化学の基礎を重点的に授業で取り組みます。授業時間に制約がありますので、授業で理解できないことはどんな些細なことでも、授業中あるいは、授業時間外に気軽にどんどん質問して下さい。また、化学専門の授業内容のプリントを配布します。その内容を自分でまとめ、自分の授業ノートをつくってください。テスト時の見返しに役に立つと思います。定期的にもノートもチェックします。どうしても理解できないときは補講をしますので、遠慮なく申し出て下さい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	化学(chemistry)とはどのような学問か。 物質の基礎(その1) 物質の分類 物質を構成する基本粒子 物質を表す化学式 物質の基礎(その2) 物質を構成する原子 原子番号と質量数 原子の電子配				①化学で取り扱う内容。②元素と原子の概念を説明し、主な元素記号を知る。③混合物と純物質の違いを理解。④純物質の化合物と単体。⑤元素記号や物質の化学式が書ける。⑥基本粒子である陽子、中性子、電子を説明する。⑦原子番号、質量数を説明。⑧周期律発見と周期表の概略。			・教科書p0～p24を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト		
2	物質の水への溶解 液体としての水 質量パーセント濃度 モル濃度・ppm 希釈液の作り方について				①砂糖水・食塩水を例に、溶質・溶媒・溶体を説明し、理解する。 ②水の特異な性質(物理・化学的性質)を理解する。 ③質量パーセント濃度を理解し、計算ができるようになる。 ④モル濃度やppmを理解し、計算ができるようになる。 ⑤希釈液の作り方について理解を深める。			・教科書p0～p24を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト		
3	有機化合物とは何だろう(その1) 有機化学物の成り立ち 有機化合物の名前の付け方 異性体について				①有機化合物の特徴を理解する。 ②単結合、二重結合、ベンゼン環の構造を理解する。 ③官能基の特徴を説明し、化学式(示性式)を書く。 ④構造異性体、立体異性体、光学異性体について理解する。			①化学講義ノート有機化合物とは何だろう ②授業ノート有機化学の基礎 ・プリント配布 ・小テスト		
4	有機化合物とは何だろう(その2) 炭化水素の分類 代表的な化合物とその性質 高分子化合物				①置換反応、付加反応、脱離反応、転移反応を説明する。 ②飽和炭化水素と不飽和炭化水素の違いについての知識。 ③代表的な有機化合物とその性質を知る。 ④高分子化合物とは何か。また、その生成について理解する。			①化学講義ノート有機化合物とは何だろう ②授業ノート有機化学の基礎 ・プリント配布 ・小テスト		
5	物質と人間 糖質				①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸(ヌクレオシドとヌクレオチド)やDNA・RNAについて理解する。			①化学講義ノート有機化合物とは何だろう ②アミノ酸・タンパク質 & 核酸 ・プリント配布 ・小テスト		
6	物質と人間 アミノ酸とタンパク質				①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸(ヌクレオシドとヌクレオチド)やDNA・RNAについて理解する。			①化学講義ノート有機化合物とは何だろう ②アミノ酸・タンパク質 & 核酸 ・プリント配布 ・小テスト		
7	物質と人間 脂質 核酸と核酸関連物質				①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸(ヌクレオシドとヌクレオチド)やDNA・RNAについて理解する。			①化学講義ノート有機化合物とは何だろう ②アミノ酸・タンパク質 & 核酸 ・プリント配布 ・小テスト		

基本情報

学科名	ライフサイエンス	分野	基礎分野 [科学的思考の基礎] 自然科学			講師名	江頭 恒	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	生物8回 化学7回
教員の 実務経験	博士（医学）。現在は熊本大学大学院先端科学研究部准教授。研究専門分野は分子細胞生物学。							
授業との 関連性	本務先の大学での研究、教育を踏まえ、生物学の基礎を講義・演習する。							

詳細情報

授業目標	1) 生物を構成する細胞の構造と機能、2) 細胞の一生と組織、個体の成り立ち、3) 生命の連続と発生、4) 動物の反応とホメオスタシスについて学修し、専門科目を学ぶための基礎を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	生物60点 化学40点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「生物学」 川合進二郎著 他 医歯薬出版K K									
参考文献	授業中に随時、紹介する。									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター（HDMIの接続ケーブル）									
履修上の 注意	教科書を使用しますが、講義資料（A3用紙）もほぼ毎時間、配布するので、そのファイルを用意すること。前回の講義資料も併せて持参すること。ノートを用意して授業中の要点などを記すこと。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	授業への導入 授業方法、注意点などを説明する。 生命とは何か、生物の特徴や生体を構成する細胞や物質について説明する。また、生命の誕生や変遷			生物は何で作られ、何をできるのか、またどのように誕生し、変遷してきたかを理解する。			予習：教科書の最初～p14を読んでくること。 復習：教科書p2～p13を理解できるよう学習すること。			
2	細胞の構造と機能（1） 生体、細胞を構成するタンパク質や核酸などについて説明する。			生体、細胞を構成する物質を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p16～p21を理解できるよう学習すること。			
3	細胞の構造と機能（2） 細胞の形態・構造や、細胞小器官の構造と機能について説明する。			細胞の形態・構造、細胞小器官の構造と機能を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p22～p28を理解できるよう学習すること。			
4	細胞の構造と機能（3） 細胞の機能について説明する。			細胞の機能、活動を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p28～p35を理解できるよう学習すること。			
5	細胞の構造と機能（4） 遺伝子発現について説明する。			細胞が遺伝子からタンパク質をつくる過程を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p55～p68を理解できるよう学習すること。			
6	細胞の一生と組織、個体の成り立ち（1） 動物細胞の分裂、死、分化について説明する。			1個の細胞が分裂、死、分化する運命を選び、一生を送ることを理解する。			予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p36～p40を理解できるよう学習すること。			
7	細胞の一生と組織、個体の成り立ち（2） ヒトの組織、器官について説明する。			個体を成り立たせる組織、器官の構造と機能を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p40～p47を理解できるよう学習すること。			
8	全体のまとめ			これまでの授業内容に関して、テストを行い、確認する。			予習：これまでの授業内容をすべて学習しておくこと。 復習：テストも含めて授業内容を学習すること。			

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	倫理学	分野	基礎分野(人間科学・社会学)					
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	30時間	授業回数	15

講師名	牛島 隆	教員の 実務経験	本県歯科医師会会長、本学院学院長、本県歯科医師連盟会長、歯科医師。歯学博士。歯科診療所院長。					
授業との 関連性	本県歯科医師会会長および本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理観について講義する。							
講師名	大林裕明	教員の 実務経験	本県歯科医師会副会長、本学副学院長、歯科医師。歯科診療所を開設。学校歯科					
授業との 関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療での経験を踏まえ、患者中心の医療や歯科衛生士として必要な倫理観について講義する。							
講師名	宮本和美	教員の 実務経験	教諭、教頭、熊本市中学校教頭会会長、教育委員会指導主事(道德教育)、					
授業との 関連性	道德教育に関する教育実践の経験を踏まえて、対話的な学びを重視し、社会人としての基礎力と医療人としての使命感の育成を図る。多様な事例等をもとに考察し、患者理解や規範意識を深め、臨床現場で倫理的に判断し行動できる学生の育成を目指す。							
講師名	松原良太	教員の 実務経験	歯科医師。診療所を開設。 県歯科医師会理事(医療対策、災害時対策、警察歯科)					
授業との 関連性	歯科医師会理事として臨床現場の医療苦情に対する対策やDHとしての倫理的配慮について講義する。							
講師名	吉武 淳	教員の 実務経験	医師。熊大病院緩和ケアセンター センター長					
授業との 関連性	熊本県がん診療連携拠点病院緩和ケアセンター長として臨床現場および学生へ向けた研修を実施。緩和ケアの普及・啓発・充実に専ら担う専門家として講義する。							

詳細情報

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての使命を確認し、どのようにすればそれが果たせるか自分の気持ち、行動を確認、修得する。 2. 新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる医療人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーションやその基礎となる行動科学を学ぶ。 3. 医療系学生として生命を大切にす心や他人を思いやる心、善悪の判断など規範意識について振り返り、社会生活を送るうえでのモラルを理解し行動することができる。(道德) 4. 医療人として生と死について思考し、患者に関する際の基本態度および心構え学び、また医療人としての役割や責務を自覚することができる。(死生観・ホスピス精神) 5. 歯科衛生士として臨床での諸問題に対応するための基本的な倫理観を養うことができる。(歯科医師会) 								
	定期試験	100点 大林先生	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計
成績評価 方法	<p>(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>								
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」 梶 則章著他 医歯薬出版KK								
参考文献	歯科医療倫理Q&A 大井賢一、木坂昌知 著 太陽出版 → 図書室蔵書								
使用設備・備品・ 準備物	(東 克章)プロジェクター (秋山 清)毎回、ポイントをまとめたプリントを授業で渡します。計6回、6枚。								
履修上の 注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてだけでなく、人として自分の倫理観に照らし合わせながら、自分の中で消化し取り入れてゆく。 2. 素直で純粋な心で学ぶ。 3. 将来の様々な場面で他者との関係を踏まえて正しい行動をとれるように学ぶこと。 4. 利己的な考えから利他的な考えも学ぶ。 5. 居眠り、私語は慎むこと。 6. 素直な気持ちで聴く。 								
回	授業計画			到達目標			準備学習		
1	(牛島 隆) 1. 歯科医師会とは 2. 歯科衛生士としての倫理観			1. 歯科医師会の社会的使命について説明できる。 2. 患者に対してのいたわりをもって接することができる。 3. プライバシーの厳守ができる。 4. 医療人としての身だしなみができる。 5. 自己の健康管理ができる。					

2	(大林裕明) なぜ医療倫理を学ぶのか ○伝統的な医の倫理から新しい医の倫理(医療倫理)へ ○患者中心の医療	時代とともに変化してきた医の倫理について学び、歯科衛生士として必要な倫理観を身につけ、医療倫理、患者中心の医療とは何かを理解する。	患者さんの心の中はどのようなか考えてみる。
3	(大林裕明) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス(生命倫理学) 研究と医療倫理	医療従事者の職業倫理に関する規範、患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理、生命倫理学、生と死に関する倫理、医療技術の発達に伴う問題を理解する。	生と死について、自分はどう思っているのか考えてみる。
4	(大林裕明) インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセント・インフォームド・チョイスなどについて説明できる。これらの倫理的意義、倫理的要求について述べるができる。 セカンドオピニオンについて説明できる。	インフォームド・コンセントの定義を読み、理解しておく。
5	(大林裕明) QOL、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)	歯科医療に於けるQOLの向上について説明ができ、歯科衛生士としてQOLにどのようにかわるかを理解する。	QOLとは何か理解しておく。
6	(大林裕明) 行動科学	生活行動に於ける中で保健行動とは何か。また患者をどのように理解するかを学ぶ。	生活行動と保健行動の意味を理解しておく。
7	(大林裕明) コミュニケーション 総まとめ(試験対策)	歯科衛生士として個々の患者及び他職種とのチームアプローチについてコミュニケーションをどのようにとるかを説明できる。	同級生とまずコミュニケーションをとる。
8	(宮本和美) 道徳的教育① オリエンテーション 講義	道徳の意義と対話的な学びの重要性を理解し、医療人を目指す学生として大切にしたい価値や行動について自分の考えを説明できる。また、相手の意見を尊重しながら対話に参加し、学びを深める姿勢を身につけることができる。	
9	(宮本和美) 道徳的教育② 講義・演習	克己と強い意志の意味を理解し、自分の感情や行動を振り返りながら、望ましい行動を考えることができる。医療人として責任ある態度とは何かを考え、日常生活の中で主体的に実践しようとする姿勢を持つことができる。	
10	(宮本和美) 道徳的教育③ 講義・演習	社会的モラルや社会人基礎力、礼儀の大切さを理解し、信頼される医療人に必要な態度や行動について説明できる。相手を尊重した言動や適切なコミュニケーションの在り方を考え、学校生活の中で実践できる。	
11	(宮本和美) 道徳的教育④ 講義・演習	自律や勤労の意義を理解し、医療人として主体的に学び続ける姿勢の大切さを説明できる。また、地域や周囲の人々との関わりの中で自分の役割を考え、協力しながら責任ある行動をとる意識を持つことができる。	
12	(宮本和美) 道徳的教育⑤ 講義・演習 まとめ	これまでの学びを踏まえ、よりよく生きることを自分の言葉で説明できる。医療人を目指す学生として学内生活の具体的な目標を設定し、その実現に向けて主体的に行動しようとする態度を身につけることができる。	
13	(松原良太先生) 熊本県歯科医師会医療対策委員・歯科医師 ・歯科医院での医療苦情に対するDHとしての倫理観を学ぶ。	1. 医療事故と医療過誤の違いを説明できる 2. 歯科医療従事者としてのリスクマネジメントについて説明できる。 3. 事故発生時の対応を説明できる。 4. 法的解釈、責任について説明できる。 5. 臨床での医療苦情事例と適切な対応を説明できる。 6. 歯科医院で求められる歯科衛生士の対応を説明し実践へつなげることができる。	
14	(吉武淳) 熊大病院緩和ケアセンター 医師 死生観・緩和ケアについて	1. 緩和ケア病棟とホスピスについて概要を述べるができる。 2. 緩和ケア病棟での多職種連携の概要を述べるができる。	
15	(吉武淳) 熊大病院緩和ケアセンター ホスピスの精神について DHに必要な考え・対応	3. ホスピスの精神について述べるができる。 4. ホスピスに関する職種として望まれるDHの対応を述べるができる。	

基本情報

学科目名	心理学	分野	基礎分野[人間と生活]人文科学・社会学			講師名	高木ひろみ	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	熊本医療センター附属看護学校、熊本中央高等学校看護専攻科にて、「人間関係論」「行動科学」を講義。臨床心理士として精神科病院、小児科クリニック、学校等で相談業務(カウンセリング)や心理検査、集団心理療法を行う。							
授業との 関連性	病院等、実際の臨床現場での心理支援の経験と看護学校での講義経験を踏まえ、患者の心理や患者との良好なコミュニケーションを築くための技法について講義する。							

詳細情報

授業目標	この講義は、対人援助職である歯科衛生士を養成することを目的とする。対人援助職である治療者はすべての患者の苦しみに共感し、その持てる職能を活かして患者の問題解決を支援していくことになる。その際に最も大切なことは、患者を病をもつ一人の人間として尊重し理解することである。この講義では、人の心理的理解に焦点を当て、実際の歯科衛生の現場で患者の相談や心理的支援を実践していくための基本姿勢を学ぶとともに、将来、活用できる心理学の理論と技法を含む心理学の基礎知識を習得することを到達点としたい。また、心理臨床の場で活用されている援助法を学び、良好な患者—治療者関係を構築するために必要となるコミュニケーションスキルや自身のストレスマネジメントについても取り上げる。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	10点	合計	100点
	(学則) 合格点; 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験; 学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課; ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件; 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「心理学」二宮克美著 他 医歯薬出版KK									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物	PC プロジェクター									
履修上の 注意	講義内容は、毎回プリントで配布する。回毎に配ったものは整理保存すること。受講に際しては、回毎の講義予定内容を前もってテキストで予習することが望ましい。また、信頼関係構築のためのコミュニケーションを身につけるために、ロールプレイを活用した講義もあるため、積極的に活動にも参加してほしい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	自己紹介、オリエンテーション 心理学の歩みと研究方法 (テキスト15章、p200～208)				歯科衛生士が心理学を学ぶ意義を知る。また、この講義の進め方を説明する。心理学が何を、どのような方法で明らかにしようとしてきたかを知ることができる。			テキストP200～208を予習		
2	見る・聞く・感じるころ (テキスト1章 p2～14)				感覚と知覚にどんな特徴があるか、知覚はどのように成立しているかを知ることができる。			テキストP2～14を予習		
3	学ぶ・覚えるころ (テキスト2章 p16～26)				経験によって行動が変わる仕組みを知る。覚えること、忘れること、思い出すことの種類と仕組みを理解できる。			テキストP16～26を予習		
4	やる気の心理 (テキスト3章 p28～37)				人を動かしコントロールする動機づけの種類と仕組みにどのようなものがあるかを学ぶ。動機づけの基礎として働いている欲求の特徴を理解できる。			テキストP28～37を予習		
5	喜怒哀楽のころ (テキスト4章 p40～51)				情動の種類と仕組みを理解する。コンフリクトとは何か、フラストレーション、ストレスの対処について理解できる。			テキストP40～51を予習		
6	その人らしさの心理—パーソナリティ (テキスト5章 p54～66)				人間のパーソナリティを調べる試みにはどのようなアプローチや方法があるかを理解する。パーソナリティの不適応とはどのようなものかを理解できる。			テキストP54～66を予習		
7	かしこさの心理 (テキスト6章 p68～80)				人間の知能を測定する方法でどの程度のことがわかるかを知り、今後の知能の捉え方で重要と思われる課題について考察することができる。			テキストP68～80を予習		
8	考えるころ (テキスト7章 p82～91)				考えるとはどういうことか、問題解決にはどのような方法があるかを理解する。			テキストP82～91を予習		

回	授業計画	到達目標	準備学習
9	発達するところ(1) (テキスト8章 p94～110)	発達に影響を及ぼす要因を理解する。生涯にわたる発達の段階(特に乳幼児期のところの発達)で果たさなければならない課題について学ぶ。	テキストP94～110を予習
10	発達するところ(2) (テキスト9章 p112～124)	子どもから大人への成長していく思春期青年期の過程を理解する。中年期また老年期のところの特徴を理解する。	テキストP112～124を予習
11	人と関わる心理 (テキスト10章 p126～134)	他者の印象をどのように形成するか、行動の原因をどのように捉えるか、人を好き嫌いになったりするかなど、対人関係の手掛かりの要因を学ぶことができる。	テキストP126～134を予習
12	人と集うところ (テキスト11章 p136～148)	集団が人の行動に及ぼす影響を学ぶ。人の態度が変わる要因を学ぶ。リーダーシップと、効果的なリーダーシップについて理解できる。	テキストP136～148を予習
13	健康なところ (テキスト12章 p150～164)	ところが健康な状態とは何か、どのように測定されるのかを知る。ところの健康が損なわれると、どのような状態が現れるのかを学び、専門的な援助の方法について理解できる。	テキストP150～164を予習
14	カウンセリングのところ (テキスト13章 p166～182)	歯科医療におけるホスピタリティにとんだコミュニケーションの意義を理解し、患者さんへの支援の意義を学ぶことができる。	テキストP166～182を予習
15	思いを伝え合うところ (テキスト14章 p184～198) 自分のストレスマネジメント	歯科医療におけるコミュニケーションの意義を理解し、信頼関係の構築を身につける。傾聴、共感の姿勢を身につける。また、職業人としてのストレスマネジメントを身につける。	テキストP184～198を予習

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	社会学	分野	基礎分野[人間と生活]人文科学・社会学			講師名	井上佳子	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	熊本放送で長年にわたりドキュメンタリーを制作するとともにノンフィクションを執筆。2019年から2026年まで長崎県立大学国際社会学科教授。専門は映像ジャーナリズム。							
授業との 関連性	報道現場での取材経験や、大学での研究をもとに、複雑で不透明な現代社会について解説する。							

詳細情報

授業目標	社会はどのような法則や仕組みで動いているのか。講師が解説するジャーナリズムの視点から地域社会の課題について学び、自立した社会人になることをめざす。									
成績評価 方法	定期試験	50点	毎回のコメントシート	15点	実技・発表ワーク(演習)など	15点	受講態度	20点	合計	100点
教科書名	講師資料									
参考文献										
使用設備・備品・準備物	DVD・プロジェクター・PCスライド									
履修上の注意	報道資料を多用するので可能な限り、テレビニュース等報道系番組を視聴し、また新聞の解説記事、コラム等にも目を通す習慣をつけてください。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	オリエンテーション 「インタビューをしてみよう！」自己紹介と、他己紹介				講義の概要について理解を深める。順番に他者にインタビュー。好きな本、好きなスポーツ、関心のある社会の出来事など、相手の人物像を引き出すことに挑戦する。インタビューを通し、お互いをよく知り、社会問題についても認識を深める。					
2	メディアの光と影 社会に大きな影響を与えるメディアの光と影について知る。				メディアリテラシーの必要性について認識する。多くの課題を抱えるメディア。しかし一方で、情報は人間がつくり、温かい血が通っている。SNSの時代は、皆がメディア発信者。メディアの課題と役割について関心を持つ。			テレビのニュースを視聴する。新聞に目を通して知る。		
3	コロナが浮き彫りにした社会 コロナ禍は社会のどのような側面を浮き彫りにしたのか、解説する。				コロナ禍を通し、私たちの社会を俯瞰することで、社会課題を知り、それを打開する方法について考える。			コロナ禍の記憶について、家族や友人と話をする。		
4	ハンセン病とコロナ ハンセン病とコロナ禍は共通する部分が多い。ハンセン病問題を通し、コロナ禍を考察する。				コロナ禍を通し、ハンセン病問題について考える。強制隔離という人権侵害はなぜ起きたのか。私たちの社会を見つめ直す力を養う。			ハンセン病について、基礎的なことを調べておく。		
5	水俣病と地球温暖化 公害の原点とも言われる水俣病。経済優先の姿勢は今も変わっていない。それは私たちに何をもたらしているのか。				過去のものと思われがちな水俣病問題。しかし、裁判は現在も続いている。水銀は今もなお、水俣湾にある。水俣病問題は終わっていないことを知る。さらに、世界で、自国中心主義が広がり、温暖化への歯止めが見通せなくなっている今、自分たちにできることは何か考える。			水俣病について、これまで学習したことを復讐しておく。		
6	女性(男性)の働き方 コロナ禍は、女性労働者が「弱い」立場にいることを浮き彫りにした。女性活躍と言われながら地位の向上がすすまない現状を分析する。また、男性にとっては働きやすい国なのだろうか。				女性、男性の働き方の現状を知ること、職業人としての自分自身を見つめ、よりよい社会について考える。			家族や周囲の女性に、働くうえで困難なことなど、話を聴く。		
7	LGBTQ 多様性が求められる一方で、LGBTQについて社会ではいまだに理解がすすまず、差別・偏見に苦しむ人もいる。現状と課題を探る。				同性婚の裁判の経過などを通し、LGBTQを取り巻く現状について知り、多様性を受容する心を育む。			LGBTQについて、報道をチェックしておく。		
8	ヤングケアラー 本来大人がすべき家族のケアを18歳未満の子どもが担うヤングケアラー。表に出にくいといわれる理由と、解決のための課題を考える。				ヤングケアラーの実態を知り、その背景にある社会課題を身近に引き寄せ考えることができる。			ヤングケアラーについて、基礎的なことを調べておく。		
9	こうのとりのゆりかご 熊本市の慈恵病院に設置された「こうのとりのゆりかご」。設置から19年。その現状と課題を探る。				ゆりかごに赤ちゃんを預ける女性の背景には、虐待や性暴力、家族との不和など、社会の問題が凝縮している。「こうのとりのゆりかご」を通し、女性をめぐる社会のありようを考える。			こうのとりのゆりかごについて、これまでの報道をチェックしておく。		
10	多様化する働き方 近年は、定年の延長や、オンラインでの在宅ワークなど、働き方が大きく変化している。その背景と実態、課題を探る。				多様化する働き方の現状を知り、職業人としての自分の将来を考える。			どんな社会人になりたいですか。職業人としての自分を思い描いてみる。		
11	メディアとの付き合い方 ハンセン病問題、戦争を、メ				かつてのハンセン病問題や戦争報道を知ること、メディアとの付き合い方を考え、リテラシーを高める。			家族や周囲の年長者に、戦争について話を聴く。		
12	熊本県民の行動 ① ～アンケート調査～テーマ設定				熊本県民はどんなとき、いかなる行動をとるのか。学生自らテーマを設定し、次回までに調査する。					
13	熊本県民の行動 ② ～アンケート調査～結果を集計、分析				班ごとにアンケート結果を集計し、グラフや表を作成する			前回、班ごとに設定したテーマに基づき、アンケートを実施		
14	熊本県民アンケート調査から(最終回)と講義のまとめ				前回作成した大判表をボードに掲示し、班のリーダーが発表する。今季の講義を復習する。					
15	社会学定期試験(60分)									

基本情報

学科目名	英語	分野	基礎分野[人間と生活]外国語			講師名	中田ひとみ	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	小学校及び高校での教師経験。英会話スクール、企業での英語指導、通訳経験を通しての実践英会話の指導							
授業との 関連性	英会話講師や通訳としての経験を生かし、学生が実践的英会話力を養い幅広い患者対応ができるように指導する。							

詳細情報

授業目標	異文化間コミュニケーションを理解し、外国人の患者様に伝わる英語を身につけましょう。									
成績評価 方法	定期試験	70点	小テスト レポート	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	歯科医院での実用英会話 第3版									
参考文献	上記、テキストからの抜粋、他適宜紹介します。									
使用設備・備 品・準備物	PC・プロジェクター									
履修上の 注意	この授業では、英語でのコミュニケーションの基礎を学び、みなさんが伝わる英語を話せるようになることが目標です。対話の機会をたくさん取り入れた参加型の授業になるので、以下のルールを守り、楽しくしましょう。 ①私語や居眠りは慎みましょう ②許可なく携帯電話やスマートフォンを使用しないでください ③スライドや授業風景を無断で撮影しないでください 【注意】これらの禁止行為を行った場合には、評価から減点することがあります。 また、授業計画は変更することがありますのでご了承ください。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	1. 自己紹介 2. 英語に関するアンケート記入 3. 英語で自己紹介	英語で自己紹介ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
2	受付での電話対応① Handling Calls at Reception	電話で患者様の症状を聞くことができる 具体的な日時で予約がとれる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
3	受付での初心対応/患者さんへの声かけ Serving at Reception / Caring for the Patient	患者様への英語でのスムーズな対応と声かけができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
4	問診 Consultation	英語で問診をとることができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
5	むし歯の説明 Explanations on Dental Cavities	英語でむし歯の説明ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
6	レジン充填 Insert of Dental Composite	英語でレジン充填の説明ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
7	歯周病 Disease of the Gums	英語で歯周病の説明ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
8	歯周検査 Periodontal Examination	英語で歯周検査での問診ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
9	口述試験 ミニスピーチ発表	これまでの学びの振り返りと英語でのミニスピーチを行う	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
10	口述試験 ミニスピーチ発表	これまでの学びの振り返りと英語でのミニスピーチを行う	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
11	ブラッシング指導 Tooth Brushing Instructions	英語でブラッシング指導ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
12	スケーリング Scaling	英語でスケーリングの流れを説明できる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
13	抜髄 前半 Pulpectomy	英語で抜髄の流れを説明できる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
14	抜髄 後半 Pulpectomy	英語で抜髄の流れを説明できる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
15	授業のまとめ 後期期末試験に関する質問受け	これまでに学んだことを振り返る	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	解剖生理学	分野	専門基礎分野[人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能]			講師名	中島 健	
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義	単位数	3単位	45時間	授業回数	23
教員の 実務経験	九州歯科大学助手、伊是名歯科診療所学校歯科医師(小、中学校)							
授業との 関連性	歯科診療所、大学病院勤務、病院歯科の歯科口腔外科医として手術等の経験を踏まえ、人体の構造や生体のメカニズムについて講義する。							

詳細情報

授業目標	医療を修める上で、最初に学ぶ学問が解剖と生理である。この教科の理解なくして他教科の正確な理解は困難であると思われる。歯科衛生士教育でも全身との関わりのなかで、医療を実践していく姿勢が求められる。さらに近年の高齢化の進展により全身疾患をもつ患者が増加し、全身の理解は不可欠であることをよく考え理解を深めてもらいたい。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	○「解剖生理をおもしろく学ぶ」増田敦子著 サイオ出版 ○「いちばんやさしい生理学」南沢 享、加藤 尚志著 成美堂出版 ○「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版社									
使用設備・備 品・準備物	パソコン、プロジェクター、配布プリント、スマホ									
履修上の 注意										
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	解剖・生理学概論 ・人体の区分 ・身体方向用語 生理学概論 ・生理学とは何か				・身体部位と方向用語・解剖学的名称を理解できる ・解剖学・生理学の基本的な学習を理解する ・生物が生命を維持するメカニズムの概要を知る			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
2	〈骨格系〉				・骨の基本構造と骨の形態、連結様式、骨の改造について概説できる ・主な骨格と解剖学的名称を理解できる ・骨の成長のメカニズムを概説できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
3	〈筋と運動〉				・筋の形状と分類、筋の構造を説明できる ・体の各部位の筋系について概説できる ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる ・心筋の構造と収縮のメカニズムを説明できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
4	〈消化・吸収〉 消化・吸収 1				・消化器のそれぞれの解剖的位置と基本構造を理解し説明できる ・小腸壁の組織学的な理解ができる ・それぞれの器官の分泌物の機能を理解できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
5	〈消化・吸収〉 消化・吸収 2				・消化器運動とその調節機能を説明できる ・それぞれの消化器官・臓器の機能について説明できる ・それぞれの器官の消化酵素の働きと栄養素の吸収について理解し説明できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
6	〈循環〉 血液 1 血液 2				・動脈・静脈及び毛細血管の構造を理解し説明できる ・肺循環・体循環における血管系を説明できる ・血管の機能、血圧の調整を理解し説明できる ・血液成分の組成とその機能を説明できる ・血液の凝固の機序を理解し説明できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		

回	授業計画	到達目標	準備学習
7	〈循環〉 血液 2 心臓の構造と機能 心臓の活動と心電図	<ul style="list-style-type: none"> 心臓の解剖学的構造について理解できる 心臓の血管について理解できる 心筋の拍動のコントロールを理解できる 心電図の波形の意味を理解できる 刺激伝導系と心電図、心臓の筋肉の活動について理解できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
8	〈循環〉 動脈系・静脈系 胎児循環 リンパ系	<ul style="list-style-type: none"> 主な動脈・静脈の走行と解剖学的名称を理解し説明できる 門脈系とその機能が説明できる リンパ系の概要とその機能を説明できる 胎児循環の特徴を理解できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
9	〈感 覚〉	<ul style="list-style-type: none"> 感覚の基本的性質について理解できる 皮膚の感覚装置について概説できる 特殊感覚器(視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器)の構造を概説できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
10	〈感 覚〉	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚の感覚装置について概説できる 特殊感覚器(視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器)の構造を概説できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
11	〈神経系〉 神経系の構成と機能 脳と脊髄	<ul style="list-style-type: none"> 神経系の構成を理解できる 神経系の基本的機能について理解し説明できる 神経細胞の興奮と伝導の仕組みを理解できる 脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳)と脊髄の解剖学的位置を理解し説明できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
12	〈神経系〉 脳と脊髄 中枢神経系 末梢神経系	<ul style="list-style-type: none"> 大脳の機能局在について説明できる それぞれの器官における中枢の機能を理解できる 脳脊髄膜の構造と機能について理解できる 脳の血管を理解できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
13	〈神経系〉 末梢神経系 自律神経 求心性、遠心性伝導路	<ul style="list-style-type: none"> 末梢神経系の分類と解剖学的分布を理解し説明できる 神経の種類、脊髄神経の走行分布を理解できる 自律神経の特徴を理解できる 上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
14	〈神経系〉 求心性、遠心性伝導路 反射と随意運動	<ul style="list-style-type: none"> 上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる 運動ニューロンの構成、反射、姿勢調節について理解し概説できる 反射のメカニズムについて理解し概説できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
15	〈呼吸〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器の構成と構造を理解できる 胸郭の構造を理解できる 呼吸の中枢と調節について理解し説明できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
16	〈呼吸〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系の生理学的意味について理解できる 血液中のO₂とCO₂の運搬について理解できる 呼吸の調節のしくみを理解し説明できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
17	〈腎機能と排尿〉	<ul style="list-style-type: none"> 汗腺、泌尿器、腎臓の解剖学的構造などについて理解し説明できる 尿生成のメカニズムについて理解し説明できる 排尿のしくみを理解できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
18	〈臨床検査〉 ・肝機能検査 ・腎機能検査 ・糖尿病検査 ・代謝・内分泌疾患の検査	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの臓器の構造を理解できる 糖代謝のメカニズムを説明できる 検査の種類を理解できる 検査の意義を理解できる 	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習

回	授業計画	到達目標	準備学習
19	〈内分泌〉	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌器官の名称と解剖学的位置について理解できる ・内分泌器官から分泌されるホルモン、その作用機序について理解できる ・血中カルシウムや血糖値を調節するしくみを理解できる 	配布プリント、moodleのスライド画像復習
20	〈生殖〉	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、女性 生殖器の構造と生殖に関わるホルモンについて理解できる ・分娩と乳汁分泌に関わるホルモンについて理解できる ・性周期と体温変化について説明できる 	配布プリント、moodleのスライド画像復習
21	〈体温〉	<ul style="list-style-type: none"> ・体熱の産生機序、体温放散などの調節メカニズムを理解できる ・体温の調節を理解できる ・体温の変動について理解できる 	配布プリント、moodleのスライド画像復習
22	解剖・生理学概論～〈循環〉 復習・後期試験対策 国家試験問題	・概論～循環まで要点を復習します	配布プリント、moodleのスライド画像復習
23	〈感覚〉～〈体温〉 復習・後期試験対策 国家試験問題	・感覚～体温まで要点を復習します	配布プリント、moodleのスライド画像復習

基本情報

学科目名	組織発生学	分野	専門基礎分野[人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能]	講師名	今村妃花
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科勤務。				
授業との 関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から細胞の性質や組織の機能について講義する。				

詳細情報

授業目標	組織・発生学を学ぶことにより、正常組織・構造を理解し、臨床の場で正常、異常を判断し患者様やスタッフに説明できるようにする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	0点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	0点	合計	100点
	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 他 医歯薬出版株式会社									
参考文献	「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 井出吉信著 医歯薬出版KK									
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクター									
履修上の 注意	各授業の確認テスト(小テスト)を次週の授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	細胞①	①細胞の基本構造を説明することができる。 ②細胞の構成体の各機能を説明することができる。		
2	細胞②	細胞の増殖と寿命について理解し、説明することができる。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	
3	組織①	組織を4つに分類し、それぞれの特徴を説明することができる。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	
4	組織②	それぞれの組織の特徴を説明することができる。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	
5	発生①	①染色体と減数分裂を説明することができる。 ②精子と卵子の発生を説明することができる。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	
6	発生②	胚葉の形成とそれぞれの胚葉から分化する主な器官と組織について、説明することができる。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	
7	発生③	①歯の発生について説明することができる。 ②胎児の成長と発育について説明することができる。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	
8	発生④ まとめ	①顎裂など先天性奇形について説明することができる。 ②鰓弓について説明することができる。 ③まとめ。	確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。	

基本情報

学科目名	口腔解剖口腔生理学	分野	専門基礎分野[歯・口腔の構造と機能]			講師名	矢毛石 玲		
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義	単位数	3単位	45時間	授業回数	23	
教員の 実務経験	歯科医師。久留米大学医学部解剖学講座・肉眼・臨床解剖学部門入局、歯科診療所院長。								
授業との 関連性	大学医学部解剖学講座での研究や臨床歯科医としての経験を踏まえ、口腔の解剖やしぐみについて講義する。								

詳細情報

授業目標	口腔とその周囲組織の基本的な構造と機能を理解し説明できる。 (行動目標):口腔は全身の一部である事を忘れずに系統立てて理解する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著他 医歯薬出版Kk									
参考文献										
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクタ、スクリーン、ムードル									
履修上の 注意										

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	口腔解剖学総論	消化器系の入り口としての口腔およびその周囲の解剖学的構造の概要を理解し説明できる。		骨格標本
2	口腔付近の解剖	口腔の範囲と機能および各部の名称を説明できる。	P3～P11の予習	
3	口腔を構成する骨	頭蓋を構成する骨を説明できる。	P11～P15の予習	頭蓋模型
4	口腔を構成する骨	口腔を構成する骨を説明できる。	P16～P26の予習	頭蓋模型
5	頭頸部の筋と作用	表情筋の働きと構成を説明できる。	P26～P28の予習	
6	頭頸部の筋と作用	咀嚼筋の働きと構成を説明できる。	P29～P30の予習	
7	頭頸部の筋と作用	頸部の筋について説明できる。 顎関節について説明できる。	P31～P37の予習	
8	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する動脈系について説明できる。	P38～P44の予習	
9	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する静脈系およびリンパ系について説明できる。	P44～P49の予習	
10	神経系	脳神経の働きと名称および分布について説明できる。 三叉神経の分布と機能について説明できる。	P49～P54の予習	頭蓋模型
11	神経系	顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の分布と働きについて説明できる。	P54～P59の予習	頭蓋模型
12	神経系	頭頸部に分布する脊髄神経について説明できる。 自律神経について説明できる。	P59～P61の予習	頭蓋模型

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
13	歯と口腔の感覚	歯と口腔粘膜の感覚について説明できる。	P192～P199の予習	
14	味覚と嗅覚	味覚について説明できる。	P200～P212の予習	
15	味覚と嗅覚	嗅覚について説明できる。	P200～P212の予習	
16	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位と下顎の運動について説明できる。	P213～P219の予習	頭蓋模型
17	咬合と咀嚼・吸啜	顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜について説明できる。	P219～P232の予習	頭蓋模型
18	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐に関わる構造について説明できる。	P233～P247の予習	
19	嚥下と嘔吐	摂食嚥下の流れとその概要について説明できる。 嘔吐について説明できる	P233～P247の予習	
20	発声	発声と発声に関わる構造および仕組みについて説明できる。	P248～P259の予習	
21	唾液	唾液腺の種類と解剖学的な位置および機能について説明できる。	P260～P270の予習	
22	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。	確認テスト&解説	
23	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。	確認テスト&解説	

基本情報

学科目名	歯牙解剖学	分野	専門基礎分野[歯・口腔の構造と機能]			講師名	河端憲彦		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。福岡大学病院歯科口腔外科入局、歯科診療所院長。								
授業との 関連性	大学病院歯科口腔外科など臨床歯科医としての様々な経験を踏まえ、歯牙の構造や特徴、役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	何が基礎なのかを理解し、応用力を身につける。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	20点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	*小テスト[当日授業内容が対象の小テストを各回ごとに行う。6割[平均点による]以上で1回につき4点を定期試験に加算] (学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著他 医歯薬出版Kk									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物	ipadにて講義。HDMIケーブルとプロジェクターを用意してください。									
履修上の 注意	授業中は私語を慎み、他人に迷惑をかけない。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	◆歯の各部の名称◆歯の表示法◆歯の用語 ◆根管の形態◆ミュールライターの三徴候				歯の表示法や記号について説明できる。 歯の専門用語が使える。 歯の左右、近遠心、頬舌の識別ができる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
2	◆永久歯との比較による乳歯の形態学的特徴 ◆乳歯の形態学的特徴 上下顎重中切歯・上下顎乳側切歯・上下顎乳 犬歯 上下顎第一乳臼歯・上下顎第二乳臼歯				乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明でき る。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
3	◆永久歯の形態学的特徴 上下顎中切歯・上下顎側切歯・上下顎犬歯 上下顎第一小臼歯・上下顎第二小臼歯				歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
4	◆永久歯の形態学的特徴 上下顎第一大臼歯・上下顎第二大臼歯・上下顎 第三大臼歯				乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明でき る。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
5	◆特色ある歯の形態 ◆咬合と歯列				歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 歯列と咬合について説明できる。 歯の萌出と交換を説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
6	◆歯と歯周組織の発生 ◆口腔内の加齢変化 ◆口腔粘膜の感覚				歯の発生の概要を概説できる。 口腔粘膜の感覚の変化を概説できる。 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化 を説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
7	◆歯の構造と機能 エナメル質・象牙質・歯髄				歯の構造と機能について説明ができる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
8	◆歯周組織の構造と機能 セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉				歯周組織の構造と機能について説明ができ る			該当項目の教本を読 んでくる。		

基本情報

学科目名	生化学口腔生化学	分野	専門基礎分野[歯・口腔の構造と機能]			講師名	中山穂香	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科勤務。							
授業との 関連性	大学病院歯科口腔外科での様々な研究や治療を踏まえ、生体やう蝕、歯周病のしくみについて講義する。							

詳細情報

授業目標	口腔内を中心に生体内の生命現象を生化学的に理解する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	0点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	0点	合計	100点
	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」高橋信博著 他 医歯薬出版株式会社									
参考文献										
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクター、									
履修上の 注意	各授業の確認テスト(小テスト)を次週の授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。 必要な場合はご利用ください。									
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	生命活動の概要①			生体の構成要素について説明できる。						
2	生命活動の概要②			生体内でおこる化学反応について説明できる。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			
3	口腔組織の生化学 ー歯周組織ー			歯周組織について説明できる。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			
4	口腔組織の生化学 ー歯・骨ー			歯と骨について生化学的に説明できる。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			
5	口腔組織の生化学 ー唾液ー			唾液について生化学的に説明できる。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			
6	口腔組織の生化学 ーう蝕ー			う蝕について生化学的に説明できる。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			
7	口腔組織の生化学 ー歯周病ー			歯周病について生化学的に説明できる。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			
8	総復習			今まで学習したことを整理する。			確認テスト(小テスト)を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。			

基本情報

学科目名	病理学	分野	専門基礎分野[疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	古田 洋介		
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。								
授業との 関連性	臨床歯科医師としての様々な診察、治療の経験から病的な機能変化について講義する。								

詳細情報

授業目標	病理学の基本的な考え方や要点を国家試験及び実際の臨床現場に活かせることを目標とする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<p>(学則)</p> <p>合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。</p> <p>追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。</p> <p>欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者</p> <p>受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」仙波伊知郎著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	新歯科衛生士教本(第2版)病理学 (医歯薬出版)									
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクター									
履修上の 注意	授業に集中し、しっかりノートを取り、試験前に見てすぐ理解できるようにしておくこと。 専門用語は覚えるしかない。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	病理学序論と病因論				①疾病の経過について説明できる。 ②脳死について説明できる。 ③内分泌疾患の代表例について説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
2	遺伝性疾患と奇形				①染色体、テロメアについて概説できる。 ②遺伝性疾患の代表例について説明できる。 ③染色体異常の代表例について説明できる。 ④奇形の発症と原因について説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
3	循環障害				①循環障害についてその種類と各々の定義について概 説できる。 ②血栓症、塞栓症について説明できる。 ③動脈硬化症について概説できる。 ④側副循環について説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
4	代謝障害と退行性病変				①細胞傷害の転帰とその種類について各々列記でき る。 ②変性の各種について列記できる。 ③萎縮の各種について列記できる。 ④壊死とアポトーシスの違いを説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
5	増殖と修復				①肥大の種類について概説できる。 ②化生の定義と代表例について説明できる。 ③細胞の再生能について列記でき代表例について説明 できる。 ④創傷治癒、異物処理について分類、説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
6	炎症				①炎症の定義について説明できる。 ②炎症の経過について説明できる。 ③炎症に関連する細胞を列記、各々を説明できる。 ④急性と慢性の炎症の経過について特徴を説明でき る。 ⑤炎症の分類とそれぞれの状態について説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
7	免疫応答異常				①免疫応答について説明できる。 ②液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 ③免疫応答の経時的変化について説明できる。 ④アレルギーの分類と各々について概説できその各々 の代表例を列挙できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		
8	腫瘍				①腫瘍の定義について説明できる。 ②腫瘍の原因、発声機序について説明できる。 ③腫瘍の種類とその代表例を列記できる。 ④良性と悪性の違いを列記できる。 ⑤前がん病変について説明できる。			該当項目の教本を読 んでくる。		

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	口腔病理学	分野	専門基礎分野[疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	中山穂香		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科勤務。								
授業との 関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から、顎口腔領域疾患の原因、機能の変化などについて講義する。								

詳細情報

授業目標	口腔病理学を学び、病気のあり方を知る。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	20点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点 ;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験 ;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課 ;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」仙波伊知郎著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	「新口腔病理学」医歯薬出版KK									
使用設備・ 備品・準備 物	PC・プロジェクター									
履修上の 注意	配布するプリントを参照しながら、重要な点を説明します。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物について				歯の異常について説明できる			p70-87		
2	齲蝕と歯髄炎				齲蝕の分類、歯髄炎の分類ができる			p88-104		
3	歯周組織、歯根嚢胞や粘膜疾患				根尖性歯周炎の分類や歯根嚢胞を説明できる、粘膜疾患を理解する			p105-132		
4	嚢胞と腫瘍				嚢胞、腫瘍の代表的な疾患がわかる、病理像が区別できる			p133-145		
5	口腔癌、顎骨病変について				口腔癌や顎骨病変を説明できる、病理像がわかる			p146-160		
6	唾液腺の疾患				唾液腺の疾患を説明できる			p161-167		
7	口腔領域の奇形について				先天性疾患の理解			p168-173		
8	口腔組織の加齢変化、まとめ				口腔組織の加齢変化を説明できる			p174-180		

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	微生物学	分野	専門基礎分野[疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	山下 喜久	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の実務経験	歯科医師。九州大学名誉教授。九州歯科大学客員教授。日本口腔衛生学会 専門医・指導医・認定医。歯科基礎医学会 会員。日本細菌学会 会員。							
授業との関連性	日本口腔衛生学会専門医・指導医・認定医としてのさまざまな研究やこれまでの大学での講義や見識を踏まえ、感染症の原因となる病原菌の性状やその発症について講義する。							

詳細情報

授業目標	微生物の一般性状を理解し、完成成立の機序や感染予防に関する知識を習得する。さらに口腔領域における疾患(主にう蝕と歯周病)と口腔微生物の関係、その病態や発症のメカニズムを理解し、予防や治療に応用できる基礎力を養う。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」 木村重信著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	絵でわかる感染症 with もやしもん 岩田健太郎著 講談社									
使用設備・備品・準備物	プロジェクター									
履修上の注意	授業中の私語は固く禁じます。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	微生物学の概要 1)微生物学を学ぶ理由と必要性 2)微生物の種類と性質 3)微生物とヒトの生活との関連性							事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。		
2	感染 1)感染の成立 2)感染の種類							事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。		
3	微生物学総論 1)細菌 ・形態・構造・代謝・増殖・病原因子 2)ウイルス ・構造・増殖 3)真菌 ・構造・増殖							事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。		
4	微生物の培養、観察と検査 1)培養法 2)細菌の顕微鏡観察 3)微生物の検査法							事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。		
5	化学療法 1)化学療法薬 ・化学療法とは ・抗菌薬の種類 ・抗菌スペクトルと抗菌力の測定 ・薬剤耐性 ・副作用 2)ウイルスに対する化学療法 3)真菌に対する化学療法							事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。		
6	消毒と滅菌 1)定義 2)消毒法 ・煮沸消毒法 ・薬剤消毒法 ・温湯・熱湯消毒法 3)滅菌法 ・滅菌法の種類と機序 4)標準予防策(スタンダードプリコーション) ・感染症と院内感染対策							事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。		

回	授業計画	到達目標	準備学習
7	<p>口腔環境と常在微生物</p> <p>1) 微生物と口腔環境 ・唾液とペリクル ・歯肉溝滲出液 ・常在細菌叢</p> <p>2) 口腔常在微生物 ・プラーク・口腔レンサ球菌</p> <p>バイオフィルムとしてのプラーク</p> <p>1) 形成機序と成熟</p> <p>2) バイオフィルとバイオフィルム感染症</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
8	<p>う蝕の細菌学</p> <p>1) う蝕の発生機序</p> <p>2) う蝕原性細菌と病原因子</p> <p>3) 病因論に基づくう蝕予防法</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
9	<p>歯周病の細菌学</p> <p>1) 歯周病の分類と疫学</p> <p>2) 歯周病原細菌と病原因子</p> <p>3) 歯周組織の破壊機序</p> <p>4) 病因論に基づく歯周病予防法</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
10	<p>主な病原性細菌</p> <p>1) グラム陽性球菌</p> <p>2) グラム陽性桿菌</p> <p>3) グラム陰性球菌</p> <p>4) グラム陰性桿菌</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
11	<p>主な病原性細菌</p> <p>5) スピロヘータ</p> <p>6) マイコプラズマ</p> <p>7) クラミジア属</p> <p>8) リケッチア属</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
12	<p>歯科に関連するウイルスとウイルス感染症</p> <p>1) DNAウイルス</p> <p>2) RNAウイルス</p> <p>3) レトロウイルス</p> <p>4) 肝炎ウイルス</p> <p>歯科に関連する真菌</p> <p>1) 真菌の構造と特徴</p> <p>2) 口腔カンジダ症</p> <p>3) 深在性真菌症 アスペルギルス属</p> <p>4) 表在性真菌症 トリコフィトン属</p> <p>口腔領域の原虫、プリオン</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
13	<p>免疫</p> <p>1) 免疫の仕組み</p> <p>2) 生体のバリア機構</p> <p>3) 自然免疫</p> <p>4) 抗原提示</p> <p>5) 獲得免疫</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
14	<p>免疫</p> <p>6) 能動免疫と受動免疫</p> <p>7) 粘膜免疫</p> <p>アレルギー</p> <p>1) I型アレルギー</p> <p>2) II型アレルギー</p> <p>3) III型アレルギー</p> <p>4) IV型アレルギー</p> <p>免疫に関連する疾患</p> <p>1) 免疫寛容と自己免疫疾患</p> <p>2) 免疫不全</p> <p>3) 移植免疫</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。
15	<p>全体のまとめ</p>		事前配布資料に受講前に目を通し、予め疑問点を明確にしておくこと。

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	口腔衛生学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」保健生態学			講師名	新谷 泰之	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科医師。麻生ビューティーカレッジ、九州医療スポーツ専門学校、九州医療専門学校非常勤講師。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	臨床歯科医師、専門学校非常勤講師としての経験を踏まえ、歯・口腔の健康と予防の基礎、う蝕・歯周疾患の発生機序、予防手段について講義する。							

詳細情報

授業目標	国家試験に合格する学力を身につける。卒業後の臨床現場で戸惑わない基礎学力を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点 ;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験 ;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課 ;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 可児徳子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	「歯科衛生士国家試験問題集」 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3」「保健情報統計学」 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意	教科書をもとにプロジェクターを使用して講義を行います。教科書の範囲は先に読んでおくとよいでしょう。									
回	授業計画				到達目標				準備学習	
1	教科書P92-118 1章 総論 ①				①健康の定義 について理解する ②予防の定義 について理解する ③歯・口腔組織の構造および名称を覚える					
2	教科書P92-118 1章 総論 ②				①だ液の機能を理解する ②歯の石灰化及び萌出時期を覚える。 ③五大栄養素やが口腔形成に及ぼす影響を理解する。 ④口腔の形成異常について理解する。					
3	教科書P92-118 1章 総論 ③				①咀嚼・嚥下について理解する。 ②誤嚥性肺炎について理解する。 ③口腔と全身の健康(歯周病と糖尿病、早産)について理解する。					
4	教科書P92-118 1章 総論 ④				①プラークの生態について深く理解する。 ②ペリクルと細菌の付着機構について理解する。 ③バイオフィルムの概念を十分に理解する。 ④歯石について理解する。 ⑤S.mutansとGTFの関係を理解する。					
5	教科書P119-125 2章 歯科疾患の疫学 保険統計学第1回				①う蝕・歯周病等の疫学を概説する。 ②う蝕発生のメカニズムを脱灰のキーワードで理解する。 ③う蝕発生要因の宿主と歯、口腔細菌、発酵性糖質の関係性を理解する。 ④保健統計学 国家試験に関係する知識					
6	教科書P140-185 4章及び5章 う蝕の予防 ①				①う蝕感受性が高い年齢と性別、歯種と歯面、唾液の緩衝能について理解する。 ②ミュータンスレンサ球菌のう蝕誘発性を3つ挙げられる。 ③ステファンカーブを理解する。 ④各う蝕活動性試験の検体と評価内容を覚える。					
7	教科書P140-185 4章及び5章 う蝕の予防 ②				①う蝕発生の第1～3次予防を理解する。 ②発生要因に対する予防法を理解する。 ③MI(Minimal Intervention)について理解する。 ④日本のフッ化物応用の歴史と現状を理解する。 ⑤フッ化物の摂取量とその基準をはっきりと覚える。					

回	授業計画	到達目標	準備学習
8	教科書P140-185 4章及び5章 う蝕の予防 ③	①フッ素の代謝を理解する。 ②急性毒性、致死量をはっきりと覚える。 ③慢性毒性を理解する。 ④ppmと%の関係、フッ素濃度に関する基礎を学ぶ。 ⑤フッ化物歯面塗布の手法と溶液の種類を理解する。	
9	教科書P140-185 4章及び5章 う蝕の予防 ④	①フッ化物洗口について習熟する。 ②フッ化物の局所と全身応用について理解する。 ③フッ化物のう蝕予防機序を理解する。 ④ライフステージ別の新しいフッ化物応用法を学ぶ。 。	
10	教科書P186-197 6章 歯周疾患の予防	①歯周組織の構造を覚える。 ②歯肉炎と歯周炎の定義と分類を覚える。 ③歯周疾患の症状を知る。 ④歯周疾患の発生機序を理解する。	
11	教科書P186-197 6章 歯周疾患の予防	①ペリオドンタルメディスンを理解する。 ②歯周疾患の予防手段と処置を理解する。 ③歯周疾患のリスクファクターについて理解する。 ④定期的予防処置の重要性について理解する。	
12	教科書P198-211 7章 その他の疾患・異常の予防①	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。	
13	教科書P198-211 7章 その他の疾患・異常の予防②	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。	
14	保険統計学第2回	保健統計学 国家試験に関係する知識	
15	予備日	①授業は内容的に膨大で少しずつ遅れていくと考えられます。なので最終日に遅れ分を行う形となります。 ②内容もかなり多いので、質問等もこの日にお伺いし、答えていこうともいます。	

基本情報

学科目名	公衆歯科衛生学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」保健			講師名	正清 義朗	
履修学年	1年 後期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経	歯学博士。口腔衛生学会認定予防歯科医。九州環境福祉医療専門学校歯科衛生士科非常勤講師。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	口腔衛生学会認定予防歯科医師としての様々な研究や経験を踏まえ、地域歯科保健活動の枠組みや集団や行政レベルでの予防対策について講義する。							

詳細情報

授業目標	1. 地域社会で集団歯科保健指導をするうえで対象集団の特性を把握する。 2. 現在の日本と世界における地域歯科保健活動の枠組みと内容を知る。 3. 地域社会で活躍、貢献できる歯科衛生士となる知識を習得する。 4. 口腔の健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。 5. 国家試験に合格できるだけの知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
受験資格・単位認定は学則・細則に準じます。										

教科書名 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」 可児徳子著他 医歯薬出版KK

参考文献 厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)

使用設備・備

履修上の注意
 ・新聞をよく読み、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を
 考えること。
 ・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	第1章：地域保健・公衆衛生	①地域保健	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本
2	第1章：地域保健・公衆衛生	①ヘルスプロモーション ②ソーシャルキャピタル	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
3	第1章：地域保健・公衆衛生	①地域保健活動の進め方 ②ハイリスクアプローチとポピュレーションア プローチ	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
4	第1章：地域保健・公衆衛生	①地域歯科保健 ②保健福祉関係の施策 ③厚労省の健康づくり政策	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
5	第2章：母子保健	①母子保健の用語 ②母子保健の制度と政策 ③出生と死亡から考える母子保健の現状 と課題	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
6	第2章：母子歯科保健	①妊娠期 ②幼児期 1歳6か月健診と3歳児健診	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
7	第3章：学校保健	①学校病と学校における感染症 ②学校保健の行政における位置づけを知 る。 ③学校保健の活動を組織を理解する。 ④学校保健の疫学と意義を理解する。	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
8	第3章：学校歯科保健	①学校歯科健診	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
9	第4章：成人保健 第4章：成人歯科保健	①生活習慣病 ②悪性新生物 ③成人保健対策 ④特定健康診査の項目と標準値 ⑤成人期の歯科保健の現状 ⑥8020運動 ⑦歯周疾患検診	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
10	第5章：産業保健 第5章：産業歯科保健	①産業衛生法規 ②職業性疾病 ③産業保健活動 ④健康診断の実施 ⑤職業性歯科疾患 ⑥特殊健康診断	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
11	第6章：老人保健	①老化とは ②老化に伴う病態 ③老人保健対策 ④介護保険 ⑤老人歯科保健	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
12	第7章：精神保健	①精神保健とは ②精神障害者福祉	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
13	第8章：国際保健	①世界における健康問題 ②国際協力 ③国際歯科保健	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリント
14	復習	地域保健～学校保健		保健生態学 教本 配布プリント
15	復習	成人保健～国際保健		保健生態学 教本 配布プリント

基本情報

学科目名	衛生公衆衛生学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」保健生態学			講師名	弘中 美貴子	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科医師。歯学博士。日本口腔衛生学会専門医。日本抗加齢医学会専門医。国立予防衛生研究所歯科衛生部元研究員、九州大学元共同研究員、熊本市役所元嘱託。熊本市医師会看護専門学校非常勤講師、歯科診療所副院長。							
授業との 関連性	行政機関での勤務、日本公衆衛生学会での学び、日本口腔衛生学会専門医、また日本抗加齢医学会専門医としての様々な臨床経験を踏まえ、健康を守るための基礎的な知識や社会制度と社会の出来事が健康に与える影響について講義する。							

詳細情報

授業目標	1. 健康とは何か。日本と世界の健康の現状を知る。 2. 健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、個人レベルでの予防と集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。 3. 将来、自分と家族の健康をまもっていくための基本的知識と社会制度を習得する。 4. 国家試験に合格できるだけの知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	(10)点	実技・発表 ワーク(演習) など	(10)点	受講態度	(10)点	合計	100点
	*Moodleの小テストの履修状況と評定、グループ発表の内容やパフォーマンスを総合的に勘案して評価。また、追試験や再試験の受験はすべてのMoodle小テストで10.0の評価になっていることを要件とする。 (学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。追再試験受験時にはMoodleのテストをすべて満点になるまで履修することを要件とする。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」医歯薬出版									
参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)									
使用設備・ 備品・準備 物	講師が資料や文献を置く長机、PC・プロジェクター 学生はMoodleの小テストを受験できる端末を必ず用意すること。									
履修上の 注意	・新聞やニュースをチェックし、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。ネットニュースでも良い。 ・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。 ・Moodle上の小テストは繰り返し実施し全問正解になるまで履修すること ・毎回、Moodleを利用するので端末を必ず準備し、Moodleに接続すること									
必要な場合はご利用ください。										
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	第1章:総論 Moodle導入 小テスト(1)を実施する 宿題:難病			①健康の概念を理解する。 ②プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの概要を説明できる。 ③予防医学と予防の段階を説明できる。					常に端末を持参し、Moodleに入っておく(スマートフォンでも可)	
2	第2章:疫学			①疫学とは何か説明できる ②難病といわれる疾病の存在を覚える。			宿題:指定された難病について調べる。みんなのを合わせて1冊にする 小テストを実施するので、前回の復習をしておく。			
3	第2章:疫学(2) 小テスト(2)			①罹患率と有病率を理解する ②疫学の方法と疫学研究における倫理的配慮がわかる						
4	第3章:人口(1)			①動態統計と静態統計の違いを理解する。 ②人口統計と統計用語を理解する。 ③出生・死亡の統計を理解する。			小テストの成績が全体的に悪い時は講義の最初に再び実施する		前回の小テストを復習しておく	
5	第3章:人口(2) 小テスト(3) グループ発表の準備をする			①生命表を理解し平均寿命について説明できる。					パソコン(グループ発表のための調べ学習と資料作りに使用する)	
6	第4章:環境(1) 宿題:グループ学習(環境)			①概念 ②空気と水 ③放射線					作製した資料がプロジェクターに投影できるよう確認しておく	
7	第4章:環境(2)グループ学習の発表			地球環境と公害			グループごとに学習したことをプレゼンテーションする		作製した資料がプロジェクターに投影できるよう確認しておく	
8	第4章:環境(3)グループ学習の発表			①まとめ ②廃棄物処理			グループ発表を評価する		作製した資料がプロジェクターに投影できるよう確認しておく	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
9	第5章:感染症(1)	①感染症の用語を覚える ②感染症の分類と分類された感染症を覚える。 ③感染症の予防と対策を知る。		
10	第5章:感染症(2) パワーポイント	①感染症に分類された病気について詳しく理解する。		
11	第5章:感染症(3) まとめ 小テスト(4)	①ニュースになった感染症を新聞記事で履修する ②予防接種 ③感染症についての理解を深める		
12	小テスト(5) 第6章:食品と健康	①食品衛生 ②食中毒の疫学、分類、原因を理解する。 ③妊婦が注意しなければいけない食の安全について。		
13	Ⅲ. 第7章:精神保健(1) 宿題:精神保健	①精神保健の意義を知る。 ②心の健康と行動を理解する。 ③精神保健対策の法律を理解する。 ④虐待について知る。	精神保健に興味あることを選択する	
14	Ⅲ. 第7章:精神保健(2) 学習の発表 全体の総括	①精神障害の分類と特性、病態を理解する。 ②発達障害の分類と特性を理解し、対応を考える。 ③最重要ポイントを再確認する。	選択した項目についてレポートを提出し、最も分かりやすいと思われるレポート提出者のプレゼン	
15	まとめ学習 わかりにくかったところを重点的に	①疫学 ②人口統計 ③感染症の分類などを予定	期末試験の準備学習をする	

基本情報

学科名	歯科衛生学 I	分野	専門分野[歯科衛生士概論]					
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15

講師名	野中友紀子	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院教務主任。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。					
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおり、歯科衛生学について講義を行い、歯科衛生士法における法的業務と歯科衛生士の社会的使命や倫理観、活躍の場面について講義や演習を行う。また歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の演習を行う。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生学の定義、歯科衛生士法における法的業務を理解し、国家資格である歯科衛生士の社会における役割を理解する。また歯科衛生学について理解を深め、医療専門職としての認識を持ち、さらに科学的根拠をもって歯科衛生活動を展開するためのツールである歯科衛生過程の概要を理解することができる。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート (症例)	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	減点 対象	合計	100点
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	1. 「歯科衛生士のための高齢者とのグッドコミュニケーション」中村千賀子著 医歯薬出版 2. 「生活の医療」大久保満男著 中央公論新社 3. 歯科衛生学シリーズ「心理学」医歯薬出版 4. 歯科臨床における心理・行動科学的アプローチ 医歯薬出版									
使用設備・ 備品・準備 物	使用設備：PC、プロジェクター、付箋紙									
履修上の 注意	授業中は話している内容を聞きながら記録をとるようにしてください。 配布資料は毎回持ち帰しておくこと。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
前期 1	医療専門職になるにあたり 入学前オリエンテーション内容復習 序章 歯科衛生学を学ぶにあたって 1. 歯科衛生士は何をする専門職 2. 歯科衛生学を学ぶ目的 1章 歯科衛生学とは 1. 歯科衛生の定義 2. 歯科衛生実践 3. 歯科衛生学の体系化	1. 歯科衛生士になるための心構えが理解でき習慣的に実践する意識を養うことができる。 2. 歯科衛生の定義を概説できる 3. 歯科衛生学を概説できる 4. 歯科衛生士の専門性を概説できる 5. チーム医療の定義と必要性を概説できる 6. 歯科衛生の実践を概説できる 7. 歯科衛生学の体系的内容を概説できる	入学前OR資料の復習を行う	教科書
2	2章 歯科衛生の歴史と現況 1. 歯科衛生の誕生と経緯 2. 歯科衛生の養成教育 3. 歯科衛生実践の現況	1. 歯科衛生の歴史を説明できる。 2. 歯科衛生士業務の変遷を概説できる。 3. 歯科衛生の養成教育について説明できる 4. 歯科衛生実践の現況を概説できる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。穴埋め課題レポート有。	教科書
3	3章 歯科衛生と健康 1. 健康の考え方	1. 健康と予防の定義を概説できる 2. 口腔健康管理の意義を説明できる 3. 健康づくりを支援する歯科衛生士の役割を説明できる 4. 「疾病」と「病気」の違いを説明できる 5. ヘルスプロモーションの考えを概説できる 6. 口腔保健に関する行動計画を概説できる 7. 健康日本21の目的を説明できる 8. 健康観、クライマンの解釈モデルを概説できる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	教科書
4	3章 歯科衛生と健康 2. 生活習慣と健康 3. 健康増進への関与	1. 生活習慣と健康のかかわりを説明できる 2. わが国の歯科疾患の状況を概説できる 3. 介護における現況を概説できる 4. 生活習慣病予防について概説できる 5. 市町村での健康増進事業を概説できる 6. 特定健康診査・特定保健指導の違いを説明できる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	教科書
5	4章 歯科衛生士法と関係する法規 1. 歯科衛生士法の目的 2. 歯科衛生士の業務 1) 歯科予防処置 2) 歯科診療補助 3) 歯科保健指導 3. 業務独占と名称独占 4. 業務上の義務 5. 関係法規 6. 法的責任と制度	1. 歯科衛生士法を説明できる 2. 歯科衛生士法に基づく歯科衛生士の業務を概説できる 3. 業務独占と名称独占を説明できる 4. 歯科衛生士の社会的責任について説明できる。	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	教科書

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
6	4章 歯科衛生士法と関係する法規 1. 歯科衛生士法目的 2. 歯科衛生士の業務 1) 歯科予防処置 2) 歯科診療補助 3) 歯科保健指導 3. 業務独占と名称独占 4. 業務上の義務 5. 関係法規 6. 法的責任と制度	1. 「歯科医師の指導の下に」の意味が説明できる。 2. 独占業務(第2条)について説明できる。 3. 歯科予防処置としての歯石除去と歯科診療補助業務としての歯石除去の違いが説明できる。 4. 歯科診療「補助」と「介助」の違いが説明できる。 5. 絶対的歯科医行為と相対的歯科医行為が説明できる。 6. 業務記録の意義を説明できる 7. 歯科衛生士免許とその取り消し項目を説明できる 8. 歯科衛生士法と関連する法規を説明できる 9. 民事責任と刑事責任の違いを述べることができる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	復習 小テスト
7	第8章 医療安全確保における歯科衛生士の役割 1. 医療安全に関する法律 2. 安全管理の必要性 3. 感染予防対策※ ※1年後期感染予防学にて学修	1. 医薬品安全管理責任者の職種を説明できる 2. 医療機器安全管理責任者の職種を説明できる 3. 医療安全管理における歯科衛生士の役割を説明できる 4. 医療事故の発生要因と防止策を説明できる 5. 感染予防対策の必要性を説明できる 6. インシデントとアクシデントを説明できる 7. ヒューマンエラーと医療事故について要点を説明できる 8. スタンダードプリコーションの説明ができる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	
8	9章 保健・医療・福祉の制度と多職種連携 1. 歯科衛生士活動の特徴 2. 歯科衛生活動に関連する制度・法律 3. 地域包括ケアシステム 4. 歯科衛生士の実践的な活動領域と役割 10章 災害時における歯科衛生活動 1. 災害歯科衛生の概念と行動 2. 災害歯科保健医療活動※ ※詳細は2年地域歯科保健活動Ⅱにて学修	1. 保健・医療・福祉の意味を説明できる 2. 歯科衛生活動に関連する制度を概説できる 3. 地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 多職種連携の必要性を説明できる 5. 歯科衛生士の活動領域を想定できる 6. 保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。 7. 大規模災害時の保健医療対策を概説できる 8. 被災地での歯科保健活動を概説できる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	
9	11章 歯科衛生士の国際化 1. 国際活動の意義 2. 健康と歯科保健の世界的課題 3. 国際保健医療協力の仕組み 12章 組織活動 13章 キャリア形成 1. キャリア形成の必要性と方法 2. 生涯学習	1. 国政活動の意義を説明できる 2. 世界の口腔に関する課題を説明できる 3. 国際保健を担う国際機関の種類と活動を概説できる 4. 歯科衛生士の職能団体の役割を説明できる 5. 公益社団法人について説明できる 6. 歯科衛生士に必要なキャリア形成を説明できる 7. 卒後研修の重要性を説明できる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	
10	13章 キャリア形成 3. 歯科衛生研究 第5章 歯科衛生士と倫理 1. 倫理の必要性 2. 歯科衛生士の倫理綱領 ※5章は医療倫理でも学修	1. 歯科衛生研究の必要性を説明できる 2. 歯科衛生研究の一連の流れを概説できる 3. 歯科衛生士の倫理綱領について説明できる。 4. 倫理綱領の必要性を説明できる 5. 歯科衛生士の倫理綱領を用いて事例検討ができる 6. 他者と協働し演習に取り組むことができる	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	
11	6章 歯科衛生実践のための理論的根拠 1. 理論の活用法 2. 健康行動理論 3. ヒューマンニーズ理論 ※1年前期心理学との関連	1. 歯科衛生士に必要な理論を概説できる ①理論的思考②概念モデル③批判的思考④EBM ⑤NBM⑥ICF 2. 健康行動理論について概説できる ①健康信念モデル②プリシード・プロシードモデル ③変化のステージモデル④自己効力感⑤動機付け面接 3. ヒューマンニーズ理論について概説できる ①マズローの欲求階層説②ヒューマンニーズ概念モデル	教本の講義に関連する章を読んでおいてください。	Moodle活用 状況に応じて、各自PC を持参し、 資料を閲覧 しながら聴 講してください。
12	7章 歯科衛生実践の展開 1. プロフェッショナリズム 2. 歯科衛生過程 1) 歯科衛生過程とは 2) 歯科衛生過程の基盤となる考え方 3) 問題解決思考 4) リフレクション 5) 歯科衛生過程6つの構成要素	1. 歯科衛生士のプロフェッショナリズムについて概説できる 2. 歯科衛生過程を活用する意義を説明できる 3. 歯科衛生過程における理論を列挙できる 4. 問題解決思考を用いて日常の問題解決法を検討することができる 5. リフレクションの目的と意味を説明できる 6. 歯科衛生過程の構成要素を概説できる	教本の講義に関連する章を読んでおいてください。	Moodle活用 状況に応じて、各自PC を持参し、 資料を閲覧 しながら聴 講してください。
13	7章 歯科衛生実践の展開 1. 情報収集と分析方法1 POS理論とその応用 模擬症例を用いSOAPを実施 症例:佐藤詩音 資料1~3 症例を読み込み個人ワーク	1. 歯科衛生過程の流れに沿って症例検討ができる ①模擬症例のSOデータを読み込むことができる。 ②模擬症例のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 2. 期限までに成果物を提出できる	主要三教科で今までに学んだ項目をふまえて検討。	
14	7章 歯科衛生実践の展開 情報収集と分析方法2 POS理論とその応用 模擬症例を用いSOAPを実施 症例検討→個別評価対象(10点分)	1. 歯科衛生過程の流れに沿って症例検討をすることができる ①情報を分析・統合することができる ②問題点と原因を考えることができる。 ③歯科衛生介入計画を立案することができる。 2. 症例についてクリティカルシンキングで検討ができる 3. 期限までに成果物を提出できる	配布した症例について基本的内容を調べてください。	
15	7章 歯科衛生実践の展開 症例発表① まとめ(佐藤詩音)	1. 模擬症例の情報と問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。	配布した症例について基本的内容を調べてください。	

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	歯科臨床総論	分野	専門分野[臨床歯科医学]			講師名	井上裕邦	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会理事。熊本歯科衛生士専門学校教務委員							
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療の経験を通して、歯科臨床総論の一連の流れについて講義する。							

詳細情報

授業目標	歯科診療所での日常、各ライフステージに関わる歯科臨床と歯科衛生士の関係など、歯科医療を担う一員となるための理解を深めることができるように、歯科衛生士の役割を自覚してもらう。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	0点	実技・発表ワーク(演習)など	0点	受講態度	マイナスポイント点	合計	100点
	受講態度が悪い場合は減点します。									
教科書名	「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」 石川達也著 医歯薬出版KK 「イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門」 対馬ゆか 他著 医歯薬出版KK									
参考文献	「歯科衛生士臨床のすべて(ベアシックパート)」Antonella Tani Botticelli 著 エルバ社									
使用設備・備品・準備物	プロジェクター									
履修上の注意	教科書、プリント、パワーポイントを用いて講義します。各講義で2人ずつプレゼンをしてもらいます。また、小テストとして国家試験過去問題を行います。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	オリエンテーション				職業倫理観・医療倫理観を述べるができる。					
2	歯科診療と歯科診療所における業務				歯科診療と歯科診療所における業務の概要を理解する。			予習(教科書 P.1~10,P.14~24)		
3	歯科診療所における安全管理				歯科における安全管理を理解する。			予習(教科書 P.11~13)		
4	診査、検査、小児歯科・矯正				診査、検査、小児歯科・矯正の概要を理解する。			予習(教科書 P.27~47)		
5	口腔外科・歯科保存				ライフステージと歯科治療(全身との関係)を理解する。			予習(教科書 P.48~67)		
6	歯周治療・歯科補綴				歯周治療・歯科補綴物の概要を理解する。			予習(教科書 P.68~85)		
7	障害者歯科・高齢者歯科・訪問歯科診療				障害者歯科・高齢者歯科・訪問歯科診療の概要を理解する。			予習(教科書 P.86~99)		
8	試験対策				教科書・国家試験過去問を用い、総括を行う。			予習(プリント、国家試験過去問)		

基本情報

学科目名	歯科予防処置法Ⅰ	分野	専門分野[歯科予防処置論]					
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	3単位	90時間	授業回数	45

講師名	大塚めぐみ	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							
講師名	西口 真美	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							

詳細情報

授業目標	(前期)口腔の2大疾患である「う蝕」と「歯周疾患」の予防の重要性を理解し、継続管理を行うために必要な知識、技術、態度を身につける。 (後期)予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために、必要な知識、技術を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	/点	実技・発表 ワーク(演習) など	/点	受講態度	/点	合計	100点
	項目ごと実技試験 (学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート) ③歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社 ④歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 ⑥歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社									
使用設備・ 備品・準備 物	当番は必要な準備物を授業開始3日前までに担当講師に確認をとること。									
履修上の 注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。資料はMoodleから確認することができます。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	(講義)Ⅱ編 1章 ①口腔・口腔周囲の構造②歯周組織 Ⅲ編 2章 ①口腔の器質的問題の把握 ②口腔の機能的問題の把握 口腔の基礎知識1 口腔の構造・歯周組織			口腔の構造、名称および歯式について理解する。			教本P16~27を予習しておく			
2	(講義)Ⅱ編 1章 ③歯冠と歯根の形態②口腔の機能 口腔の基礎知識2 歯周組織・口腔の機能			口腔の構造を理解したうえで、口腔の機能や摂食嚥下の流れの概要を理解する。			教本P16~27を予習しておく			
3	(講義)Ⅱ編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物			①口腔内の付着物、沈着物の種類と成分が説明できる。 ②プラークの形成過程と成分を説明できる。 ③歯石の形成過程と成分を説明できる。			教本P28~32を予習しておく			
4	(講義)Ⅱ編 2章 ②う蝕③歯周病			う蝕がどのように起こるのか、またう蝕の特性について理解する。 歯周組織を理解したうえで、歯周病とはどのような病気か、原因や進行のメカニズムを理解する。			教本P32~44を予習しておく			
5	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握 診査用具の把持法・使用方法(エキスポローラー・プローブ)			歯周診査用器材の使用法、特徴について理解する。			教本P108~119を予習しておく			
6	(講義)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング 手用スクレーラー・機械的スクレーラーの概要・把持法・基本操作			①各種スクレーラーの種類と使用目的を説明できる。 ②シクルスクレーラーの把持法を修得する。			教本P155~188を予習しておく			
7	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング シクルスクレーラー机上操作(前腕回転運動・手根関節運動)			シクルスクレーラーを用いて、前腕回転運動、手根関節運動の操作ができる。			教本P155~166を復習しておく			
8	(実技・演習)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング 基本設定 ポジショニングについて 人工歯石の取り扱い			①スクレーリング操作時のポジション・姿勢を理解することができる。 ②人工歯石を歯牙に的確に塗布することができる。			教本P155~188を予習しておく			

回	授業計画	到達目標	準備学習
9	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・ミラー操作	口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し、操作できる。	教本P161～163を予習しておく
10	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックルスケーリング1 前歯部	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。	教本P171～172を予習しておく
11	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックルスケーリング1 右側	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。	教本P173～176を予習しておく
12	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックルスケーリング1 左側	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。	教本P173～176を予習しておく
13	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックルスケーリング1 復習 ファントムシックルスケーリング 204SD取り扱い	各部位に適したポジションでスケーリングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。またシックルスケーラー204SDの特徴を理解し操作できる。	教本P171～176を予習しておく
14	(講義)本田貴子先生 信頼される歯科衛生士になるためのマナー コミュニケーションの4つの柱	歯科衛生士に必要なマナーを理解し身に付けることができる。	配布資料を予習しておく
15	(講義)本田貴子先生 動機づけの大切さ 患者観察 患者情報の収集	対象者の口腔内状況を把握し、情報の収集ができる。	
16	(講義)本田貴子先生 口腔内状況の伝え方 歯面研磨剤の選択方法 治療継続のためのポイント	対象者の口腔内状況を対象者に伝えることができる。 口腔内の状況に応じた歯面研磨剤を選択することができる。	
17	(実習)本田貴子先生 ファントム超音波スケーリング～PTC実習	超音波スケーラーを適切に歯面に当てることができる。 歯面に直角にカップを当て操作をすることができる。	
18	(演習)本田貴子先生 練習問題	これまでに履修した内容を確認することができる。	
19	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査1	患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。	教本P104～122を予習しておく
20	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査2歯周ポケット・動揺度・口臭	歯周組織の健康度を判断するための一助である各種歯周組織検査を理解し説明できる。	
21	(講義・演習)Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 位相差顕微鏡の基礎知識と取り扱いについて	①位相差顕微鏡の取り扱いが適切にできる。 ②位相差顕微鏡を用いて口腔内の状態を説明できる。	
22	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 示説・1人目	①患者の口腔内の健康状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察することができる。 ②相互にて実習し実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解できる。	教本P104～122を予習しておく
23	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 2・3人目	同上	
24	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーについて 超音波スケーラー・エアスケーラーでの偶発事故	各種スケーラーの特徴、使用方法、操作方法が説明できる。安心・安全に院内実習に取り組むことができるように、偶発事故の予防と対策について理解を深め説明できる。	
25	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーの取り扱い	超音波・エアスケーラーの基本的な取扱いが行えるように各々の特徴を理解し、セッティングができる。	
26	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セサメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 1人目	患者の口腔内の健康状況を把握するために、各種口腔内精密検査を相互にて実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解する。	教本P104～122を予習しておく
27	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セサメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 2人目	同上	
28	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セサメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 3人目	同上	

回	授業計画	到達目標	準備学習
29	(講義)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験とは	う蝕活動性試験の必要な知識について理解する。	教本P140～152を予習しておく
30	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験①	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい操作でテストを行うことができる。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができる。 ③患者に適した予防プログラムを立てることができる。	教本P140～152を予習しておく
31	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験②	同上	教本P140～152を予習しておく
32	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作1 (座位・各自)	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	教本P251～252を復習しておく
33	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作2 上顎	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	
34	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作3 下顎	同上	
35	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎	これまでに履修した口腔内洗浄、バキューム操作、ハンドスケーリングに超音波・エアスケーリングを加え、ファントムにて一連の流れを理解し操作ができる。	教本P177～188を予習しておく
36	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎	同上	
37	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラーの把持法、使用方法について	スケーリング・ルートプレーニングを確実に実践するためにキュレットスケーラーの特徴や使用目的を理解する。	教本P167～176を予習しておく
38	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポーリング・プロービング～キュレット操作 (挿入方法)	①キュレットスケーラーの部位別種類と特徴が判断できる。 ②キュレットスケーラーの挿入角度と操作角度の違いがわかり操作できる。 ③キュレットスケーラーの操作方法を説明し実施できる。	
39	(実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作1	キュレットスケーラーの特徴を把握し、各部位に合わせたスケーラーを選択し操作することができる。	教本P167～176を予習しておく
40	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作2	同上	
41	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作3	同上	
42	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作4	同上	
43	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作5	同上	
44	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作6	同上	
45	(講義) 歯科予防処置分野 まとめ 模擬試験解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる	-

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	保健指導法 I	分野	専門分野[歯科保健指導論]	講師名	岩切 恵子
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	2単位
教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院前教務主任。栄養コンシェルジュ二つ星。				
授業との 関連性	人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として健康づくりの為に食生活支援も行う。				

詳細情報

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい保健行動へと変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び地域歯科保健活動の中で対象者への適切な支援の実践ができるよう基礎知識、技術や健康に関する行動変容のあり方を学ぶ。また、自身の口腔健康管理も実践できるようになる。			
成績評価 方法	前期定期試験	100点	小テスト	点
	後期定期試験	95点	レポート	点
*後期試験のみグループ学習 他者評価5点満点				
(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者				
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」高阪利美 他著 医歯薬出版KK ②「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院 ③歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」藤原愛子著 医歯薬出版KK			
参考文献	授業の中で紹介します。			
使用設備・備 品・準備物	随時、授業中に連絡をします。			
履修上の 注意	単元ごとに復習問題を配布しますので次の授業までに必ず解答し持参すること。 医療に関する話題には興味を持ちチェックすること。 シラバスはあくまで予定であり皆さんの理解度によっても変更があります。			
回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	保健指導法を学ぶにあたって 歯ブラシポーチ内容物品の確認 I 編 総論 2章 歯科予防処置論・保健指導論で学ぶこと 1. 歯科衛生士法における歯科予防処置・歯科保健指導の位置づけ 2. 歯科衛生実践の進め方 3. 医療保険制度における歯科予防処置と歯科保健指導 4. 他職種が行う保健指導	1. 本講義を受講するにあたり心構えを持つ。 1. 購入した口腔衛生用具の名称を理解しつつ、不良品や欠品等がないか確認する。 1. 保健指導の必要性について説明できる。 2. 歯科保健指導が名称独占であることを説明できる。 3. 生活行動、保健行動、行動変容の言葉の意味を各々説明できる。 4. 個人を対象とする歯科保健指導を行うために必要な学びを理解できる。 5. 集団を対象とする歯科保健指導にどのような場面があるか説明できる。	関連ページを読んでおく。	歯ブラシポーチ一式 (物品確認のため)
2	前回の簡単な復習 以下は他学科目でも履修するため簡単に触れる I 編 総論 1章 予防の概念と我が国の健康施策 1. 予防の概念 2. わが国の健康推進施策 ①健康日本21 ②健康教育	1. 予防の概念について分類し説明できる。 2. 健康日本21の基本的方針について考え方を学ぶ。 3. ヘルスプロモーションの定義を説明できる。 4. 口腔健康管理の概念を説明できる。 5. 口腔ケアと口腔健康管理の違いを説明できる。	関連ページを読んでおく。	
3	Ⅲ編 歯科予防処置・歯科保健指導各論 4章 ④食生活の指導 ※栄養素の役割、働き、消化吸収については「栄養指導」で履修する 1. 食品とう蝕誘発性 1) う蝕は食生活習慣病 2) 糖質、スクロースとう蝕の関連性 3) 食品のう蝕誘発性 5) う蝕予防のための食品の摂取方法	1. 食生活・食習慣の背景を知り現代の問題点を説明できる。 2. う蝕が生活習慣病である理由を説明できる。 3. しょ糖とう蝕の関係について説明できる。 4. 食品のう蝕誘発性を示す指数について説明できる。 5. う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。	関連ページを読んでおく。	
4	2. 歯周病と食生活 3. 酸蝕症と食生活	1. 歯周病とは何か説明できる。また患者へ食事摂取の指導内容を列記できる。 2. 酸蝕症とは何か説明できる。また患者への食事摂取の指導内容を列記できる。	関連ページを読んでおく。	
5	4. 食生活と咀嚼 ⑤ストレスマネジメント 1. ストレッサー 2. 認知的評価・対処能力 3. ストレス反応に対する対処 これまで履修した内容のまとめ (過去の国家試験問題の活用)	3. 咀嚼の目的、効用について説明できる。 4. ストレス、ストレス、ストレスコーピングとは何か説明できる。 5. ストレス反応を分類し説明できる。 6. ストレス反応に対する対処を説明できる。 1. 復習問題を解きながら理解を深める。	関連ページを読んでおく。	復習問題プリント

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
6	Ⅲ編歯科予防処置・歯科保健指導各論 2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握 1. 口腔内の観察 2. 検査項目 6) 歯面の付着物・沈着物 (3) ブラーク ① 歯垢染色法 P126 ⑧ 分析のためのデータ 1. 指標 1) 口腔衛生状態の指数 (1) O'LearyのPCR ① 対象歯 ② 判定基準 ③ 計算方法 ④ 注意点	1. 歯垢染色剤の使用目的について説明できる。 2. 歯垢染色剤の使用目的と特徴を列記できる。 3. 歯垢染色剤の所要条件を列挙し種類について分類列記できる。 4. 染色時の注意事項を説明できる。 5. (PCR)オレリーのブラークコントロールレコードの特徴を理解する。 6. PCRの判定基準、計算方法を列記することができる。 7. 判定時の注意点を述べることができる。	関連ページを読んでおく。	PCR練習プリント PCR記録プリント
7	オレリーのブラークコントロールレコード(PCR)の演習 1. 染色 2. 評価 3. 記録	(PCR演習時) 1. 自身の口腔内染色が正確にできる。 2. PCRの記録及び評価が適切にできる。 3. 評価に基づき自身の口腔清掃の反省点を改善することができる。	PCRについて復習しておく。	PCR記録プリント 歯ブラシポーチ(染色剤、綿棒)、アルミカップ、リップクリーム エプロン、赤鉛筆、ティッシュ、手鏡、デンタルミラー
8	(2) OHI (DI CI) ① 対象歯 ② 判定基準 (DI CI) ③ 計算方法 OHI各自作成練習問題による復習	1. OHIとは何か説明できる。 2. OHI-DIとOHI-CIの違いを説明できる。 3. ブラークと歯石の判定基準をそれぞれ述べることができる。 4. OHIの計算方法を修得する。 5. 練習問題を正確に解くことができる。	OHIについて予習しておく。	OHI評価練習プリント OHI練習問題作成プリント
9	(3) OHI-S (DI-S・CI-S) OHI、OHI-S復習	1. OHI-Sとは何か説明できる。 2. OHI-SとOHIの違いを説明することができる。 3. OHI-Sの対象歯を列記することができる。 4. OHI-Sの計算方法を説明できる。 5. 自身が作成したOHIの練習問題を正確に解くことができる。	OHI-Sについて予習しておく。	OHI評価練習プリント OHI練習問題作成プリント
10	その他の指標 (4) PII (5) PHP 歯周病の指数 (1) 歯肉炎の指数 ① PMA ② GI 他の指標は口腔衛生学にて詳細を履修 指標のまとめ (過去の国家試験問題を活用)	1. PIIの目的、対象歯や判定基準、計算方法を説明できる。 2. PHPの目的、対象歯や判定基準、計算方法を説明できる。 3. 歯周病の各指標の目的を説明できる。 4. 各指標の対象歯や判定基準、計算方法を説明できる。 1. 復習問題を解きながら理解を深める。	OHI、OHI-Sについて復習しておく。	復習問題プリント
11	4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 ① 口腔衛生管理に関する指導 ブラッシング 1) 歯ブラシ (1) 歯ブラシの規格 (2) 歯ブラシの構造 (3) 歯ブラシの管理 2) 歯磨剤 基本成分と薬用成分	1. 歯ブラシ各部の名称が言える。 2. 歯ブラシの特徴、利点、欠点を知る。 3. 刷毛の種類と利点、欠点を説明できる。 4. 毛先の硬さに影響する因子を列記できる。 5. 理想的な歯ブラシの具備すべき条件を説明できる。 6. 歯ブラシ使用後の管理について説明ができる。 7. 歯ブラシの交換時期について説明できる。 1. 歯磨剤の成分による分類について説明できる。 2. 各基本成分の作用について説明できる。 3. 各薬用成分の作用について説明できる。	関連ページを読んでおく。	顎模型用歯ブラシ 顎模型
12	3) ブラッシングの方法 (1) 歯ブラシの持ち方 (2) 方法 (3) 各種ブラッシング法 毛先を用いる方法 脇腹を用いる方法 (4) 適切な歯磨き圧 以下「オーラルヘルスケア事典」にて履修 (5) 口腔清掃用具の誤用とその弊害 歯ブラシの毛先を用いる方法 P438 表付2-2 ① 水平法 ② 垂直法 ③ スクラビング法 ④ 1歯ずつの縦磨き法 ⑤ バス法 ⑥ バス改良法 ⑦ フォーンズ法	1. ブラッシングの特徴に応じた歯ブラシの持ち方がわかる。 2. 歯ブラシの毛先と脇腹を用いたブラッシング法をそれぞれ列記できる。 3. 適切な歯磨き圧について説明できる。 4. 毛先を使う各種ブラッシングの方法と適応症を説明できる。	関連ページを読んでおく。	顎模型用歯ブラシ 顎模型
13	歯ブラシの脇腹を用いる方法 P436 表付2-1 ① ローリング法 ② スティルマン法 ③ スティルマン改良法 ④ チャーターズ法 歯ブラシ、ブラッシングのまとめ (復習問題及び過去の国家試験問題を活用)	1. 脇腹を使う各種ブラッシングの方法と適応症を説明できる。 1. 復習問題及び過去の国家試験問題を解きながら理解を深める。	関連ページを読んでおく。	復習問題プリント
14	1. その他の清掃方法 1. 補助清掃用具について 【グループ学習1回目】 ① 電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ② 口腔洗浄器 ③ デンタルフロス・スーパーフロス ④ 歯間ブラシ ⑤ タフトブラシ ⑥ 舌ブラシ ⑦ 義歯ブラシ・義歯清掃剤・義歯安定剤 ⑧ スポンジブラシ・巻綿子 ⑨ 歯磨剤 ⑩ 洗口剤・液体歯磨剤	1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用方法が説明でき、適切に実践できる。	自身が受け持った学習に必要な書籍等を持参する。	グループワーク説明用プリント

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
15	1.その他の清掃方法 1.補助清掃用具について【グループ学習2回目】	1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用法が説明でき、適切に実践できる。	自身が受け持った学習に必要な書籍等を持参する。	グループワーク説明用プリント
16	1.その他の清掃方法 1.補助清掃用具について【グループ学習3回目】	1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用法が説明でき、適切に実践できる。	自身が受け持った学習に必要な書籍等を持参する。	グループワーク説明用プリント
17	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について【発表1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②口腔洗浄器 ③デンタルフロス・スーパーフロス	課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 また質問を受けたことに対して適切に説明することができる。 (各班発表20分、質疑10分)	自身の担当を確認し、棒読みにならず説明できるように事前に発表練習を行なう。	グループワーク説明用プリント 配布冊子
18	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について【発表2回目】 ④歯間ブラシ ⑤タフトブラシ ⑥舌ブラシ	課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 また質問を受けたことに対して適切に説明することができる。 (各班発表20分、質疑10分)	自身の担当を確認し、棒読みにならず説明できるように事前に発表練習を行なう。	グループワーク説明用プリント 配布冊子
19	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について【発表3回目】 ⑦義歯ブラシ・義歯清掃剤・義歯安定剤 ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨歯磨剤 ⑩洗口剤・液体歯磨剤	課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 また質問を受けたことに対して適切に説明することができる。 (各班発表20分、質疑10分)	自身の担当を確認し、棒読みにならず説明できるように事前に発表練習を行なう。	グループワーク説明用プリント 配布冊子
20	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について 質疑応答、発表時の質問への説明 発表用具①～④要点まとめ【1回目】 (復習問題の活用)	1.補助清掃用具についてわからなかったところの理解を深めることができる。 2.質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3.教員による質疑、補足説明を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。		グループワーク説明用プリント 配布冊子 復習問題プリント
21	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について 質疑応答、発表時の質問への説明 発表用具⑤～⑦要点まとめ【2回目】 (復習問題の活用)	1.補助清掃用具についてわからなかったところの理解を深めることができる。 2.質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3.教員による質疑、補足説明を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。		グループワーク説明用プリント 配布冊子 復習問題プリント
22	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について 質疑応答、発表時の質問への説明 発表用具⑧～⑩要点まとめ【3回目】 (復習問題の活用)	1.補助清掃用具についてわからなかったところの理解を深めることができる。 2.質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3.教員による質疑、補足説明を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。		グループワーク説明用プリント 配布冊子 復習問題プリント
23	その他の清掃方法 1.補助清掃用具について 質疑応答、発表時の質問への説明 発表用具⑪要点まとめ【4回目】 (復習問題の活用) ①～⑩までの復習 (過去の国家試験問題を活用)	1.補助清掃用具についてわからなかったところの理解を深めることができる。 2.質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3.教員による質疑、補足説明を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。 1.復習問題や過去の国家試験問題を解きながら理解を深めることができる。		グループワーク説明用プリント 配布冊子 復習問題プリント
24	IV編対象別の歯科衛生介入 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入 1.生涯を通じた歯科保健対策の概要 ①妊産婦期 1.一般の特徴 2.口腔の特徴	1.生涯を通じた歯科保健サービスを理解するため、各対象に応じた歯科の特徴、歯科的問題を列記できる。 2.生涯を通じた歯科保健サービスにおいて行政が関わる具体策や実施のねらいを知る。 1.妊産婦期における一般の特徴を列記できる。 2.妊産婦期における口腔の特徴を説明できる。	関連ページを読んでおく。	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
25	3.妊産婦期の歯科衛生介入 1)プロフェッショナルケアの目標 2)セルフケアの目標 4.妊産婦期の栄養 以降 ※詳細は学科目「栄養指導」にて履修 ライフステージの課題等及び妊産婦期のまとめ (過去の国家試験問題の活用)	1.妊産婦期におけるプロフェッショナルの目標を学び実践に生かすことができる。 2.妊娠初期、中期、後期の母体の変化や目標、対策について知る。 3.つわりの症状がある時の口腔清掃のポイントを学び説明できる。 4.妊産婦期の栄養管理の問題的と指導について理解を深める。 1.復習問題や過去の国家試験問題を解きながら理解を深めることができる。	関連ページを読んでおく。	復習問題プリント
26	②乳児期 1.一般的特徴(新生児期も含む) 2.口腔の特徴	1.乳児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.乳児期の口腔内状況について年齢と特徴、歯の萌出部位を列記できる。	関連ページを読んでおく。	配付プリント ①「全身と口腔の発達のかかわり早見表」 ②「これだけは理解しておきたい 子どもの成長過程と対応の仕方」
27	3.歯科衛生介入 1)プロフェッショナルケアの目標 2)セルフケアの目標 4.乳幼児期の栄養摂取 ※詳細は学科目「栄養指導」にて履修 以下は履修する ・乳幼児期の摂取時の口腔・口腔周囲の動きと摂食行動(表IV-1-6) ・食行動と食機能の発達(図IV-1-2)	3.乳児期の歯科衛生介入についてプロフェッショナルケアの目標を学び、指導に生かすことができる。 1.各成長期における口腔内の特徴と歯科衛生指導のポイントを合わせて説明できる。 2.離乳食進め方と口腔の動きの変化を結びつけて説明できる。 3.食行動と食機能の発達について説明できる。 4.1歳6か月歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。 5.3歳児歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。	関連ページを読んでおく。	配付プリント①「全身と口腔の発達のかかわり早見表」 ②「これだけは理解しておきたい 子どもの成長過程と対応の仕方」
28	③幼児期 1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科衛生介入 4.食生活の特徴と栄養 生活環境と生活背景の把握 2.虐待への対応	1.幼児期の年齢に応じた一般的心身の特徴を述べることができる。 2.幼児期の年齢に応じた口腔の特徴を説明することができる。 3.口腔の成長に合わせた歯科衛生介入を説明することができる。 4.幼児期の食生活の特徴と栄養について理解できる。 1.虐待の種類と内容、通報先を説明できる。 2.虐待防止について対策を挙げることができる。	関連ページを読んでおく。	配付プリント①「全身と口腔の発達のかかわり早見表」 ②「これだけは理解しておきたい 子どもの成長過程と対応の仕方」
29	④学齢期 1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科衛生介入 4.学齢期の食生活の特徴と栄養 以降 ※詳細は学科目「栄養指導」にて履修 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 幼児期、乳児期のまとめ (過去の国家試験問題の活用)	1.学齢期の身体の発達を説明できる。 2.学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。 3.学齢期における口腔内の状況をまとめ説明できる。 4.学齢期の歯科保健指導のポイントをまとめ説明できる。 1.過去の国家試験問題を解きながら理解を深めることができる。	関連ページを読んでおく。	復習問題プリント
30	⑤思春期・青年期 1.一般的特徴 2.口腔の特徴 3.歯科衛生介入 1)望ましい歯科保健行動 2)プロフェッショナルケアの目標 3)セルフケアの目標 4.思春期・青年期の食生活の特徴と栄養 ※詳細は学科目「栄養指導」にて履修 学齢期、青年期のまとめ (過去の国家試験問題の活用)	1.思春期、青年期の一般的特徴を説明できる。 2.思春期、青年期の口腔の特徴を説明できる。 3.思春期、青年期の歯科保健指導のポイントについて説明できる。 1.過去の国家試験問題を解きながら理解を深めることができる。	関連ページを読んでおく。	復習問題プリント

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	地域歯科保健指導法Ⅰ	分野	専門分野[歯科保健指導論]			講師名	野中友紀子他教員		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15回	
教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。災害歯科保健医療体制研修会修了(令和4年度)およびJDATアドバンス研修会終了(令和7年度)。歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」教本執筆者。								
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域住民の健康づくりに関わる各種ライフステージに応じた基礎知識、行動変容へのアプローチ等について講義、演習をする。								

詳細情報

授業目標	地域歯科保健とは何かを理解し、歯科衛生士が専門職として係わる場面と効果的な活動内容を把握する。また、一つの場面である幼稚園での集団歯科保健指導を行うにあたり、各年齢別にシナリオや効果的な媒体を考え皆で協力し作成し、発表に工夫することができるようになる。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	点	合計	100点
	※グループ学習評価10点(グループ発表評価5点、他者評価5点)									
(学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各科目の授業時間が3分の2に満たない者										
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 遠藤圭子著 他 著 医歯薬出版 ②「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院 ③「歯科衛生士国家試験ポイントチェック2」医歯薬出版株式会社 ④「歯科衛生士国家試験ポイントチェック5」医歯薬出版株式会社									
参考文献	必要に応じ授業中に紹介する									
使用設備・ 備品・準備 物	各回、当番に事前に連絡をする									
履修上の 注意	幼稚園口腔衛生指導のシナリオや媒体作製時では積極的に発言し、班員皆と協力しシナリオや媒体を完成させる									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	地域歯科保健活動における健康教育 1. 健康教育の概要 ①目標 ②事業として行われる健康教育 2. 健康教育の進め方 3. 健康教育の方法 4. 健康教育の評価	1. 集団指導を行う場面と法的根拠を説明できる。 2. 実際の指導対象者と指導の考え方を把握できる。 3. PDCAサイクルを説明できる。 4. 健康教育の評価の種類を説明できる。		教本①②③④
2	地域歯科保健活動のフィールド 1. 保育園、幼稚園における健康教育 2. 学校における健康教育 3. 事業所における健康教育 ①特定健康診査・特定保健指導 4. 保健所・市町村保健センター ①介護予防事業 過去の国家試験問題を解き復習を行う	1. 各々の場面での歯科保健活動の目標や内容を理解する。 2. 発達段階に合わせた歯、口の健康づくりのねらいの要点をそれぞれ説明できる。 3. 特定健診、特定保健指導について説明できる。 4. 介護予防事業における歯科衛生士の役割を説明できる。 5. 過去の国家試験問題を解き解説を受けながら重要な事項を確認できる。		教本①②③④ ・地域歯科保健活動 練習問題
3	集団指導オリエンテーション 幼稚園実習概要 各クラスの指導目的 指導原稿案、媒体作製の手順	1. 指導原稿案、媒体作製について個々の役割を把握することができる。 2. シナリオ班、媒体班の班分けを行いそれぞれで案を検討することができる。 3. 自身の役割を把握し検討することができる。 4. 幼稚園実習のための原稿、媒体作成の目的を認識し協力しながら適切な提案ができる。	幼稚園児保健指導に用いる媒体のキャラクターを調べておく。	配布プリント ・幼稚園オリエンテーション資料
4	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成① 媒体作製①	1. 班長を中心に、対象園児に応じたシナリオ案、使用する媒体作製について班員で検討し案を作成することができる。 2. それぞれ検討した内容について専任に随時報告し指示を仰ぎ改善することができる。		・幼稚園オリエンテーション資料 ・各班必要に応じて参考絵本など ・各年齢別配布資料
5	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成② 媒体作製②	同上		同上

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
6	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成③ 媒体作製③	同上		同上
7	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成④ 媒体作製④	同上		同上
8	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成⑤ 媒体作製⑤	同上		同上
9	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成⑥ 媒体作製⑥	同上		同上
10	集団指導法 幼稚園別、クラス別 リハーサル①	作成したシナリオ、媒体を活用して、幼稚園クラス別に指導ができるよう役割分担をし、リハーサルを行うことができる。	担当の発表練習	同上
11	集団指導法 幼稚園別、クラス別 リハーサル② 発表する班を話し合いで決定する。 難しい時は、班を使命する。	同上 可能ならば年齢別で発表する代表班を話し合いで決定する。 皆で表現等について検討することができる。	担当の発表練習	同上
12 13	集団指導法 1. 年齢別クラス代表班による発表 ①2歳児代表 ②3歳児代表 ③4歳児代表 ④5歳児代表 ⑤特別支援 2. 幼稚園作成物成果評価 ①グループ発表相互評価(5点満点)	1. 年齢別の代表班が当日の流れで指導を発表することができる。 2. 年齢別の代表各班が発表した内容を評価し良かった点、疑問点、改善点をそれぞれ記録することができる。但し、自身が関わったクラス(年齢別)については評価しない。		同上 評価記録用プリント
14 15	集団指導法 1. 幼稚園作成物過程及び成果物評価を行う。 ①グループ内相互評価(5点満点) 2. 全ての評価をまとめ発表する。 3. 評価結果を受け修正点を検討し、4月からの修正完成に繋げる。	1. 年齢別の代表班が発表したものを各シナリオ班、媒体班に分け、全員の集計を正確にすることができる。評価(小数点第二位四捨五入とする)と良かった点、疑問点、改善点を全て整理することができる。 2. 自身のグループへの貢献度を評価し理由を記録することができる。 3. グループ内班員の個人相互を評価し理由を記録することができる。 4. 各年齢別に評価(平均点、良かった点、疑問点、改善点)を発表することができる。 5. 評価結果をもとにシナリオ、媒体の修正点を確認し4月からの準備を行うことができる。		同上 評価記録用プリント

基本情報

学科目名	栄養指導 I	分野	専門分野[歯科保健指導論]			講師名	松下美由紀		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士								
授業との 関連性	熊本地域糖尿病療養指導士としての経験を活かした管理栄養士として、現代の食生活の問題点や疾病予防を踏まえた講義を実施する。また、他職種連携の視点を踏まえた講義を実施する。								

詳細情報

授業目標	①健康維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知り、現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を考える。 ②栄養素の消化・吸収、体内代謝、エネルギー代謝等の基本の知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	15点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	5点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行									
参考文献	食品成分最新ガイド「栄養素の通になる 第5版」上西一弘著 女子栄養大学出版部 自分で作る「生化学ワークノート」医学博士 中元伊知郎 メディカ出版									
使用設備・備 品・準備物	授業はワークシートを利用する。計算時(電卓またはスマホ)利用あり。									
履修上の 注意	授業中の自己都合の入退は基本不可。やむを得ない理由がある場合は許可を得ること。宿題・レポートの提出あり。提出物、授業態度は評価に反映。6回講義以降にワークシート記入の確認を実施し、評価に反映する。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	1章 栄養学と歯科衛生士 ①栄養の概念	栄養とは何かを知る	ワークシートの予習	フラットファイルまたは綴じひも
2	1章 栄養学と歯科衛生士 ②栄養と食生活の意義 ③歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義	栄養と食生活の意義を学ぶ	ワークシートの予習	
3	2章 栄養素の種類とはたらき 糖質	① 糖質について知り、理解を深める	ワークシートの予習	
4	2章 栄養素の種類とはたらき 脂質	② 脂質について知り、理解を深める	ワークシートの予習	
5	2章 栄養素の種類とはたらき タンパク質	③ タンパク質について知り、理解を深める	ワークシートの予習	
6	2章 栄養素の種類とはたらき ビタミン	④ ビタミンについて知り、理解を深める	ワークシートの予習	
7	2章 栄養素の種類とはたらき ミネラル 繊維	⑤ ミネラルと食物繊維について知り、理解を深める ⑥ 食物	ワークシートの予習	
8	2章 栄養素の種類とはたらき 水 栄養素の消化・吸収 吸収と栄養	⑦ 体内での水の働きについて学び、理解を深める ⑧ 消化・	ワークシートの予習	
9	3章 栄養素の消化・吸収 消化の種類 ③消化の過程	② 消化について学び、理解を深める	ワークシートの予習	
10	3章 栄養素の消化・吸収 消化の過程	③ 消化の過程について学び、理解を深める	ワークシートの予習	
11	3章 栄養素の消化・吸収 吸収のメカニズム 素の体内動態	④ 吸収のメカニズムについて知り、理解を深める ⑤ 栄養	ワークシートの予習	
12	3章 栄養素の消化・吸収 栄養素別の消化・吸収	⑥ 栄養素別の消化・吸収について知り、理解を深める	ワークシートの予習	
13	3章 栄養素の消化・吸収 栄養素別の消化・吸収	⑥ 栄養素別の消化・吸収について知り、理解を深める	ワークシートの予習	
14	4章 健康と栄養 食生活を取り巻く施策 本人の食事摂取基準	① 各施策や日本人の食事摂取基準について知り、理解を深める ② 日	ワークシートの予習	
15	4章 健康と栄養 食品の安全	③ 食品の安全について知り、理解を深める	ワークシートの予習	

基本情報

学科目名	歯科診療補助Ⅰ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]					
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	2単位	60時間	授業回数	30
講師名	植村博子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	橋本千明	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	中川美里	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							

詳細情報

授業目標	(前期) 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期) 歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 合場千佳子 他 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 末瀬一彦 他 医歯薬出版KK									
使用設備・ 備品・準備 物	その都度当番を通して連絡します。									
履修上の 注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 *到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	ユニットの構造について1 (取り扱い実習) 2班に分かれて相互実習 *2階で実習がない班は課題学習				①歯科診療室にある歯科用ユニットの構造を理解し、歯科診療室にある歯科用ユニットを、患者を不安にさせずに操作できる。			要綱及び教本(該当ページは要綱に記載)による予習の実施		
2	滅菌・消毒①(各種消毒・滅菌・消毒と管理)				①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。			同上		
3	感染防止対策と滅菌・消毒②(講義)・(実習) 2階で2班に分かれて滅菌器等の使用説明・消毒				①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。			同上		
4	薬品・材料の管理、医療廃棄物の取り扱い				①薬品の取扱いについて理解し説明できる。 ②診療室から排出される廃棄物の分別、処理について理解し説明できる。			同上		
5	手指消毒の一般的手技 (講義)植村 (実技)2階:橋本/5階:植村				①医療人として手指を介しての微生物の伝播があることを理解し、手指消毒の目的を説明できる			同上		
6	カット綿・綿球・防湿ロール・綿栓作製				①臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるようにする。			同上		
7	綿球・綿栓作製試験(グローブなし)				①各種綿球・綿栓の作製方法の確認をし、習熟度を確認する。(グローブ装着なし)			同上		
8	共同動作について1 総論① (*5階の実験台でポジションからライティングの確認)				①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォワードシステムを理解し説明できる。			同上		

回	授業計画	到達目標	準備学習
9	共同動作について1 総論② (フォーハンドデンティストリー、バキューム、スリーウェイシリンジ)	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。	同上
10	共同動作について2 患者誘導、ポジション、ライティング実習	①必要な知識を身に付け患者を安全にチェアまで誘導できる。 ②患者・術者・補助者の役割を疑似体験し役割と責任を理解し説明できる。 ③術者を側面的に助ける技術を修得できる。	同上
11	共同動作について3 バキューム操作基本(ファントム)	①診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようバキューム操作ができる。	同上
12	口腔内洗浄、バキューム操作(相互) 1	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。	同上
13	口腔内洗浄、バキューム操作(相互) 2	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。	同上
14	印象材取扱い・練和について	①各種印象材について、その特徴と用途、取扱い法を理解し説明できる。 ②印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、ひとまとめにできる。	同上
15	印象材練和～盛り付け	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、トレーへ盛り付けができる。	同上
16	印象採得 1 片顎	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
17	印象採得 2 下顎	①口腔内を観察し、下顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
18	印象採得 3 上顎	①口腔内を観察し、上顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
19	印象採得 4 片顎・下顎・上顎	①口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
20	模型材料取扱いについて・石膏注入(上顎・下顎)(トリミング・模型調整)	①印象への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
21	印象採得～模型作製①	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
22	印象採得～模型作製②	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
23	印象採得～模型作製③	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
24	スタディモデル作製①(概要説明・台つけ)	①スタディモデルの作製方法を理解し、管理・保管までができる。 ②平行模型作製の手順、模型の整理法を理解する。	同上
25	スタディモデル作製②(台つけ)	①印象採得後、気泡混入のない模型を作製し、平行模型作製の手順、模型の整理法を理解する。	同上
26	合着材取扱いについて	①合着材と接着材の性質、練和方法を理解し、説明できる。	同上
27	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和	①合着材の性質を理解し、各種セメントの練和ができる。	同上
28	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和復習	①リン酸亜鉛 以外 ・ポリカルボキシレートセメント・ガラスアイオノマーセメントの取り扱い、特徴、用途を理解し練和操作ができる。	同上
29	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和試験	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。	同上
30	ポリカルボ・ガラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和/合格者は自主計画立案～自主練習	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。	同上

基本情報

学科目名	歯科材料学	分野	専門分野【歯科診療補助論】			講師名	清村 龍朗	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科診療に用いる歯科材料の基礎知識と取り扱いについて講義する。							

詳細情報

授業目標	歯科医療従事者として知っておくべき材料の知識や歯科衛生士としての作業並びにその結果に関わることについての知識と取扱いを学ぶ。									
成績評価 方法	定期試験	92点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	8点	合計	100点
	出席点8点(1回欠課1点減点)									
(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者										
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK									
参考文献										
使用設備・ 備品・準備 物	PC・プロジェクター・レーザーポインター									
履修上の 注意	私語禁止									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	①歯科医療と歯科材料の進歩を概説できる。 ②歯科材料の特性を添付文書から読み取ることが出来る。 ③歯科処置の中で使用される材料の特性を理解した上で取り扱うことが出来る。 ④歯科材料の素材を説明できる。 ⑤歯科材料・無機材料・有機材料の一般的特徴を説明できる。 ⑥口腔内外で使用される歯科材料の性質を説明できる。 ⑦歯科材料の所要性質・評価について説明できる		
2	DHに関わる材料 印象材	①小窩裂溝充填塞材の種類をあげ、使用上の注意点を説明できる。 ②歯科臨床における印象採得の目的を説明できる。 ③印象材の種類と適応例を説明できる。 ④弾性印象材の成分・組成と硬化のメカニズムを説明できる。 ⑤印象採得時の印象材の変形の重要性を説明できる。		・シーラント ・寒天 ・シリコン印象剤 等 各種見本
3	模型材料	①模型用材料として使用されるものを説明できる。 ②石膏の種類と用途を説明できる。 ③石膏の取扱い・一般的性質を説明できる。 ④石膏の硬化反応・混水比を説明できる。 ⑤石膏の硬化時間に与える事象を説明できる。 ⑥石膏の硬化膨張と吸水膨張に与える事象を説明できる。		・普通石膏 ・硬質石膏 ・超硬質石膏の角棒 ・エパンス
4	合着材・接着材	①合着材・接着材の種類と成分及び特性を説明できる。 ②合着材・接着材の所要性質を説明できる。 ③合着材の組成と硬化反応及び特徴を説明できる。 ④接着性レジンセメントの組成と硬化反応及び特徴を説明できる。		各種セメント・接着材 各種見本
5	成形修復材	①成形修復材の種類と用途を説明できる。 ②成形修復材の取扱いを説明できる。 ③成形修復材の成分・組成と硬化機構を説明できる。 ④成形修復材の歯質との接着機構を説明できる。		コンポジットレジン各 種見本
6	仮封材・暫間修復材・仮着セメント	①仮封材の種類と用途を説明できる。 ②仮封材の取扱いを説明できる。 ③仮封材の組成と特徴を説明できる。 ④暫間修復について説明できる。 ⑤暫間修復に使用される種類・材料を説明できる。 ⑥仮着用セメントの目的を説明できる。 ⑦仮着用セメントの種類を説明できる。		・ストップピング ・シール ・テンポラリーセメント等 各種見本
7	WAX・金属・セラミックス	①ワックスの種類と用途を説明できる。 ②ワックスの性質を説明できる。 ③歯科で使用される金属の安全性について説明できる。 ④歯科で使用される金属の性質を説明できる。 ⑤歯科で使用される合金の種類と用途を説明できる。 ⑥セラミックスについて概説、用途・性質を説明できる。 ⑦セラミックスの用途・性質を説明できる。 ⑧乳歯の被覆冠を列挙できる。 ⑨乳歯用既製金属被覆冠の目的を説明できる。 ⑩歯周バックの目的と性質を説明できる。		WAX各種 ・パラ ・銀合金 ・CAD用
8	保存材料・ホワイトニング	①ホワイトニングに使用される材料を説明できる。 ②人工歯の種類を説明できる。 ③義歯床の種類を説明できる。 ④フリッジ・インプラントに使用される材料を説明できる。 ⑤義歯用裏装材を説明できる。 ⑥CAD/CAMIに使用される材料を説明できる。		人工歯・模型見本等

基本情報

学科目名	歯科器械学	分野	専門分野[歯科診療補助論]			講師名	神山 敬	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所副院長。本学院教務委員。							
授業との 関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科器械の名称・用途や取り扱いについて講義する。							

詳細情報

授業目標	歯科器械の名称、形態などを把握し、それぞれの器械の用途を正しく理解する。更に医療事故を未然に防ぐための取り扱いの諸注意を認識する。自らが行う歯科予防処置などの診療行為においては正しい使用法を理解し、安全に使用しなければならない。歯科診療補助においては、歯科医師との絶妙な連携を図るために器械の特徴や構造を理解する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	10点×2回	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科器械」末瀬一彦 他 著 医歯薬出版KK									
参考文献	歯科器械のカタログ、実物の器材。講師が準備するプリントや動画等。									
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクター(毎回)、顎模型(第6回)、器具(必要な回の準備物に記載してます)									
履修上の 注意	1. 次の授業内容を予習し、習ったことを復習する。 2. 歯科治療での目的や使用法など分からない事は直ぐに質問する。 必要な場合はご利用ください。									
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	1章 歯科診療における器械の概説 2章 一般診療用器械 ① 歯科用ユニット 2章 ② ユニット周辺の大型器械 ③ マイクロスコープ、双眼ルーペ ④ 滅菌・消毒用器械 ⑤ 歯科用画像診断装置			・歯科医療器械の分類について説明できる。 ・歯科用ユニットの用途、特徴を説明できる。 ・CAD/CAMテクノロジーのメリットについて説明できる。 ・歯科用ユニット周辺の大型器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科診療で使用するマイクロスコープ、双眼ルーペ、滅菌・消毒器械、歯科用画像診断装置、口腔内写真用器材の用途・特徴を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください		特にありません	
2	4章 検査、診断、治療用器械 ① 全身管理用器械 ② 麻酔用器械 ③ 救急救命器械 ④ 歯及び口腔検査用器械 ⑤ 口腔機能検査用器械			・全身麻酔用器械や麻酔用器械、救急救命器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯及び口腔検査用器械の用途、特徴を説明できる。 ・口腔機能検査用器械の用途、特徴を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください		・浸潤麻酔用注射器・針 ・伝達麻酔用注射器・針 ・カートリッジ	
3	⑥ 切削用器械 ⑦ 成形修復用器械 ⑧ 歯内療法用器械			・切削用器械の用途、特徴を説明できる。 ・成形修復用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯内療法用器械の用途、特徴を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください		・ヘッド FG(タービン) HP(ハンドピース) CA(コントラングル) 5倍速 ・パー類 FG(タービン)用パー	
4	⑨ 歯周治療用器械 ⑩ 印象採得用器械 小テスト ①			・歯周治療用器械の用途、特徴を説明できる。 ・印象採得で使用される器材の用途、特徴を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください 小テスト①は第1回～第4回までの講義の内容についてです		・小テストをムードルで行いますので事前にムードルへログインできるか確認をお願いします	
5	⑪ 歯冠修復用器械 ⑫ 有床義歯用器械 小テスト ① 解説			・歯冠修復用器材の用途、特徴を説明できる。 ・有床義歯用器械の用途、特徴を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください		特にありません	
6	⑬ 口腔外科用器械 ⑭ インプラント治療に関連する器械			・口腔外科用器械の用途、特徴を説明できる。 ・インプラント治療用器械を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください		・歯根形態がわかる顎模型2つ ・鉗子(上顎大白歯部用・下顎大白歯部用・残根鉗子)	
7	⑮ 矯正歯科用器械 ⑯ 小児歯科用器具			・歯科矯正で使用される器械の用途、特徴を説明できる。 ・小児歯科用器械の用途、特徴を説明できる。			事前配布資料に目を通しておいください		・矯正器具一式(例年のものをお願いします)	
8	⑰ 歯科訪問診療用器械 5章 歯科技工用器械 最後のまとめ 小テスト ② 小テスト ② 解説			・歯科訪問診療用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科技工室に設置される器械を説明できる。 ・歯科技工作業で使用される器械を概説できる。			事前配布資料に目を通しておいください 小テスト②は第5回～第8回までの講義の内容についてです		・小テストをムードルで行いますので事前にムードルへログインできるか確認をお願いします	

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	感染予防学	分野	専門分野[歯科診療補助論]			講師名	馬場瑠衣	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学大学院生命科学研究部 歯科口腔外科学講座入局。							
授業との 関連性	病院勤務の歯科口腔外科医の経験を踏まえ、感染経路や対策について講義する。							

詳細情報

授業目標	感染症および感染予防に関して正しい知識を修得し、自身にとって安全な医療行為ができるようにする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点; 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験; 学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課; ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件; 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	「感染対策マニュアル」 熊本歯科衛生士専門学校作成									
参考文献	歯科医療における院内感染予防対策マニュアル									
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	感染予防学総論	感染予防学を学ぶ意義を理解する。	なし	
2	感染経路・院内感染症	①感染経路について説明できる。 ②院内感染症について理解する。	1回目の授業の復習	
3	滅菌・消毒	①消毒・滅菌について説明できる。 ②消毒・滅菌法の種類および適応を理解する。	2回目の授業の復習	
4	日和見感染・予防接種	①日和見感染症について理解する。 ②ワクチンの種類について理解する。	3回目の授業の復習	
5	針刺し事故及び対策	針刺し事故の予防法および事故後の対応について理解する。	4回目の授業の復習	
6	医療危機管理(リスクマネジメント) 医療安全と感染予防	医療危機管理について理解する (KYT演習含む)	5回目の授業の復習	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助法 第2版教本 第2章 R7年度からのご依頼内容
7	口腔内の感染症	口腔内における感染症の特徴および原因菌について理解する。	6回目の授業の復習	
8	まとめ	これまでに学習した内容について、大切なポイントを再認識する。	7回目の授業の復習	

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	介護技術法	分野	専門分野[歯科診療補助論]			講師名	三浦啓介		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。介護福祉士。居宅介護支援事業所に勤務。								
授業との 関連性	社会福祉士、介護福祉士としての長年の経験を踏まえ、社会福祉制度の概要や介護の知識や技術、態度について講義・演習する。								

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として専門的な歯科診療の補助を行う上で、高齢者の心身の状態を理解するとともに、障がいのある要介護者等へ適切に対応できる基本的な介護技術、知識、および態度を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	「高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル」内藤 徹 著他 医歯薬出版KK									
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。									
履修上の 注意	講義の前に教科書を熟読し、事前課題を済ませ講義に出席して下さい。 授業では講義の他、演習(実技)も実施していくので、それに対応できる服装で出席して下さい。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	社会福祉制度とサービス 1. 社会福祉法について 2. 社会福祉制度におけるサービスについて 3. 歯科衛生士と介護技術について	①社会福祉六法の概要を理解できる。 ②社会福祉法における具体的なサービス内容を理解できる。 ③介護技術の必要性を理解できる。	教科書P14～P18 を事前に熟読しておく	プロジェクター・パソコン
2	ボディメカニクスの基本原則 介護に関する知識と方法(衣生活) 1. 衣類の役割 2. 衣類の選択 3. 衣類介助	①ボディメカニクスの基本原理を理解できる。 ②衣類のいろいろな役割を理解する。 ③身体状況に適した衣類の選択を理解する。 ④麻痺等がある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	教科書P40～P43 を事前に熟読しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
3	介護に関する知識と方法(食事) 1. 食事介助の基本 2. 食事介助の方法	①食事介助の基本的知識を理解する。 ②嚥下障がい、麻痺等のある高齢者への食事介助の方法を習得する。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
4	要介護者の介護技術(演習) 1. 食事介助 2. 衣類介助	①演習を通じ基本的な食事介助の方法を習得する。 ②嚥下障がいのある高齢者への食事介助方法を習得する。 ③麻痺のある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	演習で実施したポイントをノートに整理しておく	レジメに記載した物品等
5	歯科診療所・施設での要介護者への対応 1. 車椅子の操作方法 2. 移動・移乗の基本 3. 移乗の介助方法	①車椅子の操作方法及び介助の方法を習得する。 ②移動・移乗の基本的知識を理解する。 ③車椅子から診療チェアへの移乗方法を習得する。	教科書P28～P50 を事前に熟読しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー
6	寝たきり高齢者への対応 1. 寝たきり高齢者の状態などの理解 2. 寝たきり高齢者の体位 3. 寝たきり高齢者の介助	①寝たきり高齢者の状態を理解する。 ②体位変換の方法を理解する。 ③起き上がり、移乗介助の方法を習得する。	教科書P52～P72 を事前に熟読しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
7	要介護者の介護技術(演習) 1. 車椅子の介助 2. 移動・移乗の介助 3. 寝たきり高齢者の体位変換	①車椅子の操作方法を習得する。 ②ベッド、車椅子、ユニット間の移乗介助を習得する。	演習で実施したポイントをノートに整理しておく	レジメに記載した物品等
8	視覚障がい・言語障がいのある人の介護技術 1. 視覚、言語障がいの原因と種類 2. コミュニケーション 3. 視覚障がい者の歩行介助	①視覚障がい・言語障がいの原因と種類を理解する。 ②コミュニケーションの方法及び対応を習得する。 ③視覚障がい者の介助の方法を取得する。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
9	視覚障がい者の介護技術(演習) 1. 歩行介助 2. 誘導介助 3. 食事介助	①目的地までの歩行介助の方法を習得する。 ②椅子への誘導介助を習得する。 ③食卓にある食事内容の説明及び介助方法を習得する。	演習で実施したポイントをノートに整理しておく	レジメに記載した物品等

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
10	介護保険制度に関する知識 1. 介護保険制度について 2. 介護保険制度における各種サービスについて	①介護保険制度の仕組みを理解することができる。 ②介護保険制度を利用し、各種サービスを利用するまでの過程を理解することができる。 ③居宅療養管理指導を理解することができる。	介護保険制度について、事前に自己学習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
11	訪問介護サービスに関する知識 1. 訪問介護サービスとは 2. 訪問介護の業務内容について 3. ホームヘルパーの資格について	①訪問介護サービスの意義を理解することができる。 ②業務内容は何か説明できる	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
12	サービス利用者の理解 1. 高齢者の疾患の理解 2. 認知症の理解 3. 介護者の心理の理解	①高齢者の主な疾患と特徴を理解できる。 ②認知症の症状とその対応方法を習得する。 ③介護者の身体的・精神的な負担を理解できる。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
13	住環境整備の知識 1. 高齢者が安全に生活できる住環境の理解 2. 住宅改修について	①高齢者、障がい者にとって安全な住まいを整えるための基本視点を理解できる。 ②介護保険制度を利用した住宅改修を覚える。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
14	介護に関する知識と方法(排泄・身体保清) 1. 排泄介助の基本 2. 排泄介助の方法 3. 身体保清の理解 4. 入浴介助、身体清拭の方法	①排泄介助の基本的知識を理解する。 ②排泄介助の方法を習得する。 ③身体保清の基本的知識を理解する。 ④入浴介助、身体清拭の方法を習得する。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
15	要介護者の介護技術(演習まとめ) 1. 実践的な演習 2. 確認テスト(予定)	①車椅子での移動・移乗介助を将来、歯科衛生士として対応できるようにユニットを使用し、より実践的な介護技術を習得する。 ②定期テスト前に理解度を確認する目的で実施する。	実施した確認テストを再度、間違った点などを含め復習しておく	レジメに記載した物品等

基本情報

学科目名	コミュニケーション I	分野	選択必修分野[基礎分野]			講師名	山本直子	
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	60時間	授業回数	30
教員の 実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接客研修の講師を務めている。キャリアコンサルタントとして学生から社会人の就労相談やキャリアプランなどについての研修などを実施。							
授業との 関連性	企業の接客講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。また、社会人としてキャリアを積み重ねていくための基本的な考え方・動き方などを伝える。							

詳細情報

授業目標	ビジネス社会で働く上で必要なコミュニケーション能力を、ビジネスマナー、社会常識(冠婚葬祭含む)、対人援助コミュニケーションなどから学び、考え方、動き方などを身につける。自分も大切にし、周りも思い遣ることができる自分づくり。									
成績評価 方法	定期試験	80点	提出物	5点	受講態度 まとめカード	5点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	合計	100点
教科書名	歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)									
参考文献	講師資料/①歯科医療接客と医療コミュニケーション (医学情報社) ②実社会で求められるビジネスマナー (株式会社 専門教育出版) ③対人援助のスキル図鑑(中央法規)									
使用設備・備 品・準備物	数回、プロジェクターや歯科医師会館のホールを使用。									
履修上の 注意	①テキスト以外の資料整理のため専用ファイルを用意する。 ②制服を着用する。 ③授業中の挨拶や返事、姿勢などの基本動作を常に意識し、なるべく早く身につける。 ④はっきり意思表示をし、ロールプレイは積極的に行う。 ⑤理解度確認と伝える力、書く力をつけるため、毎回、授業のまとめを書き提出する。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	講義の概要と目的・目標 ①講義の目的と進め方 ②自己紹介 ③授業や学院内でのマナーの確認	①講義の目的・目標を知り、日々の実践へつなぐ。 ②自己紹介時のポイントを知り、できるようになる。 ③自己紹介の方法とメリットを知り、お互いをより深く知る。	(P)・講座の目的 ・お辞儀と挨拶は～ ・自己紹介	
2	「コミュニケーション」とは ①コミュニケーションの定義 ②コミュニケーションの手段 ③始まりは「挨拶」から	①「コミュニケーション」の本質を知る。 ②第一印象の重要性を理解する。 ④気持ちの良い挨拶の仕方を知る。	(T)P6-9	
3	ビジネスマナー1 ①接客5原則 ②第一印象の重要性 ③身だしなみや立ち居振る舞いについて ④挨拶を録画	①「接客」の本質を知り、学院生活で実践する。 ②身だしなみや態度が相手に与える影響を知り、自らを振り返る。 ③気持ちの良い挨拶の仕方を知り身につける。	(P)・接客5原則 ・マナーの基本 ・見た目は～創る (T)P22 ※挨拶は班別に録画。	
4	ビジネスマナー2 挨拶の録画チェック(振り返り)	①フォーアフターの録画チェックで、より気持ちの良い挨拶を習慣化するための課題を確認する。 ②他者の気持ちの良い挨拶も参考にする。	振り返りシート	
5	自分を知る、他人を知る	①自分で思っている自分の印象、他者の印象を知り、自分が知らない自分に気づく。 ②自分を大切に思うことが、他者をも大切に思うことにつながることに気付いてもらう。	オリジナルテキストシート	
6	ビジネスマナー3(表情・声) ①非言語コミュニケーションを身につける ②言葉以上の影響力「声・表情」	①フォーアフターの録画チェックで、より気持ちの良い挨拶を習慣化するための課題を確認する。 ②非言語的コミュニケーションとは何かを知る。 ③声の重要性、発声の仕方を身につける。	(T)P16-21 (P)基本動作、応用動作 発音練習、滑舌練習	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
7	ビジネスマナー4(立ち居振る舞い) ①話の聞き方、話し方 ②始業・終業のあいさつ、返事の仕方 ③遅刻・中座時、入退室時、廊下や階段でのマナー	②正しい姿勢で始業、終業のあいさつができる。 ③笑顔と元気な声で返事ができる。 ④遅刻や中座、入退室時のあいさつができる。	(T)P23-27 (P)応用動作	
8	カラー講座 ①色の基礎知識 ②色の見え方による心理効果 ③色の活かし方	①色彩の基礎知識を学ぶ ②色の持つ効果、色が与える影響を知る	オリジナルテキストシート	
9	ビジネスマナー5(言葉遣い①) ①敬語の基本 ②敬語の分類(尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語)	①敬語の重要性を理解する。 ②尊敬語と謙譲語の違いを理解する。	(T)P28-29 (P)TX③P16-19 尊敬語と謙譲語をマスター	
10	ビジネスマナー6(言葉遣い②) ①社内・社外での使い分け ②クッション言葉 ②依頼形	①内部と外部の呼称の使い分けができる。 ②クッション言葉や依頼形、肯定表現を用い、言い方が変われば伝わり方が変わることを知る。	(P)・TX②尊敬語と謙譲語の書き換えワーク	
11	ビジネスマナー7(言葉遣い③) ①クッション言葉 ②職場用語、接客用語 ③依頼形	①クッション言葉を使用した言い回しを学ぶ。 ②依頼形や肯定表現を用い、言い方が変われば伝わり方が変わることを知る。	(P)言葉遣いについて(クッション言葉、肯定表現、依頼形)	
12	ビジネスマナー8(言葉遣い④) ①肯定表現、否定表現、マイナスプラス法、サンドイッチ法ほか) ②相手に伝わる言い方(陳謝の言葉、依頼するとき)	①言い回しを変えることで伝わり方が変化することをワークを通して知る。 ②陳謝や依頼時の誠意が伝わる言い方を学ぶ。	(P)気をつけたい敬語の誤用、おかしな敬語 ・謝罪時の言葉遣い	
13	ビジネスマナー9(言葉遣い⑤) ①敬語の総復習(ワーク)	①これまでの授業内容の理解度ををはかる。 ②不明な部分を確認し、意識して使えるようになる。	(P)言葉遣いワークシートで、理解度を確認	
14	メイク講座 ①メイクとは、メイクの目的 ②医療業界のメイクのポイント ③自分に合ったメイクを見つける	①自分の顔の特徴を活かして、目的に合ったメイクを身につける。 ②清潔感やきちんと感を演出し、周囲からの印象をアップさせる。	各自、メイク道具一式持参 オリジナルテキストシート	
15	社会常識1 ①指示命令の受け方 ②報告連絡の仕方 ③事例による報告・連絡ロールプレイ	①業務遂行の基本の指示命令の受け方を知る。 ②報告連絡のポイントと流れを知り、ロールプレイを通して実践に繋ぎ、学院生活で使えるようになる。	(P)TX③命令の受け方 TX②報告連絡相談 TX③報告の仕方(ロールプレイ) (T)P112-115	
16	社会常識2(食事のマナー) ①和食のマナー ②箸の使い方、器の上げ下げなど所作 ③洋食のマナー	①ご自宅を訪問する際の立ち居振る舞い、気遣い、心配りなどを知る。	(P)・和食のマナー ・洋食のマナー ・食事の作法	
17	社会常識3(訪問時のマナー) ①準備(アポイント、手土産や服装など) ②お宅で ③訪問後のマナー	①ご自宅を訪問する際の立ち居振る舞い、気遣い、心配りなどを知る。	(P)訪問のマナー	
18	社会常識4(冠婚葬祭) ①冠婚葬祭とは ②結婚式のマナー ③通夜や告別式でのマナー	①冠や祭の意味を知り、日常生活のコミュニケーションに役立てる。 ②忌み言葉など祝い事ならではの気遣いを知る。 ③様々な祝い事を教養として知る。	(P)・招待状の返信 ・袱紗の包み方 ・ご祝儀袋、不祝儀袋の包み方 ・弔電、訃報	
19	ビジネスマナー10(ビジネス文書①) ①文書の受発信 ②宛名の書きかた ③手紙の書きかた	①手紙の組み立て方や書きかたを知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。	(P)・TX③P62-68ビジネス文書の作成、取り扱い、用語など ・宛名書きワーク	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
20	ビジネスマナー11(ビジネス文書②) ①社外文書の形式 ②間違い探し(ワーク)	①時候の挨拶、頭語-結語など対外文書の形式を知る。 ②文書の間違いを見つけ出す。	(P)TX③P69-71ビジネス文書の見本、間違い探し、文書の受発信	
21	ビジネスマナー12 メール・FAXなどの送受信 ①受発信 ②メールの作成(本文の書き方) ③SNSのマナー	①メールやFAX使用時の基本や作成のポイントを知る。 ②実際に報告メールを作成してみる。 ③SNSの注意点、コンプライアンスなどを知る。	(P)・メール送受信時のマナー ・FAX送信の留意点 ・SNS利用について	
22	ビジネスマナー13(来客対応①) ①名刺の取扱い方、名刺交換の仕方 ②紹介のマナー ③席次	①名刺の役割、取扱いで気を付けることなどを知り、実際に授受を体験する。 ②物の受け渡し、名刺の授受の基本を知る。 ③様々な状況での上座下座を知る。	(P)TX③49-55名刺のエピソード、扱い方、席次、ドアの開閉、紹介の順番	
23	ビジネスマナー14(来客対応②) ①受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～見送り ②応対時の様々な言葉かけ ③受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～見送り	①誘導の仕方、方向指示の仕方、ドアの開閉の仕方、階段の昇降などの立ち居振る舞いを知る。 ②心が伝わる環境設営、声掛けを考える。	(P)・来客対応の基本 ・心構え、ステップ ・取り次ぎ、案内	
24	ビジネスマナー15(来客対応③) ①お茶の接待 ②来客対応ビデオ視聴 ③練習<受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①美味しいお茶の入れ方、スマートなお茶の出し方、接待時のポイントを知る。 ②ビデオを視聴し、現場での動き方を確認し、練習する。	(P)お茶の出し方プリントを見ないでできるように前回の所作を復習。	
25	ビジネスマナー16(来客対応④) <ロールプレイ実践>お茶の接待	①来客対応の一連の流れを一人でロールプレイする。(ロールプレイ評価)	成績評価	
26	自らを知る① ①タイプ別診断 ②感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	①感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	(T)P52-53、P126エゴグラム自己チェックシート	
27	自らを知る② ①心を整える ②レジリエンスカ ③リフレーミング	①感情と行動の傾向を知り、自分との向き合い方、状況や環境と向き合う方法を知る	オリジナルテキストシート	
28	社会常識5(ビジネスマインド) ①社会人としての心構え ②組織での働き方 ③時間の使い方 ④優先順位の付け方 ほか	①社会人になったとき、どのようなことが待ち受けていて、どのようなことを求められるのかを知り、必要な能力を知る。	オリジナルテキストシート	
29	目標設定の仕方 ①自分はどうな衛生士になりたいか ②現状認識と具体的な行動計画の立て方 ③1年後、5年後のキャリアを考える	①歯科衛生士としてのキャリアを考える。ありたい自分の姿を具体的に思い浮かべる。	自分の1年後、5年後、10年後を考えてくる。 (ワークシート記入)	
30	まとめ ①1年次の振り返りおよび目標設定 ②接遇について思うこと(レポート)	①1年次を振り返り、身につけたこと、できなかったこと、今後の課題などを明確にし目標設定する。 ②有言実行していけるよう相互激励する。	1年次を振り返り、課題を見つけ、2年次に向けての目標を考えてくる (P)振り返りと目標シート (P)接遇について	

【 看護概論 】 令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	成瀬信裕	実務経験	看護師歴42年 病院に勤務しながら看護専門学校にて非常勤講師で経験 (看護概論)
-----	------	------	--

授業との関連性 長年看護業務に係った経験や看護専門学校の非常勤講師として培った知識や技術をもって、歯科衛生士に必要な看護技術、コミュニケーションスキルや医療安全構築のための講義・演習を行う。看護概論の基礎はナインテングル看護論

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士に必要な基本的な看護知識の理解と看護技術のスキルを習得する。 2. 人々の生活行動について、それらは健康とどのようにつながっているかを理解し、看護の視点から対象の健康問題を見出し、その上で対象者の生活行動を健康な状態に整える基本的な援助技術を学習する。 3. 歯科衛生士の専門職業人として、人間関係の成立の基本となるコミュニケーションスキルを高める
------	--

評価方法	・定期試験100満点 合計100点 減点項目：レポート未提出（1レポート1点） 授業中の態度（1点） 事前学習評価（4回 各1点） 減点MAX -10点
------	---

教科書名 歯科衛生士のための看護学大意 柴原孝彦著 医歯薬出版

参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 湯根ます 他 ナインテングル『看護覚え書』現代社 2. 湯根ます 他 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』日本看護協会出版社 3. 金井ひとえ 実践を創る 新看護学原論 4. 金井一薫 ナインテングル看護論入門 5. ビジュアル臨床看護技術
------	---

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前に Moodleによる事前予習・授業後の復習 2. 講義を進める中で、学生さんへの問いかけを多く行います。(間違いを恐れずに発言ください) 目的:問いかけに対して、思考する時間が重要 他者の意見を聞いたときに、脳への刺激が強クインプットされ学習効果が高まる 3. 講義終了毎に、授業の感想・質問など記載を依頼します。期限内に入力ください。 講義未受講時は、補講レポートの提出
--------	---

回	授業計画	到達目標
---	------	------

1 (9/17)	【看護の技術】教科書P24～ 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ① バイタルサインについて 【看護概念】教科書P17～ 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割 授業の進め方 グループ編成 ①～④グループ編成(ローテーション実習)	バイタルサインの測定方法を理解する 体温:正しく測定出来る 脈拍:正しく測定出来る 呼吸:正しく測定出来る 血圧:正しく測定出来る バイタルサインの正常値を学ぶ 臨床でのバイタルサインの意味を理解する 患者を守る、臨床スキルを身につけましょう！
-------------	--	---

2 (9/17)	1. 全体講義 オリエンテーション バイタルサイン導入 2. グループ学習(4グループ) ① バイタルサインの自己学習 (グループワーク研修) ② バイタルサインの実技指導 (米村先生) ③ バイタルサインの実技 (グループワーク研修) ④ バイタルサインの変化の体感 (成瀬講師) 3. 全体講義(実習の振り返り)	看護概念:看護とは何かを理解する 歯科衛生士が看護概論を学ぶ意義を理解する
-------------	--	--

3 (10/15)	【看護の技術】教科書P58～ 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①採血について ②吸引および酸素吸入について ③輸液ルート確保から輸液の実施および観察 【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を予測できる 2. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の必要性とリスク予測の重要性を看護行為から学び取る) 3. 歯科衛生士に必要な看護概念を理解する 看護の5つのものさしについて理解する 歯科衛生士の実践で、看護の5つのものさしが活用出来る
--------------	--	---

4 (10/15)	講義の進め方 グループ編成 ①～④グループ編成(ローテーション実習) ① 講義 (成瀬講師) ② 実技自習 採血実習エリア (成瀬講師) 吸引・酸素吸入エリア (米村先生) ③ 講義 (成瀬講師)	
--------------	---	--

(11/5)	【看護の実務】教科書P65～ 1 歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察と記録 洗浄・消毒・滅菌 感染対策の基礎	患者の観察方法と記録の仕方が解る 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学ぶ 模擬による患者の観察と記録が実践できる 滅菌と消毒の違いが説明できる 清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別ができる
--------	--	---

6 (11/5)	【看護の実務】教科書P65～ 1 歯科衛生士に必要な看護実務 感染対策および医療安全の基礎 感染対策および医療安全の実践 全体のまとめ	ガウンテクニックが実践できる 1人でKYTが実践できる チームリーダとしてKYTの実践ができる 全体的な振り返りができる
-------------	---	---

7 (12/3)	【看護の実務】教科書P45～ 1. 歯科衛生士として、色々な場面でのコミュニケーションスキルと患者に寄り添った専門性の高い対応能力を学ぶ ① Moodleによる、事前自己学習 ② グループワークによる、テーマに沿った学び ③ グループ発表による、他グループのテーマについて学ぶ	病院における歯科衛生士について理解する 地域活動における歯科衛生士の役割を理解する 歯科衛生士に必要な患者との関わりを、看護の視点で理解する 本学院で3年間で学ぶカリキュラムの必要性を理解する
-------------	--	---

8 (12/3)	全体の振り返り ◆ バイタルサインの意味 ◆ 必要とする病態生理と解剖(なぜ、学ぶのか) ◆ 医療安全と感染管理の重要性 ◆ 患者とのコミュニケーションスキル ◆ 楽しく仕事をする為に、看護の5つのものさしを活用する	
-------------	---	--

令和8年度 【 臨床実習 I 】 シラバス

名 称	臨床実習 I
該当学年	1年生(第63期生)
日 程	令和8年5月25日(月)～令和8年5月30日(土)
総日数	6日間
単位数 (総時間)	1単位 (45時間)
実習時間	8:30～16:30 (1日 8時間×5) 8:30～13:30 (1日 5時間×1) * 昼食時間を含む
実習機関 及び 学生割り振り	<一般歯科> 1診療所 1～2名 * 但し、学生数により 人数の変更や実習施設のお休みもあります。
目的	見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。
一般目標	(1) 見学するに見合う態度と心構えを身につける。 (2) 受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 (3) 歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。
行動目標	(1) 見学するに見合う態度と心構えを身につける。 ① 医療人として身だしなみは清潔・機能的である。 ② 患者さんやスタッフに対して、挨拶ができる。 ③ 相手に応じた正しい言葉遣いができる。 ④ 謙虚な姿勢で実習に取り組むことができる。 ⑤ わからないことを積極的に質問できる。 ⑥ 自己の健康管理ができる。 ⑦ 担当者に報告・連絡・相談ができる。 (2) 受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 ① 見学内容の理解を深めるために、実習手帳に記録 することができる。 ② わからないことは自分で調べ記録することができる。 (3) 歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。 ① 歯科衛生士の歯科診療における役割を説明することができる。

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	薬理入門	分野	専門基礎分野[疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	辻藤 悠希	
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	熊本大学 大学院生命科学部 臨床薬理学分野 准教授 薬剤師としての実務経験を有す							
授業との 関連性	臨床薬理学者・薬剤師としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。							

詳細情報

授業目標	薬物の作用を理解するための薬理学の基本概念を理解する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点 ; 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験 ; 学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課 ; ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ; 各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」第2版 王 宝禮著 医歯薬出版KK									
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。									
使用設備・備 品・準備物	液晶プロジェクター、インターネット環境									
履修上の 注意	①前回までの授業を踏まえて講義を行うので、復習を十分にしてください。 ②必要に応じて、医薬品添付文書(医療従事者向けの説明書)を参照できるようにしてください。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	総論1. 薬物の作用				薬物の基本的な作用形式について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
2	総論2. 薬物動態				薬物が体内でどのように吸収・分布し排泄されるかを説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
3	総論3. 薬物の適用方法の種類と特徴				薬物の適用方法について学び、適用方法による違いを説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
4	総論4. 薬物の作用に影響を与える要因				薬物の作用に影響する要因を知り、連用・併用による影響を説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
5	総論5. 薬物の副作用、有害作用				薬物の副作用、有害作用の種類を知り、その原因を説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
6	総論6. 医薬品を適用する際の注意				患者の状態による医薬品の適用法の違いを理解し、適切な服薬指導ができるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
7	総論7. 薬物の取り扱い				医薬品の剤形、保存方法を理解し、薬物ごとの取扱い方法について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		
8	総論8. 薬物と法律・薬物と医薬品				医薬品等に関わる法律について理解して、薬物を医薬品として用いるときの注意事項を説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。		

基本情報

学科目名	薬理学		分野	専門基礎分野[疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	近藤 悠希	
履修学年・学期	2年	後期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	熊本大学 大学院生命科学部臨床薬理学分野准教授 薬剤師としての実務経験を有す								
授業との 関連性	臨床薬理学者・薬剤師としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。								

詳細情報

授業目標	①薬物の作用機序、効果、薬物動態、副作用などを勉強することにより、クスリを正しく使うことが出来るようになる。また、患者への、わかりやすい服薬指導が出来るようになる。 ②さまざまな疾病に対する治療薬とその作用機序が理解出来るようになる。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。									
履修上の 注意	①前回までの授業を踏まえて講義を行うので、復習を十分にしてください。 ②必要に応じて、医薬品添付文書(医療従事者向けの説明書)を参照できるようにしてください。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	総論の総復習			薬理入門、で学習した薬理学の概念・用語を思い出し、各論を理解する準備を行う。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
2	各論2. 末梢神経系に作用する薬物			末梢神経系の受容体と神経伝達物質について理解し、それら受容体に関する説明できるようになる。自律神経作用薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬、全身麻酔薬などについて作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
3	各論2. 中枢神経系に作用する薬物			中枢神経系に作用する薬物として抗不安薬、抗精神病薬、気分障害治療薬、抗てんかん薬、パーキンソン症候群治療薬、麻薬性鎮痛薬、認知症治療薬などについて作用メカニズムや使用上の注			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
4	各論3. 循環器系に作用する薬物			高血圧、不整脈、心不全、狭心症の治療薬について、作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
5	各論4. 血液に作用する薬物			止血機構について理解する。止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬、脂質異常症治療薬の作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
6	各論5. 呼吸器系、消化器系に作用する薬物			気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬について、作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。消化性潰瘍治療薬や緩下剤・止痢薬について理解する。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
7	各論6. 免疫と薬			免疫応答について理解する。免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬、ワクチンについて作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
8	各論7. 抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬			悪性腫瘍について知り、抗悪性腫瘍薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。糖尿病、骨粗鬆症治療薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			
9	各論8. 炎症と薬			炎症について理解する。抗炎症薬、解熱鎮痛薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。			

回	授業計画	到達目標	準備学習
10	各論9. 痛みと薬	痛みの仕組みについて理解する。 鎮痛薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。
11	各論10. 局所麻酔薬・ビタミン・ホルモン	局所麻酔薬について知り、作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。ビタミン、ホルモンの種類、働き、欠乏症などについて説明できるようになる。	説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。
12	各論11. 抗感染症薬1	抗感染症薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。
13	各論12. 抗感染症薬2・消毒に使用する薬	抗感染症薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。消毒薬の作用機序を知り、主な消毒薬について使用対象や使用上の注意を説明できるようにする。	説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。
14	各論13. 高齢者・妊婦の薬物療法	高齢者や妊婦、小児等における薬物療法の注意点を理解する。	説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。
15	各論14. 腎疾患の薬物療法	腎疾患の薬物療法に関する薬を理解する。腎機能障害患者の薬物療法の注意点を理解する。	説明動画をネット上で視聴可能とするので復習して下さい。

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	衛生行政社会福祉	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 衛生行政社会福祉			講師名	城戸 禎子	
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。総合病院連携支援課勤務、九州医療専門学校社会福祉士通信学科非常勤講師、熊本総合医療リハビリテーション学院非常勤講師。							
授業との 関連性	病院に勤務し、患者さんやご家族を支援する社会福祉士として、衛生行政・社会福祉・社会保険について講義する。							

詳細情報

授業目標	衛生行政の分野においては、歯科衛生士の業務に関連する行政組織や関係法規について理解し、遵法精神の下で業務を行うことができるようにする。社会福祉の分野においては、社会保障の目的や機能を理解した上で、社会保険や福祉サービスを具体的に学び、患者や利用者を取り巻く社会制度を理解した専門職になることを目指す。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	<p>(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
使用設備・ 備品・準備 物	パソコン、パワーポイント、プロジェクター、スクリーン、授業資料、小テスト									
履修上の 注意	①聴く力、考える力、まとめる力の向上を目指して下さい。 ②適宜行う小テストで各授業のポイントを確認し、復習する際に利用して下さい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	教科書 1章「わが国の医療制度と歯科衛生士」 2. わが国の医療制度 3. 医療法 4. 歯科医師法 6. 歯科技工士法				①わが国の医療制度に関わる法律や制度について概要を理解する。 ②歯科医療関係者に関する法律や制度について概要を理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
2	教科書 2章「医療関係職種」 3章「その他の関係法規」 4. 薬事に関する法規 5. その他の衛生法規				①歯科医療関係者に関する法律や制度について概要を理解する。 ②その他の関係法規について概要を理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
3	教科書 4章「社会保障」				①わが国の社会保障制度の役割や機能を理解する。 ②社会保障費の給付と国民の負担について理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
4	教科書 4章「社会保険とは」 1. 医療保険				①社会保険とは何かを理解する。 ②医療保険制度の概要を理解し、給付や費用負担について述べる事ができる。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
5	教科書 4章「社会保険とは」 3. 年金保険 4. 労働法規と労働保険				①年金保険制度の概要を理解する。 ②労働基準法、雇用保険および労働者災害補償保険について理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
6	教科書 4章「社会福祉」 1. 社会福祉行政 2. 生活保護と法規				①日本の社会福祉行政の仕組みを理解する。 ②公的扶助の意義や原理原則について理解する。 ③生活保護の種類や方法を述べる事ができる。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
7	教科書 4章「社会福祉」 3. 児童と家庭の福祉制度と法規 4. 障害者の福祉制度と法律 5. 高齢者の福祉制度と法律				①児童家庭福祉制度の概要を理解する。 ②障害者福祉制度の概要を理解し、障害者福祉サービスについて述べる事ができる。 ③高齢者福祉法に基づく、高齢者の福祉制度について理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
8	教科書 5章「医療の動向」				①国民の健康状態について理解する。 ②医療施設や医療従事者の状況について、統計から読み取ることができる。 ③国民医療費について、統計から読み取ることができる。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		

基本情報

学科目名	歯科衛生学Ⅱ	分野	専門分野[歯科衛生士概論]			講師名	野中友紀子	
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院教務主任。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。							
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。また歯科衛生士に必要な倫理観および歯科衛生研究について講義・演習を行う。							
成績評価 方法	定期試験	85点	小テスト レポート	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	5点	受講態度	点 合計 100点
	定期試験(夏期休暇中の課題レポート10点、グループワーク時の相互評価5点を加点対象とする)提出物(記録方法)・出席状況……減点対象とすることもある。							
	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 (減点対象) 事由のなき提出物遅れ、未提出の際は減点対象とします。							
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 ④歯科衛生学シリーズ「心理学」							
参考文献	①歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」 医歯薬出版KK 医歯薬出版KK医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」							
使用設備・ 備品・準備 物	PC,プロジェクター							
履修上の 注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、歯科予防処置法、保健指導法、歯科診療補助法など今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. ライフステージ別のレポート課題 ㄨ切9/16 4. 演習の前は、必ず各自で調べ提出する。(提出後に演習とする) 5. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 6. スライド資料はMoodle上に資料をアップします。必要に応じPCにダウンロードし活用してください。また講義中に閲覧する際はスマホでの閲覧は不可とします。 7. 症例検討後、紙媒体で印刷しㄨ切までに提出すること							
回	授業計画			到達目標			準備学習	
1	Ⅲ編1章 歯科衛生過程の進め方(教本①) 1年次流れ復習(スライド等)			1. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 2. 歯科衛生アセスメントについて説明できる。 3. 歯科衛生診断について説明できる。			教本の関連する章を読んでおくこと	
2	Ⅲ編1章 歯科衛生過程の進め方(教本①) 歯科衛生過程の各構成要素			1. 歯科衛生計画立案について説明できる。 2. 歯科衛生介入について説明できる。 3. 歯科衛生評価について説明できる。 4. 歯科衛生過程における書面化の意義について説明できる。			教本の関連する章を読んでおくこと	
3	Ⅱ編3章 保健行動支援のための基礎知識 (教本①③)			1. コミュニケーションスキルを理解できる 2. 歯科保健指導に関する理論と行動変容を説明できる 3. 保健行動と行動変容の手法を理解し活用できる			教本の関連する章を読んでおくこと	
4	Ⅲ編1章 歯科衛生過程の進め方 1. POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習① (口腔内精密検査表・カリオグラム・スタディモデル・口腔内写真)			1. 歯科衛生アセスメントができる 1)対象者の口腔保健管理を行うために役立つ情報を収集することができる。 2)収集した情報を分析し、問題点を抽出できる。 3)SOAP分類ができる 2. POS理論について説明ができる			資料をファイルにまとめておくこと。 口腔内観察・ミラー、エキスプローラー、ピンセットを紙バックにて滅菌、染め出しセット・対象者資料一式準備 服装:制服+エプロン	
5	Ⅲ編1章 歯科衛生過程の進め方 1. POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習② 強み・データ不足→提出			1. 歯科衛生診断ができる 1)対象者の主観的情報と客観的情報から問題点を抽出できる。 ※すでに履修済資料から読み取りができる (精密検査表、模型、臼歯部標準型、PCR結果、カリエスリスク検査表) 2. 歯科衛生計画を立案できる 1)目標設定ができる 2)歯科衛生介入計画を立案できる			資料をファイルにまとめておくこと。 口腔内観察・ミラー、エキスプローラー、ピンセットを紙バックにて滅菌、染め出しセット・対象者資料一式準備 服装:制服+エプロン	

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	Ⅲ編1章 歯科衛生過程の進め方 1. POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習③ (発表・追加訂正指導後)	1. 歯科衛生計画立案ができる 2. 歯科衛生計画を歯科衛生士業務記録に、SOAP形式で記録することができる。(SOAP記入練習) 3. 自身の立案した内容をリフレクションできる 4. 自身の考えを他者へ分かりやすく伝えることができる 5. 歯科衛生評価までの流れを説明できる	発表の練習
7	教本 よくわかる歯科衛生過程 2章 歯科衛生過程の進めかた(教本②) 吉田あきこ①症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析～歯科衛生診断) 個人ワーク	1. 模擬症例のデータを読み込むことができる 2. 歯科衛生アセスメントができる ①対象者の情報を収集し、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類することができる。 ②問題点とその原因に分類することができる。 ③ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 3. 歯科衛生診断文を作成することができる	教科書② 症例を事前に読んでおくこと
8	教本 よくわかる歯科衛生過程 2章 歯科衛生過程の進めかた(教本②) 吉田あきこ②症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析～歯科衛生診断) グループワーク	1. 模擬症例のデータを読み込むことができる 2. 歯科衛生アセスメントができる ①対象者の情報を収集し、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類することができる。 ②問題点とその原因に分類することができる。 ③ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 3. 歯科衛生診断文を作成することができる 4. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 5. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。	班書記係 PC持参
9	教本 よくわかる歯科衛生過程 2章 歯科衛生過程の進めかた(教本②) 吉田あきこ③症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析～歯科衛生診断) グループワーク・発表	1. 対象者の情報と問題点をヒューマンニーズ概念に基づき分類し、発表できる。 2. グループの発表を聴き、クリティカル思考で疑問点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。 4. 演習内容をリフレクションできる	教科書②
10	教本 よくわかる歯科衛生過程 2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ④症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 2. 対象者の情報より原因解決に向けて、「短期目標」を設定することができる 3. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる	教科書②
11	教本 よくわかる歯科衛生過程 2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ④症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 2. 対象者の情報より原因解決に向けて、「短期目標」を設定することができる 3. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる 4. 期限までにデータを提出することができる	教科書②
12	教本 よくわかる歯科衛生過程 2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑤症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 発表 吉田あきこ⑥まとめ 歯科衛生評価 模範解答	1. 発表に備え、配布資料を作成することができる 2. グループの発表を聴き、クリティカル思考で疑問点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。 4. 演習内容をリフレクションできる 5. 歯科衛生評価法を説明できる 6. 症例の模範解答を振り返ることができる	教科書②
13	歯科衛生士のキャリア形成 1. 歯科衛生研究 ※令和8年次1年生教本より記載あり	1. 歯科衛生研究の必要性を説明できる 2. 歯科衛生研究の方法を概説できる ①量的研究②質的研究③事例研究・症例研究 3. 歯科衛生研究の活用法を説明できる 4. 倫理審査の流れを概説できる 5. 利益相反について概説できる	参考文献①
14	歯科衛生士のキャリア形成 1. 歯科衛生研究 ※令和8年次1年生教本より記載あり	1. 歯科衛生研究の必要性を説明できる 2. 歯科衛生研究の方法を概説できる ①量的研究②質的研究③事例研究・症例研究 3. 歯科衛生研究の活用法を説明できる 4. 倫理審査の流れを概説できる 5. 利益相反について概説できる	参考文献①
15	歯科衛生士の倫理綱領 ※令和7年1年次事例検討実施 事例は臨床的内容 教科書「歯科衛生学総論」 付3 国際歯科衛生士連名(IFDH)倫理綱領 4 歯科衛生士の倫理綱領 (公益社団法人日本歯科衛生士会)	1. 歯科衛生士の倫理綱領を説明できる 2. 歯科衛生士の倫理綱領が必要な理由を説明できる 3. 歯科衛生士の倫理綱領の成り立ちを説明できる 4. 歯科衛生士の倫理綱領を用いて演習ができる 5. 歯科衛生士の倫理綱領に則し、業務を展開するための考え方を修得することができる	参考文献①

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	保存修復歯内療法学	分野	専門分野[臨床歯科医学]					
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8

講師名	金本 良久	教員の 実務経験	歯科医師。九州大学歯学部第一保存科を経て歯科診療所院長。					
授業との 関連性	大学保存科在籍と臨床歯科医師としての経験を踏まえ、直接修復、間接修復などの手順、基礎知識、歯科衛生士の役割について講義する。							
講師名	船津 雅彦	教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会理事。					
授業との 関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、歯内療法の基礎知識と歯科衛生士の役割について講義する。							

詳細情報

授業目標	(金本良久先生)1. 教科書を基に日常歯科臨床と結びつけつつ、保存修復学の基礎について学ぶ。 (船津雅彦先生)2. 前回の授業を復習して、次回の授業の予習をすること。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点 ; 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験 ; 学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課 ; ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ; 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 千田 彰著他 医歯薬出版KK									
参考文献	授業中に配るプリント(船津先生)									
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	前回の授業を復習して、次回の授業の予習をすること。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	歯および歯周組織の検査 保存修復の概要				保存修復の臨床における基本的な考え方と その中身について理解を深める。					
2	直接法修復				直接法修復の種類と利点欠点について理解 する。					
3	間接法修復				直接法修復の種類と利点欠点について理解 する。					
4	歯の漂白 補修復 保存修復における歯科衛生士の役割				歯科衛生士としての役割を勉強することで、こ れから(将来)自分の臨床に向き合う姿勢(目 標)について考えてみる。					
1	歯内療法学とは何か。 歯髄保存療法とは何か。 歯髄除去療法とは何か。 歯内療法における歯科衛生士の役割とは 何か。				歯内療法の目的と診断及び処置方法を理解する。 歯髄を保存する意味とその処置方法を理解する。 歯髄を除去する意味とその処置方法を理解する。 歯科衛生士には、初診で来院した患者さんの状況 を把握してその情報を歯科医師に伝える重要な役 目がある。歯内療法におけるその手順と方法を 理解する。					
2	根管形成・根管洗浄・根管充填とは何か。 前回の理解度を確認する。				抜髄・感染根管治療の各ステップと、それら処置に 用いる器具の名称、使用目的について理解する。 前回までの内容を理解して、歯内療法を一連の流 れで理解する。			前回の授業を復習 して、次回の授業 の予習をすること。		
3	歯内療法における安全対策とは。 歯の外傷とは何か。 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置 法について。 歯内療法の診断から根管充填までの流れ を理解する。				治療の際、起こりえる偶発症・トラブルに対する対 処法・予防法について理解する。 歯の外傷の分類・処置方法・事故時の患者さんへ の対応法を理解する。 それぞれのステップで必要な知識が有り、必要な 器具の準備ができるか確認する。			前回の授業を復習 して、次回の授業 の予習をすること。		
4	歯内療法のケーススタディー。 歯内療法全般の、学生からの質問に答え る。国家試験対策。				患者からの情報(問診)から必要な検査を行い、処 置の準備ができるかを確認する。 授業でわからないところを質問する。自分のわか らないところを書いて提出する。 今まで、わからなかったところ、誤解していたところ が解決する。国家試験の問題を理解する。			前回の授業を復習 して、次回の授業 の予習をすること。		

基本情報

学科目名	歯周療法学	分野	専門分野[臨床歯科医学]			講師名	東 克章		
履修年 学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経 験	本学院学院長。歯科医師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所副院長から院長となる。								
授業との 関連性	本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理観について講義する。								

詳細情報

授業目標	1. 歯周病とはどのような病気を健康な歯周組織と比較することによって理解する。 また、それらの知識を活用して患者さんの指導法を学ぶ。 2. 組織病理、発生等の基礎知識を通して歯周病の原因、治療メンテナンスについて理解する。 3. 歯周治療のゴールを知る。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演 習) など	点	受講態度	点	合計	100点
受験資格・単位認定は学則・細則に準じます。										
教科書名	歯科衛生学シリーズ 歯周病学 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版									
参考文献	「プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて ベーシックパート」 「プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて クリニカルパート」 Antonella Tani Botticelli 著 エルバ 歯 科衛生士のための最新歯周病学 加藤瀬編著 医歯薬出版									
使用設 備・備 品・準備 物	各自のプロープ、手用スケーラー									
履修上 の 注意	1. 講義に集中すること 2. 講義内容はノートをとること 3. できるだけ予習、復習をしておくこと									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	I 編 歯周治療の基礎 1章 歯周治療とは	歯周病になると具体的にはどうなるのか、歯周治療で現在はどこまで歯を残すことができるかを知る。		
2	I 編 2章 健康な歯周組織の構造と機能(1)	歯周組織の構造がどのようにになっているかをイメージすることができる。		
3	I 編 2章 健康な歯周組織の構造と機能(2)	歯周組織の構造と名称を自分自身で図示することができるようになる。		
4	I 編 3章 歯周病の種類と病態	歯肉炎と歯周炎の違い 原因は何か 歯周医学について理解する。		
5	I 編 まとめ 小テスト	3章までの理解度を自ら把握し、更に理解を深める。		
6	II 編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方	歯周治療の基本的な進め方を理解し、その流れを説明できる。	教科書のブラッシングの部分を読んでおく。	
7	II 編 2章 歯周病の検査	歯周組織検査のそれぞれの意味を理解し、健康からどれだけ破壊されているかを知る。	教科書の歯周組織検査の部分を読んでおく。	歯周プロープ、基本セット
8	II 編 3章 歯周基本治療 4章 歯周病の抗菌療法	歯周基本治療の目的と手段について説明できる。	教科書のスケーリング・ルートプレーニングの部分を読んでおく。	手用スケーラー
9	II 編 5章 歯周外科治療 6章 根分岐部病変の治療	歯周外科処置の目的、適応症、種類、使用する器材を理解する。 根分岐部病変の治療、適応症について理解する。	教科書の歯周外科の部分を読んでおく。	日本歯周病学会ホームページ内の歯周外科の動画

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
10	II編 まとめ 小テスト	II編の歯周外科治療までの全体の理解度をチェックする。		
11	II編 7章 歯周治療としての口腔機能回復 8章 メンテナンスと サポータティブペリオドンタルセラピー (SPT)	歯周治療としてのリハビリテーションやメンテナンスの目的と方法について理解する。	教科書の口腔機能回復治療及びメンテナンスの部分を読んでおく。	
12	III編 歯周治療における歯科衛生士の業務 1章 歯周治療における歯科衛生士の役割①	歯周治療における歯科衛生士の業務を理解し、その役割がいかに大きいかを自覚する。	教科書のブラッシングの部分を読んでおく。	大型歯列模型、大型指導用歯ブラシ
13	III編 1章 ②スケーリング・ルートプレーニング	スケーリング・ルートプレーニングについてその内容の理解を深める。	日本歯周病学会ホームページ内の歯周外科の動画を視聴しておく。	各自の手用スケーラー、歯列模型
14	III編 1章 ③メンテナンス、SPT	リハビリテーションとメンテナンスについてその内容の理解を深める。	教科書のメンテナンスの部分を読んでおく。	
15	III編 まとめ 小テスト	III編 ①～③全章にわたっての再チェックを行う。		

基本情報

学科名	歯科補綴学	分野	基礎分野[臨床歯科医学]					
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義・技工物製作見学	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
講師名	長 忍	教員の 実務経験	歯科医師。歯学博士。歯科診療所院長。熊本市歯科医師会役員。					
授業との 関連性	臨床歯科医師として、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。							
講師名	(愛歯)渡邊裕士	教員の 実務経験	歯科技工士。歯科技工所に在籍し教育マネージャーとして活躍。					
授業との 関連性	大手歯科技工所に勤務し自らも歯科技工士として補綴物製作にあたりながら後輩への指導を実践している視点から、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。							

詳細情報

授業目標	〈長 先生〉 顎口腔機能について理解するとともに、歯科補綴とは何かを理解し、歯科衛生士としての関わり合いを学習する。 〈渡邊先生〉 補綴装置の分類・特徴を理解・整理することで、補綴治療の意義と目的への理解を深める。 補綴装置の仕組み・構造と使用材料を理解することで、補綴治療の実際への理解を深める。 補綴物の製作過程を学ぶことで、補綴治療の実際における歯科衛生士の役割を理解する。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	第1版第3刷 歯科補綴学専門用語集 (日本補綴学会編) 医歯薬出版									
使用設備・ 備品・準備 物	PC、プロジェクター、咬合模型(大きいサイズ)									
履修上の 注意	〈渡邊先生〉 小社(愛歯)見学プログラム進行とワークシート記入により、学習を深め、その評価を行いたい為 黄色のマーカーと赤・黒のボールペンをご持参願います。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	補綴治療の意義と目的				①補綴の意義と目的を理解する。 ②歯科衛生士の役割について説明できる。					
2	補綴歯科治療の基礎知識				歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。			小プリント①		
3	補綴歯科治療における検査				口腔内や顎機能の検査について説明できる。			小プリント②		
4	クラウン・ブリッジ治療①				クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説でき、治療の流れを説明できる。			小プリント③		
5	クラウン・ブリッジ治療②				①クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる。 ②クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明できる。			小プリント④		
6	全部床義歯治療①				①部分床義歯治療の特徴を概説できる。 ②部分床義歯治療の流れの説明や材料の準備ができる。			小プリント⑤		
7	全部床義歯治療②				①部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。 ②部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。			小プリント⑥		
8	部分床義歯治療①				①部分床義歯治療の特徴を概説できる。 ②部分床義歯治療の流れの説明や材料の準備ができる。			小プリント⑦		
9	部分床義歯治療②				①部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。 ②部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。			小プリント⑧		

回	授業計画	到達目標	準備学習
10	インプラント治療	①インプラント治療の特徴を概説できる。 ②インプラント治療の流れ等の説明や器材準備等が実施できる。	小プリント⑨
11	特殊口腔内装置を用いる治療と補綴歯科治療における器材の管理	①特殊な口腔内装置の特徴を概説できる。 ②補綴歯科治療の器材管理の概説と器材別の滅菌等を実施できる。	
12	(学園にて)補綴物の製作過程	補綴物の仕組み・構造・使用材料について説明できる。	Web資料による予習
13	(学園にて)部分床義歯、総義歯の製作過程	有床義歯による欠損補綴処置について説明できる。	Web資料による予習
14	(愛歯にて)補綴物製作の見学1 (歯科技工の流れと、その使用材料・器材)	補綴物製作過程の実際と必要な材料・器材を理解する。	Web資料による予習
15	(愛歯にて)補綴物製作の見学2 (歯科技工の流れ 従来法とCAD/CAM技工)	補綴物製作過程の実際において必要な加工プロセスの従来技法とデジタル技法を理解する。	Web資料による予習

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	歯科矯正学	分野	専門分野 [臨床歯科医学]			講師名	上村 裕希		
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8回	
教員の 実務経験	歯科医師。鹿児島大学大学院歯科矯正学分野にて13年勤務。その後、矯正専門クリニックを開設。								
授業との 関連性	歯科矯正治療を専門にクリニックを開設し、日本矯正歯科学会認定医として日々診療を行っている経験と大学で学んだ知識を基に、歯科矯正治療の目的、治療方法、歯科衛生士の役割、口腔保健管理について講義を行う。								

詳細情報

授業目標	歯科矯正学における基本的な事項を説明し、理解させることによって、歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割について学び、将来、歯科矯正治療を行うチームの一員として活躍できるようにする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
受験資格・単位認定は学則・細則に準じます。										
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学 第2版」 氷室利彦著 医歯薬出版 K K									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意										

回	授業計画	到達目標	準備学習
1	矯正歯科治療の概要について 成長発育について	①歯科矯正学の定義について説明できる。 ②矯正歯科治療の目的を説明できる。 ③歯科矯正治療のベネフィットとリスクについて説明できる。 ④成長発育の4つの型の名称とその特徴を説明できる。 ⑤上顎・下顎の成長発育について説明できる。 ⑥骨の成長の3つの様式を説明できる。	該当項目を読んでおく。
2	正常咬合と不正咬合について 歯科矯正診断について	①正常咬合を説明できる。 ②不正咬合を説明できる。 ③Angleの不正咬合分類を説明できる。 ④矯正歯科診断に必要な検査項目を列挙し、その意義を説明できる。 ⑤模型分析の方法とその意義を説明できる。 ⑥頭部エックス線規格写真分析の方法とその意義を説明できる。	該当項目を読んでおく。
3	矯正歯科治療と矯正力・顎整形力について矯正歯科治療と矯正力・保定について	①矯正力と移動する歯、固定の関係を説明できる。 ②歯が移動する際の歯周組織反応を説明できる。 ③器械的矯正力と機能的矯正力を説明し、利用する装置をあげることができる。 ④固定の3つの種類を説明できる。 ⑤保定の定義と主な装置を説明できる。 ⑥矯正歯科治療の再発の定義とその要因を説明できる。	該当項目を読んでおく。
4	矯正装置について 上下顎の前後の関係の不調和について 上下顎の垂直的關係の不調和について	①矯正装置の分類について説明できる。 ②矯正装置の種類とその構成を説明できる。 ③矯正装置装着時の指導ができるようになる。 ④Ⅰ級Ⅱ級Ⅲ級の不正咬合を説明できる。 ⑤過蓋咬合を説明できる。 ⑥開咬を説明できる。	

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	成人矯正について 口腔顎顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数の異常について 矯正歯科治療時のトラブルへの対応について 健康保険が適用される矯正について	①補助的矯正歯科治療と包括的矯正歯科治療の相違を説明できる。 ②成人患者の矯正歯科治療の注意点を説明できる。 ③歯周治療や補綴処置のための矯正歯科治療を説明できる。④口唇・口蓋裂の咬合異常とその治療について説明できる。 ⑤不正咬合をもたらす主な症候群をあげることができる。 ⑥顎変形症の治療の流れを説明し、骨切り手術の必要性を説明できる。	該当項目を読んでおく。
6	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診断にかかわる業務 矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診療時の業務、矯正歯科患者と口腔保健管理	①矯正歯科診断に必要な資料について説明できる。 ②顔面写真、口腔内写真撮影の要点を説明できる。 ③模型製作のための印象採得の要点を説明できる。 ④矯正歯科治療に用いる器具の用途について説明できる。 ⑤各種矯正装置装着時における補助について説明できる。 ⑥各種矯正装置装着時における注意点を説明できる。 ⑦ブラークコントロールに使う器具について説明できる。	該当項目を読んでおく。
7	口腔筋機能療法	①口腔筋機能療法の訓練について説明できる。 ②口腔周囲組織のアセスメントについて説明できる。 ③吸指癖の指導について説明できる。 ④口腔筋機能療法の効果について説明できる。	該当項目を読んでおく。
8	矯正治療全般についてのまとめ	7回までの講義において分かりにくかったところ、説明不足であった点について再確認。	全体で不明な点の再確認しておく

基本情報

学科目名	口腔外科学	分野	専門分野[臨床歯科医学]			講師名	今村妃花		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学大学院生命科学研究部 歯科口腔外科学講座入局。								
授業との 関連性	歯科口腔外科医としての臨床経験を踏まえ、顎・口腔領域に発現する疾患や口腔外科診療における歯科衛生士の役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	口腔外科の基礎知識及び臨床上必要となる関連知識の習得を目指す。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	0点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	0点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	歯科衛生士シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」野村武史著也医師薬出版株式会社									
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクター									
履修上の 注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常	口腔外科の概要について説明できると顎・口腔領域の先天異常と発育異常について説明できる。	教科書第1.2章の予習	
2	顎・口腔領域の損傷及び機能障害	顎・口腔領域の損傷及び機能障害とその治療について説明できる	教科書第3章の予習	
3	口腔外科疾患①	顎・口腔領域の粘膜疾患とその治療について説明できる。	教科書第4章の予習	
4	口腔外科疾患②	顎・口腔領域の炎症性疾患及び嚢胞性疾患とその治療について説明できる。	教科書第5.6章の予習	
5	口腔外科疾患③	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患とその治療について説明できる。	教科書第7.8章の予習	
6	口腔外科疾患④	顎・口腔領域の唾液腺疾患および神経疾患とその治療について説明できる。	教科書第9.10章の予習	
7	口腔外科疾患⑤、口腔外科診療の実際	口腔外科診療の実際の流れや患者管理について説明できる。	教科書第11.12章、II編1章の予習	
8	まとめ	学習確認、手術イメージビデオなど	授業前の確認テスト	

基本情報

学科目名	小児歯科学	分野	専門分野[臨床歯科医学]小児歯科疾患論			講師名	深水 篤	
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8回
教員の 実務経験	歯科医師。日本小児歯科学会専門医指導医。日本障害者歯科学会認定医。 鹿児島大学小児歯科7年間勤務。伊東歯科口腔病院小児・障がい者歯科部長。							
授業との 関連性	長年の小児歯科医としての経験を踏まえ、小児口腔疾患やう蝕予防、歯科衛生士の役割りについて講義する。							

詳細情報

授業目標	小児歯科医療は病気に対する治療や予防に限らず、健全な小児を育成するという目的を持っている。そのため保健学、予防歯科学の知識も重要となる。胎生期から成人にいたる間の小児の正常な口腔領域の発育を促し、これを阻害する口腔疾患について種類と治療を知ることによって、歯科衛生士が小児のライフステージに応じた対応方法、口腔衛生指導、う蝕予防、小児口腔疾患及び障害児の診療補助業務および疾患の予防を理解することを目標とする。また小児歯科診療における歯科衛生士の役割の大きさも理解することを目標とする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	新小児歯科学 第3版 クインテッセンス出版株式会社 2009年									
使用設備・ 備品・準備 物	PC、プロジェクター、ピンマイク									
履修上の 注意	教科書に沿った講義を臨床スライド、ビデオを用いて行う。しっかりと講義を聴き、ノートをとること。評価は期末試験で行うが、出席率・授業中の態度の悪い者は減点するので注意するように。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	小児歯科学概論 心身の発育 小児の生理的特徴	発育段階と口腔の変化を説明できる。 発育の概念と分類を説明できる。 年齢と身体発育の特徴を説明できる。 生理的年齢について説明できる。 器官の発育・精神機能の発達について説明できる。 バイタルサインと生理的特徴を説明できる。 薬剤処方と薬物療法を説明できる。	教科書P2～22	配布資料あり
2	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 歯列・咬合の発育と異常	脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化を説明できる。 脳頭蓋の発育の特徴を説明できる。 顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。 歯の発育段階を説明できる。 歯の発育時期と形成異常を説明できる。 乳歯・永久歯の萌出時期と順序を説明できる。 歯の萌出異常を説明できる。 歯列・咬合の発育段階を説明できる。 歯列・咬合の異常を説明できる。 口腔習癖に起因する不正咬合を説明できる。 歯性不正咬合について説明できる。	教科書P23～52	配布資料あり
3	小児の歯科疾患 小児虐待	小児にみられるう蝕・歯周疾患について説明できる。 小児虐待について、種類・背景について説明できる。 身体的虐待による頭部・顔面・口腔・歯の所見について説明できる。 ネグレクトとう蝕について説明できる	教科書P53～71	配布資料あり
4	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法	乳幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 学童期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 思春期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 小児歯科における患者との対応法について説明できる。 歯科治療時の対応法について説明できる。	教科書P73～95	配布資料あり

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
5	小児歯科における診療体系1	小児歯科診療とその特徴・原則について説明できる。 診察・検査・診断について説明できる。 小児の歯の健康教室について説明できる。 小児歯科における麻酔法について説明できる。 小児の歯冠修復について説明できる。 小児の歯内療法について説明できる。	教科書P96～137	配布資料あり
6	小児歯科における診療体系2	小児の外科的処置について説明できる。 咬合誘導を説明できる。 フッ化ジアンミン銀塗布について説明できる。 リコール(定期健診)を説明できる。	教科書P137～153	配布資料あり
7	障害児の歯科治療 う蝕予防	障害児における歯科的対応法を説明できる。 主な障害とその全身的・歯科的特徴を説明できる。 障害児への対応法を説明できる。 小児の摂食・嚥下障害の特徴を説明できる。	教科書P156～168	配布資料あり
8	小児の口腔健康管理 歯科診療室と器材の管理 全体復習	診療補助と歯科衛生士の役割を説明できる。 成長時期に応じた口腔健康管理ができる。 口腔健康管理に必要な検査と指導ができる。 診療室・待合室・受付・器材の管理について説明できる。	教科書P168～204	配布資料あり

基本情報

学科名	障害者歯科学	分野	専門分野[臨床歯科医学]障害者歯科疾患論	講師名	山川摩利子
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位
教員の実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市民病院歯科、熊本市東区保健子ども課兼熊本市口腔保健支援センター勤務。熊本市口腔保健支援センター長。				
授業との関連性	日本障害者歯科学会指導医としての経験を活かし、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境や障害の種類・特徴、また歯科医療の関わりや歯科衛生士の役割りについて講義する。				

詳細情報

授業目標	障害を理解し、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境を理解する。そのうえで、将来、歯科医療人として当たり前の診療行為を提供するために必要な知識を習得する。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 向井美恵著 医歯薬出版KK									
参考文献	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第二版 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版KK									
使用設備・備品・準備物	パソコン、プロジェクターを使用します。									
履修上の注意	補助資料のプリントを配布する予定です。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	第1章 障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ ②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み 障害の発生原因 染色体異常と遺伝子異常疾患について				①歯科医療におけるスペシャルニーズを説明できる ②国際生活機能分類を説明できる ③障害児・者のQOLが説明できる ④ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる ⑤障害のある人と福祉制度について説明できる ⑥障害者歯科医療の仕組みが説明できる 染色体異常と遺伝子異常について説明できる			教科書の内容を理解しておく 配付プリントの復習		
2	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①神経発達症群 1. 知的能力障害 2. 自閉スペクトラム症 3. 注意欠如・多動症 4. 限局性学習症				神経発達症群のそれぞれについて説明できる 発生原因 特徴的徴状 口腔内の特徴			教科書の内容を理解しておく 疾患ごとの特徴を理解する		
3	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ②運動障害(神経・筋疾患) 1. 脳性麻痺 2. 重症心身障害 3. 筋ジストロフィー 4. 脊髄損傷 5. 関節リウマチ 6. 脳血管障害 7. 筋萎縮性側索硬化症 8. その他の障害				運動障害について説明できる 発生原因 特徴的徴状 口腔内の特徴			教科書の内容を理解しておく 疾患ごとの特徴を理解する		
4	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ③感覚障害 1. 視覚障害 2. 聴覚障害 3. 盲聾 4. その他の障害 ④音声言語障害 ⑤精神および行動の障害 ⑥その他一障害のある人への虐待				感覚障害、音声言語障害、精神および行動の障害等について説明できる 発生原因・分類 特徴的徴状 口腔内の特徴			教科書の内容を理解しておく 疾患ごとの特徴を理解する		

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	第3章 障害者の歯科医療と行動調整 ①コミュニケーションの方法 ②行動療法 ③体動のコントロール ④薬物的行動調整法	障害者の歯科医療と行動調整について説明できる 障害に応じた行動調整法を選択できる ①障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる ②障害者歯科で用いられる行動調整法を歯科衛生士の役割を説明できる (1)行動療法(行動変容)と歯科衛生士の役割を説明できる (2)体動のコントロールと歯科衛生士の役割を説明できる (3)薬物を用いた行動調整と歯科衛生士の役割を説明できる	教科書の内容を理解しておく 配付プリントの復習
6	第4章 健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援 ②口腔健康管理 ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	口腔衛生管理について説明できる 患者の全身状態について理解し、それに応じた口腔衛生管理方法が説明できる	教科書の内容を理解しておく 配付プリントの復習
7	第5章 リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制	障害者歯科におけるリスク評価について説明できる 医療安全管理体制について説明できる 感染制御体制について説明できる	教科書の内容を理解しておく 配付プリントの復習
8	第7章 地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携 ②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク ④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科 ⑥三次医療機関における障害者歯科	障害者歯科と地域医療連携について説明できる 障害者歯科に関連する職種について説明できる 保健・医療・福祉のネットワークについて説明できる 一次・二次・三次医療機関の障害者歯科における役割を説明できる	教科書の内容を理解しておく 配付プリントの復習

令和8度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	高齢者歯科学	分野	専門分野[臨床歯科学]高齢者歯科疾患論	講師名	羽生真也
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位
教員の実務経験	博士(歯学)、歯科医師 西日本病院勤務 日本老年歯科医学会専門医指導医 介護支援専門員 福岡歯科大学総合歯科学講座総合歯科学分野助手経験あり				
授業との関連性	歯科医師としてこれまで高齢者歯科診療の経験を通して、高齢者歯科学の一連の流れについて講義する。				

詳細情報

授業目標	高齢者をとりまく社会と環境を踏まえ、高齢者に関わる医療と介護を理解し、歯科衛生士として多職種と連携し、臨床に携わる準備を行う。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	0点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	マイナス ポイント	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 植田耕一郎著他 医歯薬出版KK									
参考文献	無									
使用設備・備品・準備物	教科書、プリント、パワーポイントを用いて講義します。									
履修上の注意	授業の中身だけではなく、受講しやすい環境を作っていきます。									
回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物	必要な場合はご利用ください。					
1	高齢社会と健康①	高齢社会の現状を理解し、高齢者の人口比率の推移、平均寿命・健康寿命の特性、主要な死亡原因、の特徴を説明できる。	P.6～9	教科書・パワーポイント						
2	高齢社会と健康②	高齢社会の現状を理解し、現在歯数・未処置歯数・喪失歯数・歯周ポケットの特徴を説明できる。	P.9～12	教科書・パワーポイント						
3	高齢者の健康に関わる法制度①	高齢者の保健・医療・福祉対策の経緯、健康に関わる法律、介護保険制度、要介護認定、地域包括ケアシステムの概要について説明できる。	P.13～27	教科書・パワーポイント						
4	高齢者の健康に関わる法制度②	歯科衛生士が関与する介護予防について説明できる。	P.27～32	教科書・パワーポイント						
5	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの構成要素、地域包括支援センターの業務、地域ケア会議の機能、地域包括ケアにおける歯科医療の役割を説明できる。	P.33～37	教科書・パワーポイント						
6	高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴	高齢者の居住場所を規定する要件、高齢者向け住宅の種類と特徴、高齢者施設の種類と特徴、介護保険施設の種類と特徴を説明できる。	P>38～43	教科書・パワーポイント						
7	高齢者のリハビリテーションの概要	リハビリテーションの概念、障害のみかたと分類、チーム医療の概念、リハビリテーション上問題となる高齢者の特徴について説明ができる。	P.250～255	教科書・パワーポイント						
8	在宅医療の概要	在宅医療の背景、目的、訪問診療と往診の違い、在宅医療の対象となる人、在宅医療制度の概要、在宅における歯科衛生士の役割について説明できる。	P.256～262	教科書・パワーポイント						
9	訪問看護と歯科の役割・訪問介護と歯科の役割	訪問看護ステーションと歯科医療の連携のあり方を説明できる。訪問介護と歯科医療の連携、口から食べる事と歯科衛生士の役割について説明できる。	P.263～272	教科書・パワーポイント						
10	訪問診療における歯科医療	歯科訪問診療の社会的現況、診療内容、歯科衛生士の役割を説明できる。歯科訪問診療における感染対策を説明できる。	P273～277	教科書・パワーポイント						

基本情報

学科目名	歯科口腔放射線学	分野	専門分野[臨床歯科医学]歯科口腔放射線論			講師名	嶋田英敏		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。福岡歯科大学放射線科在籍。(助手)								
授業との 関連性	歯科放射線の知識、画像診査法と画像診断や歯科衛生士の法的役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として必要な歯科放射線の知識を習得する。特に歯科放射線診療における適切な補助、放射線防護を行うための基礎知識および画像診査法と画像診断学の基本を習得し歯科医療に大いに貢献できる歯科衛生士を育成することを目標とする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点: 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験: 学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課: ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件: 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	「歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版」飯久保正弘・香川豊宏著他 学建書院									
参考文献	最新「歯科放射線」 岡野友宏著 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	PC プロジェクター									
履修上の 注意	積極的に学び取ろうとする姿勢で臨んでください。また、講義中の私語は厳禁。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	第1回: 放射線とエックス線の基礎及び放射線の影響 対応章: 第1章「放射線とエックス線」、第2章「放射線の影響」 内容:放射線の種類と特性 エックス線の生成原理と性質 歯科での利用概要、放射線の人体への影響				目標: 歯科衛生士として必要な放射線とエックス線の基本を理解する。放射線の生体への作用を学ぶ。			教科書:P2~21教科書:P22~29		
2	第2回: 歯科用エックス線装置の構造と画像形成 対応章: 第3章「歯科用エックス線装置」、第4章「エックス線画像の形成」、 内容: エックス線装置の構成(管球、コリメーターなど)、画像形成の原理(透過、吸収)				目標: エックス線装置の理論的基盤を学ぶ。			教科書:P30~35教科書:P36~51		
3	第3回: エックス線撮影法(口内法)① 対応章: 第5章「撮影法(口内法)」 内容: 患者の状態に合わせた必要情報を収集する各種口内撮影法を理解する。				目標: 口腔内撮影の種類及び違いを理解する。			教科書:P52~89		
4	第4回: エックス線撮影法(口内法)② 対応章: 第5章「撮影法(口内法)」 内容				目標: 基本的な撮影技術を理解し、正確なポジショニングを習得する			教科書:P:52~89		
5	第5回: 「撮影法(口外法)① 対応章: 第6章「撮影法(口外法)」 内容口外法(パノラマ、セファロ)の理論				目標: 口外撮影の種類及び違いを理解する。			教科書:P90~127		
6	第6回: 「撮影法(口外法)② 対応章: 第6章「撮影法(口外法)」 内容口外法(パノラマ、セファロ)の理論				目標: 基本的な撮影技術を理解し、口外法(パノラマ撮影)の正確なポジショニングを理解する。			教科書:P90~127		
7	第7回: 対応章: 第7章「フィルム処理」、第8章「デジタルエックス線システム」、第9章「正常なエックス線画像」 内容: フィルム現像のプロセスと注意点 デジタル撮影の仕組みと利点 正常解剖(歯、骨、軟組織)の特徴				目標: フィルム処理のステップを説明でき、それを踏まえてデジタルX線システムを理解する。病変画像を学ぶ前に正常画像を理解する。			教科書:P128~137 教科書:P138~143教科書:P144~149		
8	第8回: 放射線治療と総括 対応章: 第10章「病変の画像例」、第11章「放射線の防護と管理」、第12章「放射線治療」 内容: 歯科領域での放射線治療の概要 講義全体の振り返りと実習準備				目標: 病変画像の識別スキルを習得し、安全な放射線管理の知識を深める。放射線治療のリスクとベネフィットを理解する。			教科書:P150~161教科書:P162~170教科書:P172~178		

基本情報

学科目名	歯科予防処置Ⅱ	分野	専門分野[歯科予防処置論]					
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	4単位	120時間	授業回数	60

講師名	大塚めぐみ	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							
講師名	西口 真美	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							

詳細情報

授業目標	(前期)臨床実習に対応するために、学院内実習を通して技術、及び患者への対応を修得する。 (後期)現場における歯科衛生士の役割と業務を理解し、実践力を養うために、様々な場面に対応できる能力を身につける。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	/点	実技・発表 ワーク(演習) など	/点	受講態度	/点	合計	100点
	項目ごと実技試験 (学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート) ③歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社 ④歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 ⑥歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	当番は必要な準備物を授業開始3日前までに担当講師に確認をとること。									
履修上の 注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。配布資料はMoodleから確認することができます。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング1			刃の原形を維持しながら、もとの切れ味に復元することができるよう正しいシャープニング方法を習得できる。			教本P202を予習しておく			
2	(試験)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作実技試験			指示された歯牙を間違えることなく、正確なポジションニング、適切なスケーラーを用い、歯肉溝内の歯石を除去できる。			過去の配布資料を再度復習しておく			
3	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作(復習)			各部位に適したポジションでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。			教本P186～を復習しておく			
4	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物総論 フッ化物局所応用によるう蝕予防処置 フッ化物摂取量とその基準 フッ化物の代謝・水道水フッロリデーション 食品へのフッ化物添加			フッ化物の総論を理解することができる。			教本P233～257を予習しておく			
5	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物歯面塗布法・術式 (トレー法・イオン導入法)			トレー法、イオン導入法の手順がわかる。						
6	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口法の作製・使用法			フッ化物洗口法の作製手順を理解することができる。						
7	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 溶液量測定・中毒量算出			フッ化物の中毒量の算出方法がわかる。						
8	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 中毒量算出 ライフステージ別のフッ化物の局所応用			ライフステージにおけるフッ化物の応用を理解することができる。						
9	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物綿球塗布法			フッ化物綿球塗布法を実践することができる。						
10	シャープニング・フッ化物に関する総まとめ練習問題			①シャープニングに関する知識の再確認ができる			これまでの資料を確認しておく			
11	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTGについて1			バイオフィルムを物理的に取り除くためにはどのような器材があるか理解し、それぞれの目的、種類を理解する。			教本P222～を予習しておく			
12	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 PTC			ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。			教本P222～を予習しておく			

回	授業計画	到達目標	準備学習
13	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器について	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択を理解できる。	教本P222～を予習しておく
14	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作1 上顎	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	教本P278～280を復習しておく
15	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作2 下顎	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	
16	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 PTC	歯列不正な口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。	教本P222～を予習しておく
17	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面研磨 上顎/下顎 示説・1人目	ヒト口腔内にて歯面研磨の一連の操作を実践することができる。	教本P222～を予習しておく
18	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面研磨 上顎/下顎 2人目・3人目	同上	教本P222～を予習しておく
19	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 キュレットスケールリング～PTC	ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。	教本P185～232を予習しておく
20	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 スケールリング～PTC 復	歯列不正な口腔内にてスケールリングからPTCを操作することができる。	教本P185～232を予習しておく
21	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)1・2人目	口腔内の状況に応じた研磨用器具を選択し、対象者に配慮した確実なPTCの一連の操作を実践することができる。	教本P222～を予習しておく
22	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)3人目・記録	同上	教本P222～を予習しておく
23	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 上顎3～3ブローピング操作・染め出し～術者磨き・サブソニックブラシ操作実習 示説・1人目	ブローピング操作を適切に行うことができる。 歯ブラシを施術部位に的確に当て、歯垢染色剤を落とすことができる。 器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行う操作ができる。	教本P222～を予習しておく
24	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 上顎3～3ブローピング操作・染め出し～術者磨き・サブソニックブラシ操作実習2人目	同上	教本P222～を予習しておく
25	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 上顎3～3ブローピング操作・染め出し～術者磨き・サブソニックブラシ操作実習3人目	同上	教本P222～を予習しておく
26	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 右下4～7ブローピング操作・染め出し～サブソニックブラシ操作一人バキューム実習 示説・1人目	ブローピング操作を適切に行うことができる。 器材の使用目的を理解したうえで、一人でバキュームを行いながら、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行うことができる。	教本P222～を予習しておく
27	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 右下4～7ブローピング操作・染め出し～サブソニックブラシ操作一人バキューム実習2人目	同上	教本P222～を予習しておく
28	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 右下4～7ブローピング操作・染め出し～サブソニックブラシ操作一人バキューム実習3人目	同上	教本P222～を予習しておく
29	(講義) 歯周疾患の指数	口腔内の状態を評価するために、歯周疾患の状態を数値化し、その変化を観察できる。	教本P158～を予習しておく
30	(講義) う蝕の指数 う蝕抑制効果評価とスクリーニング	口腔内の状態を評価するために、う蝕の状態を数値化し、その変化を観察できる。 スクリーニング検査に使用する検査法の信頼性の指標の説明ができる。 敏感度および特異度を計算できる。	教本P158～を予習しておく
31	(演習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用 フッ化ジアンミン銀 布への着色・脱色方法 練習問題	フッ化ジアンミン銀溶液の作用について理解を深めるとともに、患者および術者の衣類を汚染した場合の処置ができる。	教本P258～を予習しておく
32	(講義)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 小窩裂溝充填塞法総論	①小窩裂溝充填塞法の作用機序と適応症を理解し手順を説明できる。 ②フッ化ジアンミン銀溶液の特徴・作用機序・注意事項・取扱い方法を説明できる。	教本P258～を予習しておく
33	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝充填塞法(レジン系)1	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法について術式を理解し、必要な器材の取り扱い及び充填塞法を習得する。	教本P258～を予習しておく
34	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム防湿使用小窩裂溝充填塞法(セメント系)2 示説・1人目	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布法について一連の術式を理解し、必要な器材や材料の的確な取り扱い及び操作方法を学ぶ。	教本P258～を予習しておく
35	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム防湿使用小窩裂溝充填塞法(セメント系)2 2・3人目	同上	教本P258～を予習しておく

回	授業計画	到達目標	準備学習
36	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験③	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい操作でテストを行うことができる。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができる。 ③1年次の結果と比較することができる。	教本P158～を予習しておく
37	(講義・演習)Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 位相差顕微鏡の基礎知識と取り扱いについて(復習)	①位相差顕微鏡の取り扱いが適切にできる。 ②位相差顕微鏡を用いて口腔内の状態を説明できる。	
38	(講義・演習) 予防プログラム①う蝕カリオグラム	う蝕レーダーチャート、歯周病レーダーチャートに結果を入れ口腔内の問題点を読み取ることができる。	教本P158～を予習しておく
39	(講義・演習) 予防プログラム②歯周疾患	同上	
40	(実習) 予防プログラム う蝕カリオグラム・歯周疾患プログラムの実施 1人目(2ペア)	対象者に応じたう蝕・歯周病予防プログラムを実施することができる	
41	(実習) 予防プログラム う蝕カリオグラム・歯周疾患プログラムの実施 2人目(2ペア)	同上	
42	(演習) 予防プログラム う蝕カリオグラム・歯周疾患プログラムの実施 プログラム実施後の記録	実践した予防プログラムを記録することができる	
43	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎右側(エア)	①適切な超音波・エアスケラーの操作ができる。 ②術式を理解しスムーズに操作ができる。	教本P185～232を予習しておく
44	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎左側(エア)	同上	教本P185～232を予習しておく
45	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 下顎右側(エア)	同上	教本P185～232を予習しておく
46	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 下顎左側(エア)	同上	教本P185～232を予習しておく
47	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(下顎)1人目	基礎実習とファントム実習で履修した技術により、患者・補助者・術者のそれぞれの立場での心構えを持ち、模擬症例ごとに事前学習し対応法についてイメージトレーニングして臨むことができる。	教本P185～232を予習しておく
48	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(下顎)2人目	同上	教本P185～232を予習しておく
49	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(下顎)3人目	同上	教本P185～232を予習しておく
50	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)1人目	基礎実習とファントム実習で履修した技術により、患者・補助者・術者のそれぞれの立場での心構えを持ち、模擬症例ごとに事前学習し対応法についてイメージトレーニングして臨むことができる。	教本P185～232を予習しておく
51	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)2人目	同上	教本P185～232を予習しておく
52	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)3人目	同上	教本P185～232を予習しておく
53	(講義・演習) ダイアグノデントペン取り扱い	カリエスの進行状態を数値化し、う蝕の状態を患者にわかりやすく説明することができる。	事前に配布します
54	(実技)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 CPIプローブ操作・ファーケーションプローブ実習	①CPIプローブの目的を理解し、操作できる。 ②ファーケーションプローブの目的を理解し、操作できる。	教本P133～を予習しておく
55	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器(エピック2in1、エアフロー、エアフローハンディ)1取り扱い・机上操作実習PMTc(エパチップ)取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	教本P230～231を復習しておく
56	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器(エピック2in1、エアフロー、エアフローハンディ)2ファントム実習	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	
57	(講義)歯科予防処置法 模擬試験 解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる	過去の配布資料を再度復習しておく
58	保護者対面実習ロールプレイ①	保護者対面実習の要項に準ずる	保護者対面実習の要項に準ずる
59	保護者対面実習ロールプレイ②		
60	保護者対面実習ロールプレイ③		

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科科目名	保健指導法Ⅱ	分野	専門分野[歯科保健指導論]			講師名	岩切 恵子	
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	60時間	授業回数	30
教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院前教務主任。栄養コンシェルジュ二つ星。							
授業との 関連性	人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する							

詳細情報

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動の中で対象者に寄り添った適切な支援等ができるよう基礎知識、技術を学ぶ。また、2年次は特に超高齢社会における歯科医療の重要性や多様な全身疾患を持った高齢者、介護を要する対象者への係わり方や健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また、自身の口腔内でも口腔管理ができるようになる。								
成績評価 方法	前期定期試験	95点	小テスト		実技・発表 ワーク(演習) など	5点	受講態度	合計	100点
	後期定期試験	95点	レポート			5点			100点
	*後期試験のみグループ学習 他者評価5点満点								
	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科科目は1回限り 再試験 を受けることができる 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科科目の授業時間数が3分の2に満たない者								
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院 ③「歯科衛生士のための全身疾患マニュアル」橋本賢二他 医歯薬出版KK								
参考文献	授業の中で紹介します。								
使用設備・ 備品・準備 物	随時、授業中に連絡をします。								
履修上の 注意	単元ごとに復習問題を配布しますので次の授業までに必ず解答し持参すること。 医療に関する話題には興味を持ちチェックすること。 シラバスはあくまで予定であり皆さんの理解度によっても変更があります。								

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	幼稚園実習のための寝かせ磨き実習	園児役に苦痛を与えず、丁寧に口腔清掃ができる。		床に仰臥のためスポーツウエア着用 エプロン、各自使用中の歯ブラシ、コップ、染色剤、綿棒、アルミカップ、ティッシュペーパーなど必要なもの
2	Ⅳ編 対象別の歯科衛生介入 1章 ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑥成人期 1.一般的特徴 プレスローの7つの健康習慣 2.口腔の特徴 3.歯科衛生介入 4.食生活 (詳細は「栄養指導」で履修する)	1.成人期の生活の背景を理解する。 2.一般的特徴を説明できる。 3.プレスローの7つの健康習慣を説明できる。 4.口腔内の特徴を述べる事ができる。 5.プロフェッショナルケアの概要を理解する。 6.セルフケアの目標が説明できる。	関連ページを読んでおく。	
3	7.生活習慣病の食事療法と歯科保健指導のポイント (詳細は全身疾患学習時に履修する) ＜教本「オーラルヘルスケア事典」にて履修＞ 歯周疾患に罹患した患者への歯科衛生介入 1.歯間空隙 2.孤立歯 3.歯肉退縮 4.知覚過敏 5.歯周病・歯周ポケットのある部位	1.身体の状態や疾病への食事指導の概要を説明できる。 2.歯周疾患患者への介入について概要を簡単に説明できる。 3.各種口腔状態にあった歯科保健指導のポイントが説明できる。	関連ページを読んでおく。	
4	＜教本「オーラルヘルスケア事典」にて履修＞ 各種補綴物を装着した患者への歯科衛生介入 1.クラウン 2.ブリッジ 3.義歯 4.インプラント	1.各種補綴物にあった歯科保健指導のポイントが説明できる。	関連ページを読んでおく。	
5	Ⅲ編2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ④生活環境と生活背景の把握 ⑤生活習慣の把握 Ⅲ編4章歯科衛生介入としての歯科保健指導 ③生活習慣の指導 2.口腔の健康状態と全身的な健康状態の関連 3.喫煙者に対する指導 成人期まとめ(過去の国家試験問題の活用)	1.生活習慣の把握として行われる特定健康診査を知る。 1.喫煙者の健康被害を説明できる。 2.喫煙者の口腔内の特徴を説明できる。 3.禁煙外来の介入の流れを簡単に説明できる。 4.禁煙ステージごとの対応が説明できる。 5.口腔清掃指導と禁煙サポートについて説明できる。 6.歯科衛生士が行う禁煙指導を想定し実践に結び付けることができる。 1.復習問題及び過去の国家試験問題を解きながら理解を深める。	教本の禁煙指導に関するページを読んでおく。	復習問題プリント

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
6	IV編1章 ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑦高齢期 ※詳細は高齢者医学概論、高齢者歯科学にて履修する 1.一般の特徴 2.口腔の特徴	1.清潔な口腔がQOLに繋がる理由を説明できる。 2.一般の特徴、口腔内の特徴を説明できる。	関連ページを読んでおく。	
7	3.歯科衛生介入 ・オーラルフレイル ・口腔機能低下症(概要) ・口腔乾燥症 1.地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を説明できる。	1.オーラルフレイルの概念を説明できる。 2.オーラルフレイルのチェック項目を説明できる。 1.口腔機能低下症の診断と評価を説明できる。 2.口腔機能低下症に対する指導を簡単に説明できる。 1.口腔乾燥症の要因や対処法を説明できる。 1.口腔乾燥症の要因を説明できる。 2.対処方法を説明できる。 3.唾液腺マッサージの説明、指導ができる。 1.地域包括ケアシステムの概要と歯科衛生士の役割を説明できる。	関連ページを読んでおく。	
8	(詳細は学科目「栄養指導」にて履修) 4.食生活の特徴と栄養 5.低栄養の要因 6.食事摂取基準 7.食生活の把握 8.食生活指導	1.サルコペニアを中心とするフレイルサイクルを理解する。 2.低栄養の要因と指標を理解する。	関連ページを読んでおく。	
9	IV編2章配慮を要する者への歯科衛生介入 ①要介護高齢者 1.一般の特徴、公的支援 ・配慮を要する者の生活自立度判定基準 障害高齢者、認知症高齢者 ・改訂BDR指標を説明できる。	1.要介護者の対象を説明できる。 2.障害高齢者の日常生活自立度判定基準を説明できる。 3.認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を説明できる。 4.改訂BDR指標を説明できる。	関連ページを読んでおく。	
10	2.口腔の特徴 3.歯科保健指導	1.口腔健康管理上のポイントと留意点を説明できる。 2.要介護高齢者の口腔清掃時の体位やケアの方法、注意を説明できる。	関連ページを読んでおく。	
11	4.食生活の特徴と栄養 5.食生活指導 (詳細は学科目「栄養指導」にて履修) ②障害児者 1.一般の特徴 2.口腔の特徴 3.障害児(者)の歯科衛生介入 (詳細は「障害者歯科学」にて履修) 1.高齢者・要介護高齢者のまとめ (過去の国家試験問題の活用)	1.高齢者・要介護高齢者への食指導のポイントを説明できる。 1.障害児(者)への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 1.高齢者及び介護の必要な方への基礎知識及び保健指導に係る重要な点を練習問題を解きながら再確認をすることができる。	関連ページを読んでおく。	復習問題プリント
12	全身疾患と口腔健康管理 教本「DHのための全身疾患ハンドブック」を活用 DHが全身疾患の知識を学ぶ理由 全身疾患グループ学習① 実施要領 1.糖尿病 2.骨粗鬆症 3.メタボリックシンドローム 4.心疾患 5.高血圧症 6.認知症 7.脳血管疾患 8.脂質異常症 9.神経難病 10.がん	1.これから学習する概要について理解する。 1.自身が担当した疾患の特徴を優先し学習を進めることができる。 2.自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を学習しまとめることができる。 3.自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できるようまとめることができる。	各自、グループ学習に必要な書籍を読み持参する	説明プリント 自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
13	全身疾患と口腔健康管理 全身疾患グループ学習② 1.糖尿病 2.骨粗鬆症 3.メタボリックシンドローム 4.心疾患 5.高血圧症 6.認知症 7.脳血管疾患 8.脂質異常症 9.神経難病 10.がん	1.自身が担当した疾患の特徴を優先し学習を進めることができる。 2.自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を学習しまとめることができる。 3.自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できるようまとめることができる。	各自、グループ学習に必要な書籍を読み持参する	説明プリント 自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
14	全身疾患と口腔健康管理 全身疾患グループ学習③ 1.糖尿病 2.骨粗鬆症 3.メタボリックシンドローム 4.心疾患 5.高血圧症 6.認知症 7.脳血管疾患 8.脂質異常症 9.神経難病 10.がん	1.自身が担当した疾患の特徴を優先し学習を進めることができる。 2.自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を学習しまとめることができる。 3.自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できるようまとめることができる。	各自、グループ学習に必要な書籍を読み持参する	説明プリント 自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
15	全身疾患と口腔健康管理 全身疾患グループ学習発表① 学生間の質疑応答	1.まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2.各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3.各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4.各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5.疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6.疑問点について質問し理解することができる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	配布テキスト

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
16	全身疾患と口腔健康管理 全身疾患グループ学習発表② 学生間の質疑応答	1.まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2.各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3.各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4.各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5.疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べる ことができる。 6.疑問点について質問し理解することができる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	配布テキスト
17	全身疾患と口腔健康管理 全身疾患グループ学習発表③ 学生間の質疑応答	1.まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2.各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3.各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4.各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5.疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べる ことができる。 1.疑問点について質問し理解することができる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	配布テキスト
18	全身疾患と口腔健康管理 全身疾患グループ学習発表④ 学生間の質疑応答	1.まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2.各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3.各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4.各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5.疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べる ことができる。 1.疑問点について質問し理解することができる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	配布テキスト
19	全身疾患と口腔健康管理 まとめ①(過去の国家試験問題を活用)	1.これまで学習した全身疾患や症状別の口腔健康管理について重要なポイントが理解できる。		配布テキスト 配布練習問題
20	疾患、症例別口腔健康管理 概要説明 グループ学習① 1.脳血管疾患患者 2.出血傾向のある方 3.がん患者 4.口腔カンジダ症患者 5.矯正治療中の方 6. インプラント装着の方 7.口腔乾燥症のみられる方 8.片麻痺などで上手に磨けない方 9.認知症患者 10.睡眠時無呼吸症候群のある患者	1.学習の目的を理解しまとめる項目を理解する。 2.各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 3.指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 4.各症例について理解を深める。		説明プリント 自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
21	疾患、症例別口腔健康管理 グループ学習② 1.脳血管疾患患者 2.出血傾向のある方 3.がん患者 4.口腔カンジダ症患者 5.矯正治療中の方 6. インプラント装着の方 7.口腔乾燥症のみられる方 8.片麻痺などで上手に磨けない方 9.認知症患者 10.睡眠時無呼吸症候群のある患者	1.学習の目的を理解しまとめる項目を理解する。 2.各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 3.指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 4.各症例について理解を深める。		説明プリント 自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
22	疾患、症例別口腔健康管理 グループ学習③ 1.脳血管疾患患者 2.出血傾向のある方 3.がん患者 4.口腔カンジダ症患者 5.矯正治療中の方 6. インプラント装着の方 7.口腔乾燥症のみられる方 8.片麻痺などで上手に磨けない方 9.認知症患者 10.睡眠時無呼吸症候群のある患者	1.学習の目的を理解しまとめる項目を理解する。 2.各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 3.指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 4.各症例について理解を深める。		説明プリント 自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
23	疾患、症例別口腔健康管理 グループ学習発表① 学生間の質疑応答	1.他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2.指導上の注意点がわかる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	説明プリント 配布テキスト
24	疾患、症例別口腔健康管理 グループ学習発表② 学生間の質疑応答	1.他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2.指導上の注意点がわかる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	説明プリント 配布テキスト
25	疾患、症例別口腔健康管理 グループ学習発表③ 学生間の質疑応答	1.他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2.指導上の注意点がわかる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	説明プリント 配布テキスト
26	疾患、症例別口腔健康管理 グループ学習発表④ 学生間の質疑応答	1.他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2.指導上の注意点がわかる。	発表を予定している 班の資料を読んでおく	説明プリント 配布テキスト
27	疾患、症例別口腔健康管理 まとめ①(過去の国家試験問題の活用)	1.復習問題を解きながら、全身疾患ガイドブックにて復習ができる。 2.各々の疾患等に関わる口腔健康管理について大切なポイントが理解できる。		配布テキスト 復習問題
28	症例別口腔健康管理 まとめ②(過去の国家試験問題の活用)	1.復習問題を解きながら、全身疾患ガイドブックにて復習ができる。 2.各々の疾患等に関わる口腔健康管理について大切なポイントが理解できる。		配布テキスト 復習問題

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
29	Ⅲ編2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ①患者からの情報収集 2.医療面接① ・問診と医療面接の違い ・医療面接の目的 ・医療面接の流れ	1.問診と医療面接の違い、目的について説明できる。 2.開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問について説明できる。 3.医療面接の流れについて説明できる。 4.医療面接時の注意点について説明できる。 5.自身が模擬患者役をする時の設定を適切に作成できる。	教科書の関連ページを読んでおく	配布資料
30	医療面接② 医療面接相互演習 まとめ(過去の国家試験問題を活用)	1.患者が話しやすい雰囲気をつくることができる。 2.医療面接の流れを実践することができる。 3.適切な誘導、座位の指示ができる。 4.インタビューの際、開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問や傾聴の言葉を適宜活用することができる。 5.患者の主訴や伝えたいことを正確に把握、記録ができる。 1.復習問題及び過去の国家試験問題を解きながら理解を深める。	自身が演じる患者役を練習しておく	配布資料 復習問題

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	地域歯科保健活動Ⅱ	分野	専門分野[歯科保健指導論]					
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	前期9回 後期6回

講師名	野中友紀子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。災害歯科保健医療体制研修会修了(令和4年度)。JDATアドバンス研修会終了(令和7年度)。歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」教本執筆者。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士および災害歯科保健医療体制研修会修了者として、大規模災害に備え歯科衛生士として円滑な災害歯科保健医療ができるよう基本的な知識について講義・演習する。また歯科衛生業務を実践するために必要な思考過程である歯科衛生過程の臨床における活用を想定した講義・演習をする。							
講師名	未定	実務経験	熊本県健康福祉部医療政策課					
授業との 関連性	熊本県における災害時保健医療対策の経験を基に講義する。							
講師名	宇治信博	実務経験	歯科医師。令和2年7月豪雨 県歯科医師会コーディネーター。熊本県歯科医師会常務理事					
授業との 関連性	熊本県歯科医師会常務理事さらには県歯科医師会のコーディネーターの経験を元に、災害時の歯科の役割を講義する。							
講師名	未定	実務経験	歯科衛生士会(歯科衛生士)					
授業との 関連性	熊本地震での災害保健医療の経験を有す							
講師名	未定	実務経験	歯科衛生士会(歯科衛生士)					
授業との 関連性	熊本地震の際、歯科衛生士会の災害歯科コーディネーターとして、南阿蘇村と西原村の災害歯科保健活動を実施。							
講師名	未定	実務経験	歯科衛生士会(歯科衛生士)					
授業との 関連性	令和2年7月豪雨災害における人吉・球磨郡地域の災害歯科保健活動の経験をもとに講義する。							

詳細情報 ※諸団体の講師は変更にあることもあります。

授業目標	<p>(野中)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団指導案に基づく演習を省察し改善ができる。1. 災害発生時に歯科保健医療の専門職として、地域歯科保健活動が実践できるよう基本的な知識、技術を習得する。 2. 災害発生時の各組織と学生間連携による災害支援計画を思考することができる。 3. 学生主体のボランティア等の所外活動を行うことができる。 4. 演習を通じ、被災地での歯科衛生士としての意見交換および発言場面の想定をすることができる 5. 地域歯科保健の集団指導の場面で率先し活動できるよう、積極的に演習に参加することができる。 6. 歯科衛生業務を実践するために必要な思考過程である歯科衛生過程の臨床における活用を想定し保護者対面実習を行うことができる。 <p>(宇治信博)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害教育を通して、歯科医療従事者としての倫理観を養うことができる。 2. 今後起こり得る大規模災害に備え、地域歯科保健活動の重要性を理解し、多職種と共通言語の下で連携を取りながら的確かつ迅速な対応ができるようになる。 3. 歯科医師会の指揮の下、災害の現場で活動するJDATの活動目的および活動内容を概説できる <p>(歯科衛生士会)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における歯科衛生士の役割と歯科保健活動体制の構築を習得する。 2. フェーズに応じた歯科保健対策及び歯科医療対策の知識を深め、歯科ニーズに沿ったコロナ禍における災害時歯科保健活動が実践できるようになる。 3. 「災害歯科保健活動歯科衛生実践マニュアル」の活用法を説明できる 4. ラピッドアセスメント票の記入目的および記入法を説明できる <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における歯科保健活動を行う際の心がまえや流れを理解する。 2. フェーズごとの歯科衛生士の役割について理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害発生時の避難所における歯科保健活動と災害復興時の歯科保健活動の役割や意義について理解を深める。 2. 災害発生時から復興期まで、それぞれの状況にあった歯科保健活動が実践できるようになる。 								
	定期試験	災害70～80 点 対象別30～	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計
成績評価 方法	<p>(学則)</p> <p>合格点: 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。</p> <p>追試験: 学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。</p> <p>欠課: ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者</p> <p>受験を認めない要件: 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>								
教科書名	<p>最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 著 医歯薬出版</p> <p>最新歯科衛生士教本「保健生態学第2版」可児徳子 他著 医歯薬出版</p> <p>「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院</p>								

参考文献	<p>「災害時の歯科保健医療対策」日本災害時公衆衛生士科研究会編 中久木康一 他著 一世出版 「熊本地震報告書」一般社団法人熊本県歯科医師会 「災害歯科保健医療」標準テキスト 日本歯科医師会編集 「災害歯科保健活動歯科衛生士実践マニュアル2021」公益社団法人 日本歯科衛生士会</p>			
使用設備・備品・準備物	PC、プロジェクター、スライド資料はMoodle上のアップします。必要に応じPCを持参しダウンロードし閲覧してください。			
履修上の注意	<p>(野中)事前課題は必ず厳守とする。演習に必要な教本および文献は各自で準備しておくこと。 グループワーク時は役割を担い、班員と協力し率先して活動すること。 講義日程は複数講師と相談の上、変更になる場合もあります。 配布資料は各自見やすいよう整理・管理を行うこと。 <宇治信博> 必要に応じてディスカッションしてもらいますが関係ない雑談はしないでください。</p>			
回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
前期1	<p>(野中友紀子) 対象別 幼児期 シナリオ、媒体の修正、練習① ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。 ・完成した班は、それぞれ発表の練習を行う。</p>	<p>1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正し、より伝わりやすく作製することができる。 ③園児に楽しんでもらえるよう発表を工夫し実演ができる。</p>	1年次地域歯科保健活動Ⅰ幼稚園実習のシナリオ、媒体作製のまとめ	各班 シナリオ 媒体一式
2	<p>(行政) 熊本県健康福祉部医療政策課 (1)国、都道府県における災害対策について (2)厚生労働省が行う災害医療対策について (3)熊本県における災害医療提供体制について (4)平成28年熊本地震時の熊本県における急性期医療救護活動について (5)令和2年7月豪雨の熊本県における急性期</p>	・被災体験・災害対応の実際をふまえ、災害時に必要な知識を説明できる。	保健生態学 P317～324「災害時の歯科保健」 歯科予防処置論教本P387～393「大規模災害被災者」を読んでおく。	
3	<p>(野中友紀子) 熊本県防災センターでの防災研修 (1)防災センター研修 (2)防災センター展示・学習室見学 (3)レポート、感想の提出</p>	<p>1. 熊本県防災センター展示・学習室での研修(熊本地震や令和2年7月豪雨など熊本県の過去の災害の経験や教訓、災害発生メカニズム、防災の取組などについて、展示パネルやプロジェクションマッピング、VR(ヴァーチャルリアリティ)などにより、学習できる施設) 2. 研修後の振り返りとして、課程に適したレポートを記入することができる</p>	熊本防災センターまでのアクセス法を調べておく。	熊本防災センター ※各自で移動 10分前に指定場所へ集合する
4	<p><野中友紀子> 災害時の歯科保健活動1 (1)全体オリエンテーション 概要説明、資料閲覧について データの取り扱いについて (2)プレテスト (3)災害歯科保健活動総論</p>	<p>1. 大規模災害時の保健医療を説明できる。 2. 大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。 3. 被災地での歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 災害関連死を説明できる。 5. 災害時医療としての歯科的個人識別を説明できる。 6. 歯科的個人識別における歯科衛生士の役割を説明できる。</p>	DHStyle2020.12月号・2021.3月号抜粋し配布した資料を読んでおく。	「災害歯科保健活動総論」は事前にダウンロードしPCを持参すること。(スマホでの閲覧は不可)
5	<p><宇治信博> 災害時歯科医療(歯科医師の立場から1) <宇治信博> 熊本地震、令和2年7月豪雨の活動を元に災害時の歯科支援活動を学ぶ。</p>	支援する側、受援する側それぞれ大切なことを述べる事ができる。		
6	<p><宇治信博> 災害時歯科医療(歯科医師の立場から2) 熊本地震、令和2年7月豪雨の活動を元に地域歯科保健活動の重要性を学ぶ</p>	災害が起きた場合、歯科医療従事者としての確また迅速に対応することができる。		
7	<p>(野中友紀子) 災害時の歯科保健活動2 (1)災害歯科保健活動総論 (2)学院版「災害歯科保健活動マニュアル」の説明</p>	<p>1. 災害歯科保健活動マニュアルを説明できる。 2. 日頃からの災害対策を説明できる。 3. 大規模災害被災者の特徴を説明できる。 4. 災害歯科保健活動マニュアルを必要に応じ変更することができる。 5. 自身の安全確保をした上で災害時に地域支援活動ができるよう備えることができる。 6. 地域と連携を図るために支援活動に関連する組織を検討することができる。 7. 災害支援活動時の被災者および支援者への精神・心理的ストレスを説明できる。 8. 災害時に主体的な活動ができるよう基本的な知識を身に付けることができる。</p>	前回までの講義内容をふまえ配布プリントの穴埋めをしておくこと	「災害歯科保健活動マニュアル」は事前にダウンロードしPCを持参すること。(スマホでの閲覧は不可)
8	<p>(熊本県歯科衛生士会) 災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から1</p>			
9	<p>(熊本県歯科衛生士会) 災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から2 宅における災害歯科保健活動について</p>			

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
10	(野中友紀子) 災害時の歯科保健活動3 (1)グループワーク1 (2)受講後アンケート (3)国家試験対策(小テスト) (4)ポストテスト	1. 災害を自身のことと捉え具体的に想像することができる。 2. 災害時の状況を想像し周囲との連携法を検討することができる。 3. グループワークで自身の役割をはたすことができる。 4. グループワークで積極的に発言することができる。 5. 検討した内容を、聞き手が理解しやすいよう発表することができる。 6. 発表内容に対してクリティカルに思考し質問することができる。 7. 国家試験出題問題を把握することができる。		
後期 11	(野中友紀子) 対象別 高齢期 地域歯科保健活動における歯科衛生実践① ・在宅療養者の口腔健康管理(動画演習)	在宅療養者の口腔健康管理の流れを理解する 1. 歯科訪問診療の事前打ち合わせと器材準備について説明できる 2. 情報収集の方法について説明できる 3. 情報収集の内容について説明できる 4. 口腔健康管理の手順を説明できる 5. 多職種との連携について説明できる	「歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック」の事前学習をし臨むこと。 液晶プロジェクター PC	・テキスト ・QRコードが読み取れるスマホ等の器材 ・教本「高齢者歯科学」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「障害者歯科
12	(野中友紀子) 対象別 高齢期 地域歯科保健活動における歯科衛生実践② ・在宅療養者の口腔健康管理(動画演習)	在宅療養者への口腔健康管理において、歯科衛生士が行った行為とその目的を理解する 1. 対象者を端座位にする意義を説明できる 2. 本人によるブラッシングの意義を説明できる 3. 歯科衛生士によるブラッシングの意義を説明できる 4. 聴診の意義について説明できる 5. 歯科訪問診療報告書の記録と活用について説明できる	「歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック」の事前学習をし臨むこと。 液晶プロジェクター PC	・テキスト ・QRコードが読み取れるスマホ等の器材 ・教本「高齢者歯科学」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「障害者歯科学」第2版
13	(野中友紀子) 対象別 成人期 保護者対面実習オリエンテーション 歯科衛生過程の臨床応用	1. 保護者対面実習を行う上で必要な注意点や準備物について説明することができる。 2. 自身の役割を把握し、行動することができる。 3. 歯科衛生アセスメントに必要な情報の詳細を説明し準備することができる。 4. 保護者対面実習のロールプレイに必要な器材を準備することができる		
14	(野中友紀子) 対象別 成人期 保護者対面実習A、B、C班 歯科衛生過程の臨床応用 包括的支援法の検討	1. 対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2. 対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3. 対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4. 対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5. 対象者の経時的变化に着目した聴取ができる。 6. 対象者の包括的支援法を説明することができる。 7. 歯科診断に関わる項目について歯科医師へ指示を仰ぐことができる。		
15	(野中友紀子) 対象別 成人期 保護者対面実習A、B、C班 歯科衛生過程の臨床応用 包括的支援法の検討 かかりつけ歯科医との連携	1. 対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2. 対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3. 対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4. 対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5. 対象者の経時的变化に着目した聴取ができる。 6. 対象者の包括的支援法を説明することができる。 7. 歯科診断に関わる項目について歯科医師へ指示を仰ぐことができる。		

基本情報

学科目名	栄養指導Ⅱ	分野	専門分野[歯科保健指導論]			講師名	松下美由紀		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士								
授業との 関連性	熊本地域糖尿病療養指導士としての経験を活かした管理栄養士として、現代の食生活の問題点や疾病予防を踏まえた講義を実施する。また、他職種連携の視点を踏まえた講義を実施する。								

詳細情報

授業目標	①食生活と健康の関連について学び、栄養の知識や各種制度への知識を高め、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。 ②健康づくりに必要な栄養についての知識を高め、多職種との連携ができる歯科衛生士を目指す。 ③ライフステージ別の食事の大切さを理解し、栄養関連の基本知識を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	15点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	5点	合計	100点
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行									
参考文献	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	授業はワークシートを利用する。計算時(電卓またはスマホ)利用あり。									
履修上の 注意	授業中の自己都合の入退は基本不可。やむを得ない理由がある場合は許可を得ること。宿題・レポートの提出あり。提出物、授業態度は評価に反映。6回講義以降にワークシート記入の確認を実施し、評価に反映する。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	5章 食事と食品 ①食事の基本 食事バランスガイド 1年の復習	1. 食事バランスガイドについて説明できる	ワークシート予習	フラットファイル、バインダー等
2	③食品群の分類と特徴 1. 食品群とその分類 2. 食品に含まれる栄養素 1年の復習	1. 食品群の分類と特徴を説明できる	ワークシート予習	
3	2. 食品に含まれる栄養素 ④食品の機能	1. 食品の機能を説明できる	ワークシート予習	
4	⑤食品の表示	1. 食品の表示と保健機能食品、特別用途食品について説明できる	ワークシート予習	
5	⑥食品の調理	1. 摂食嚥下機能と食品の物性について説明できる	ワークシート予習	
6	6章 ライフステージと栄養 ①妊娠期における栄養	1. 妊娠期における栄養の要点を説明できる	ワークシート予習	
7	②授乳期における栄養 ③乳児期における栄養	1. 授乳期における栄養の要点を説明できる 2. 乳児期における栄養の要点を説明できる	ワークシート予習	
8	④幼児期における栄養 ⑤学童期における栄養	1. 幼児期における栄養の要点を説明できる 2. 学童期における栄養の要点を説明できる	ワークシート予習	
9	⑥思春期における栄養 ⑦成人期における栄養	1. 思春期における栄養の要点を説明できる 2. 成人期における栄養の要点を説明できる	ワークシート予習	
10	2. 成人期の主な疾患と食事療法	1. 成人期の主な疾患を理解し、食事療法を知る	ワークシート予習	
11	⑧高齢期における栄養 1. 高齢期の特徴と栄養摂取の要点 2. 高齢期の栄養ケアの要点	1. 高齢期における栄養の要点を説明できる	ワークシート予習	
12	3. 高齢期の主な疾患と栄養ケア	1. 高齢期の主な疾患を理解し、栄養ケアを知る	ワークシート予習	
13	7章 栄養ケア・マネジメント ①チームアプローチと栄養ケア・マネジメント ②栄養スクリーニング	1. 栄養ケア・マネジメントの概要と歯科衛生士の関わりを説明できる 2. 栄養スクリーニングを説明できる	ワークシート予習	
14	③栄養アセスメント	1. 栄養アセスメントとその方法を説明できる	ワークシート予習	
15	④栄養ケア計画 2年の復習	1. 栄養ケア計画と栄養ケアについて説明できる	ワークシート予習	

基本情報

学科目名	歯科診療補助Ⅱ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]					
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	3単位	90時間	授業回数	45
講師名	植村博子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	橋本千明	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	中川美里	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							

詳細情報

授業目標	(前期) 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期) 歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習 など)	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 合場千佳子 他 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 末瀬一彦 他 医歯薬出版KK ③歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」高阪利美 他 医歯薬出版KK ④歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 植田耕一郎 他 医歯薬出版KK ⑤歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 千田 彰 他 医歯薬出版KK ⑥歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 赤川安正 他 医歯薬出版KK ⑦歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学 第2版」 新井一仁 他 医歯薬出版KK ⑧歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」 大嶋 隆 他 医歯薬出版KK ⑨歯科衛生学シリーズ「歯周病学 第2版」 佐藤 聡 他 医歯薬出版KK ⑩歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」 野村武史 他 医歯薬出版KK ⑪歯科衛生士テキスト「わかりやすい歯科放射線学 第3版」 飯久保正弘 他 学建書院KK									
使用設備・ 備品・準備 物	その都度当番を通して連絡します。									
履修上の 注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 *到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	仮封について				仮封の意義を理解し、各種仮封材の性質、特徴、用途を理解し説明できる。			要綱及び教本(該当ページは要綱に記載)による予習の実施		
2	仮封材取扱い①テンプル・リストップ・水硬性仮封材・酸化亜鉛ユー・ジェル・軟質レジン(机上)				診療室における仮封の意義を理解し、各仮封材の机上での取扱いを習得する。			同上		
3	仮封材取扱い②テンプル・リストップ・水硬性仮封材(ファトム)				診療室における仮封の意義を理解し、水硬性仮封材・テンポラリーストップのファトム上で取扱いを習得する。			同上		
4	仮封材取扱い③酸化亜鉛ユー・ジェル・軟質レジン(ファトム)				診療室における仮封の意義を理解し、酸化亜鉛ユー・ジェル・軟質レジンのファトム上で取扱いを習得する。			同上		
5	器具の受け渡し1				それぞれの目的に応じた準備や手渡しを、留意点を考えて行うことができる。			同上		
6	ラバーダム防湿について・ラバーダム防湿操作1ファントム1 歯有翼				①ラバーダム防湿法の意義を理解し説明できる。 ②ラバーダム防湿の意義を理解し、迅速、確実に操作ができるよう習得できる。			同上		
7	ラバーダム防湿操作2ファントム1 歯無翼				ラバーダム防湿の必要性を理解し、有翼法との操作法の違いを理解し説明できる。			同上		

回	授業計画	到達目標	準備学習
8	歯肉圧排、歯間分離、隔壁について（講義・机上操作）	①歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の目的を理解し、種類を述べるができる。 ②歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の取扱いを理解し、安全に操作できるようにする。	同上
9	成形修復材について	修復材の種類と特徴について述べるができる。	同上
10	修復物研磨について	①研磨用具の種類、研磨の目的を理解し術式を述べるができる。 ②ハンドピースへ研磨用具を取り付けることができる。	同上
11	グラスアイオノマーセメント修復～修復物研磨	①グラスアイオノマーセメント修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。	同上
12	コンポジットレジン修復①光重合レジン・ペースト～修復物研磨	①コンポジットレジン修復の術式を理解し、酸処理材の取扱いができる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。	同上
13	コンポジットレジン修復②光重合レジン・～修復物研磨	①光重合型レジン修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②可視光線ライトの取扱い方を修得できる。 ③研磨の意義を理解し、修復物の研磨ができる。	同上
14	口腔内写真撮影1 （画像処理法説明含む）	①口腔内写真の意義を考え、各部位の撮影ができる。 ②アシスタントの役割を考え、口角鉤の把持、口腔内の乾燥ができる。	同上
15	口腔内写真撮影2	同上	同上
16	口腔内写真撮影 復習1	口腔内状況が判断できる口腔内写真（資料）の作成ができる。	同上
17	寒天印象1（1級窩洞）	寒天印象材とアルジネート印象材との連合印象についてその特徴および手順、材料の取扱い方を習得する。	同上
18	寒天印象2（2級窩洞）	同上	同上
19	（1階口腔保健センター） 口腔内法・口腔外法撮影の補助	①上下顎臼歯部における正確なX撮影ができるように撮影装置の位置づけができる。 ②適切な自動現像法を修得する。 ③パノラマ撮影の手順を理解できる。 ④撮影したフィルムをマウント整理し解剖学的指標で観察できる。	同上
20	術者磨き(歯ブラシ・清掃補助用具)・バキューム操作	①口腔内状況に応じた術者磨きが適切にできる。 ②ミラーでの粘膜排除が適切にできる。 ③一人バキュームでのスプレー洗浄が適切にできる。	同上
21	印象採得 片顎・全顎（復習）	口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象採得までの手順を復習し、印象採得ができる。	同上
22	仮封材取扱い・綿球・綿栓（復習）	①診療室における仮封の意義を理解し、各仮封材のファントム上での適切な取扱いができる。 ②臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるように	同上
23	ゴム質印象	ゴム質印象材について特徴および手順を理解し、取扱い方を習得する。	同上
24	保存修復における歯科診療補助①成形修復	各種修復法の流れに心じて準備ができる。	同上
25	口腔外科における歯科診療補助1 器具の種類と用途①	口腔外科における歯科衛生士の役割について述べるができる。	同上
26	口腔外科における歯科診療補助2 器具の種類と用途②	カートリッジ式注射器、替刃メス、縫合用器材の種類と用途を理解し、取扱い方を修得できる。	同上
27	歯周治療における歯科診療補助①歯肉包帯	歯肉包帯（歯周パック）の目的を理解し、準備と取扱い方を修得できる。	同上
28	歯周治療における歯科診療補助②	①歯周基本治療と歯周外科治療における歯科診療補助の役割について述べるができる。 ②組織再生誘導法、エムドゲインの目的・術式を理解し説明できる。	同上

回	授業計画	到達目標	準備学習
29	歯内療法における歯科診療補助①	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明ができる。	同上
30	歯内療法における歯科診療補助②	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明ができる。	同上
31	ホワイトニングについて	各種ホワイトニングの特徴と術式を理解し説明できる。	同上
32	暫間修復材（テンポラリークラウン）について	暫間被覆冠・仮着材を理解し、取扱いの方法を理解する	同上
33	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製① （1 歯既製冠・机上）	①暫間被覆冠の目的、種類、取扱い、製作順序と準備する器具について理解する。 ②既製冠を用い暫間被覆冠を製作できる。	同上
34	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製② （筆積み法・机上）	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を製作できる。	同上
35	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製② （筆積み法・机上）	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を製作できる。	同上
36	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製③ （直接法・ファントム）	常温重合レジンを用い直接法にて暫間被覆冠を製作できる。	同上
37	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製③ （直接法・ファントム）	常温重合レジンを用い直接法にて暫間被覆冠を製作できる。	同上
38	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製④ （ブリッジ）印象法・ファントム）	印象材を用いた方法でブリッジの暫間被覆冠を製作できる。	同上
39	歯科補綴における歯科診療補助①義歯	有床義歯の着脱の指導法と衛生管理を理解し、患者指導ができる。	同上
40	歯科補綴における歯科診療補助②咬合採得、暫間被覆冠仮着	①クラウン、ブリッジ治療における流れを理解し、治療前、治療中、治療後の患者指導ができる。 ②咬合関係を確認のうえ、咬合採得ができる。 ③作成したTeCの歯間離開度を測定し、仮着材にて適切に装着できる。	同上
41	その他の歯科材料について	リベース材、ティッシュコンディショナー、適合検査材の役割について理解し取扱い方法を習得する。	同上
42	臨床実習（矯正歯科分野）の事前学習課題説明・各自まとめ	矯正歯科医院の臨床実習を円滑に進めるために、必要な基礎的知識を各自調べ、理解できるようにする。	同上
43	寒天印象採得復習（相互）	顎模型上で実習した寒天印象採得が口腔内でスムーズに操作できる。	同上
44	バキューム操作復習1（相互）・外科用バキューム（ファントム）	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減する。 ②外科用バキュームの取扱い方法を理解する。	同上
45	印象採得復習（上・下顎）	口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象採得までの手順を復習し、正確な印象採得ができる。	同上

基本情報

学科名	摂食機能訓練法	分野	専門分野[歯科診療補助論]			講師名	我那覇生純	
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
教員の実務経験	歯科医師。摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。日本障害者歯科学会認定医。介護支援専門員。歯科診療所院長。							
授業との関連性	摂食嚥下リハビリテーション学会認定士としての知識や経験を踏まえ、摂食嚥下機能の基礎知識や評価方法、介入のし方、また多職種との連携について講義・演習する。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士の職業に対して、夢と希望と可能性を感じ、自らがそのミッションを果たして行くという想いを描けるようになる。 口腔機能に対するアプローチ、口腔リハビリテーションについて、知識と技術を学ぶ。 チーム医療の中で多職種との協働を果たす役割を知る。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 秋山正子著 他 医歯薬出版 / 講師資料									
使用設備・備品・準備物	相互実習の時には学院実習室を使います。									
履修上の注意	初めて聞く言葉、用語に関心を持ち、予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。解らない事は講師を尋ねて質問をして理解する。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	歯科衛生士の働き リハビリテーション医学とは 口腔のリハビリテーションとは 障がいのみかた チーム医療 高齢者の特徴とリハビリテーション上の問題点				在宅歯科医療・訪問歯科医療、病棟、介護施設、障がい者施設において、歯科衛生士に必要とされる口腔機能に対するアプローチに対して、知識、技術を学ぶスタート地点に立つ。			予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。		
2	口腔機能の評価方法について 観察 診察 スクリーニング				口腔機能の評価方法について学ぶ			"		
3	口腔リハビリテーションに必要とされる口腔生理学、口腔解剖学の理解 嚥下内視鏡(VE) 嚥下造影検査(VF)				摂食嚥下機能を理解する為に、口腔・咽頭・喉頭の解剖学と生理学を学ぶ。 嚥下造影検査(VF)、嚥下内視鏡検査(VE)についての理解する。			"		
4	誤嚥と誤嚥性肺炎 誤嚥、窒息への対応				高齢者に多い誤嚥性肺炎についての原因、症状、治療法を理解する。 歯科衛生士が関わり誤嚥性肺炎の予防について理解する。			"		
5	嚥下訓練について 間接訓練				嚥下訓練の間接訓練の方法と手技について相互実習を通して理解する。			"		
6	嚥下訓練について 直接訓練				食べ物を使い行う直接訓練について相互実習を通して理解する。			"		
7	在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション				在宅における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。			"		
8	小児の摂食嚥下リハビリテーション1				乳幼児の摂食機能についての理解を深める。			"		
9	小児の摂食嚥下リハビリテーション2				乳幼児、小児の口腔機能に対するリハビリテーションについて学び、バンケード法について相互実習を通して理解する。			"		

回	授業計画	到達目標	準備学習
10	居宅、病院、介護施設における摂食嚥下リハビリテーション について	居宅、病院、介護保険施設における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。	〃
11	小児口腔機能発達不全症について 口腔機能発達不全症について	小児口腔機能発達不全症の理解と評価の仕方 口腔機能発達不全症の理解と評価について 口腔機能を検査する器材と使い方を学ぶ	座学と相互実習を通して口腔機能について、評価法についてを理解する。
12	在宅患者へのリハビリテーションの実際	在宅で療養していく方々に関わる職種と一緒に教室に来て、実際の口腔機能に対するアプローチを見ながら、これからの歯科衛生士に求められる知識と技術を学ぶ。	予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。
13	認知症の方へのアプローチ 認知機能低下の方への摂食嚥下リハビリテーションについて	歯科医療が認知症の方々にどのように関わり合えば良いのか、歯科衛生士としての関わり方について理解する。	〃
14	多職種との連携について、ケアマネとの連携 管理栄養士との連携 薬剤師との連携 NSTについて	在宅、施設、介護施設において、また、地域の行政や関連機関との連携を通して、一人の患者に対してどのような支援が歯科衛生士として行う事が出来るのかを理解する。 NSTにおける歯科衛生士の役割について理解する。	〃
15	まとめ これまでの講義の重要事項の確認 実際の現場における歯科衛生士の働き	実際の摂食嚥下訓練の様子と口腔リハビリ、歯科衛生士の活動の様子を紹介して、これから求められる歯科衛生士像を提示する。	〃

令和8年度 授業シラバス

基本情報

学科目名	隣接医学救急蘇生法 I		分野	専門分野[歯科診療補助論]			講師名	渡辺 洋	
履修学年・学期	2年	前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。福岡歯科大学歯科麻酔講座医員。歯科診療所院長。								
授業との 関連性	大病院歯科麻酔講座医員の経験を踏まえ、全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点について講義する。								

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として、全身疾患に関わる幅広い知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	<p>(学則) 合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p> <p>「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 洪谷 鈺著 学際企画 「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」橋本賢二著 他 医歯薬出版株式会社</p>									
参考文献										
使用設備・ 備品・準備 物										
履修上の 注意										
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	総論/循環の生理・解剖				①この学科目で学習する内容を理解する。 ②救急処置の重要性について理解する。 ③救急処置について歯科医行為と歯科衛生士法を理解する。 ④歯科診療室での全身疾患偶発症の主な原因を知る。 ⑤心臓の構造と特性について理解する。 ⑥心電図とは何か説明できる。 ⑦体循環と肺循環について説明できる。			該当する部分を読んでおく		
2	呼吸の生理・解剖/循環器系・呼吸器系の疾患				①呼吸とは何か説明できる。 ②呼吸器の構造と呼吸運動、呼吸の調節について理解する。 ③肺気量について説明できる。 ④肺胞のガス交換について理解する。			該当する部分を読んでおく		
3	循環器系・呼吸器系の疾患/自律神経				①循環器疾患並びに呼吸器疾患の主な疾患名とそれぞれの疾患の概要、症状について理解する。 ②歯科治療に際して注意すべきことについて理解する。 ③自律神経とは何か説明できる。 ④自律神経の分類と各々の働きを説明できる。			該当する部分を読んでおく		
4	全身の検査と評価				①バイタルサインとは何か説明できる。 ②脈拍とは何か、観察部位、触知方法について説明でき測定できる。 ③脈拍の観察(数、リズム等)を説明できる。 ④呼吸の観察方法を説明できる。 ⑤血圧とは何か、血圧の測定方法、測定時の注意を理解し、測定ができる。 ⑥体温とは何か、測定部位と特徴、体温の正常と異常、影響する因子が説明できる。 ⑦意識レベルの観察方法、モニタリングについて理解する。 ⑧臨床検査値の検査項目・基準値の理解			該当する部分を読んでおく		

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	歯科治療と麻酔/全身麻酔と救急蘇生	①麻酔法の種類と特徴について理解する。 ②歯科用局所麻酔薬の種類と特徴、使用方法について理解する。 ③注射針の特徴について理解する。 ④笑気吸入法、静脈内鎮静法の特徴と方法について理解する。 ⑤鎮静法の適用と禁忌について理解する。 ⑥全身麻酔とは何か、歯科における適応症を理解する。 ⑦全身麻酔薬の種類と特徴を理解する。 ⑧救急蘇生の概要について理解する。(詳細は3年次に履修)	該当する部分を読んでおく
6	代謝系疾患	①糖尿病とは何か、症状等について理解する。 ②糖尿病患者への歯科治療時の注意点と歯周病リスクについて理解する。 ③甲状腺機能障害とは何か、症状等について理解する。 ④甲状腺機能障害患者への歯科治療時の注意点について理解する。	該当する部分を読んでおく
7	アレルギー疾患/血液に係わる疾患/歯科における薬剤	①アレルギーの反応型を理解する。 ②薬物アレルギーについて理解する。 ③血液疾患の種類と各々の症状について理解する。 ④血液疾患患者の歯科治療時の注意点を理解する。 ⑤歯科における薬剤の種類と使用上の注意点を理解する。 ⑥歯科治療における投薬時の注意点と服薬指導について理解する。	該当する部分を読んでおく
8	一般臨床と全身疾患の係わりについて/口腔領域の解剖/総括	①一般臨床と全身疾患の関わりについて理解する。 ②口腔領域の解剖について理解する。 ③これまで学習した内容を再度確認し、解らない所を質問し理解する。	該当する部分を読んでおく

基本情報

学科目名	コミュニケーションⅡ	分野	選択必修分野[基礎分野]			講師名	山本直子	
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	60時間	授業回数	30
教員の 実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接客研修の講師を務めている。キャリアコンサルタントとして学生から社会人の就労相談やキャリアプランなどについての研修などを実施。							
授業との 関連性	企業の接客講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。また、社会人としてキャリアを積み重ねていくための基本的な考え方・動き方などを伝える。							

詳細情報

授業目標	ビジネス社会で働く上で必要なコミュニケーション能力を、ビジネスマナー、社会常識(冠婚葬祭含む)、対人援助コミュニケーションなどから学び、考え方、動き方などを身につける。自分も大切に、周りも思い遣ることができる自分づくり。									
成績評価 方法	定期試験	80点	提出物	5点	受講態度 まとめカード	5点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	合計	100点
教科書名	歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)									
参考文献	講師資料/①歯科医療接客と医療コミュニケーション (医学情報社) ②コミュニケーション技法 (株式会社 ウイネット) ③対人援助のスキル図鑑(中央法規) ④医療従事者のためのコミュニケーション入門()									
使用設備・備 品・準備物	数回、プロジェクターや歯科医師会館のホールを使用。									
履修上の 注意	①資料をファイルするための専用ファイルを用意する。 ②あいさつや返事は、良い姿勢、良い表情、相手に届く良い声で。 ③気持ちの良い返事、美しい姿勢など、基本動作をきちんと行う。 ④はっきり意思表示し、ロールプレイは積極的に行う。 ⑤基本動作をきちんと身につける。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	歯科医療接客の重要性 ①患者様が求める人材とは ②患者様は何を評価しているのか ③伸びる人材とは	①医療における「接客」の意義や重要性を再認識する。 ②歯科衛生士としてありたい姿を見出す。	(P)TX①P8-11 行動具体策を基本動作 チェックシートに記入し毎回確認する。	
2	基本的なコミュニケーションスキル ①質問するスキル ②傾聴するスキル ③積極的に働きかけるスキル ④伝えるスキル	コミュニケーションにおける様々なスキルの考え方と、具体的実践方法を学び、日常生活や実習などに活かす。	(P)TX③より抜粋	
3	様々な場面での安心感を高める立ち居振る舞いと言葉遣い ①施設内での立ち居振る舞い ②ご案内で気を付けること	①1年次の基本を振り返りながら、現場での立ち居振る舞いを想像し、自分の動き方を考えてみる。 ②実際にロールプレイで確認する。	(T)P23-27	
4	好感・安心感を高める言語コミュニケーション ①クッション言葉 ②依頼形、肯定表現 ④意向に添えない場合の代案	①敬語が使えるだけでなく、好感を持っていただける言い回し、言い方ができているか確認する。	(T)P28-35	
5	院内での声掛け1 ①声掛けの際の基本 ②よく使用する基本表現 ③受付～待合室での声掛け	①様々な場面での言い回しや、気遣いの言葉かけが出てくる。 ②表情や声、所作などからも安心と信頼を増すことができるよう整える。	(T)P36-42	
6	院内での声掛け2 ①診察室、チェアサイドでの声掛け ②会計、次回予約時の声掛け	①様々な場面での言い回しや、気遣いの言葉かけが出てくる。 ②表情や声、所作などからも安心と信頼を増すことができるよう整える。	(T)P42-48	
7	電話対応1 ①電話の基本 ②電話対応の基本的な心構えと流れ ③受け方・かけ方のポイント	①電話対応の基本を知る。 ②自分の声のトーンや大きさ、スピードなどを確認する。 ③受け方・かけ方のポイントを知り、ロールプレイで確認する。	(P)電話の受け方・かけ方	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
8	電話応対2 ①名乗らないとき、聞き直すとき、聞き取りにくい時、携帯電話のとき など ②不在時の電話応対	①受ける際の基本を学び、ロールプレイで実践する。 ②名指し人不在時の対応ポイントを知る。	(P)・不在時の電話応対 ・こんなときどうする	
9	電話応対3 ①伝言の受け方・伝え方 ②伝言メモの書きかた(ワーク) ③自分の電話応対を確認	①様々な場面での対応の仕方、言葉遣いを知る。 ②ロールプレイで自分の声を聞いて、さらに気持ちの良い電話応対を目指す。	(P)・伝言メモワーク ・自分の声、他者の声を聴き、心地良い話し方を考える	
10	カラー講座 ①1年次の振り返り ②医療現場における色彩の活かし方 ③自分の色は(イメージカラー)	①色彩の基礎知識を振り返る ②色の持つ効果、色を与える影響から現場や日常での活かし方を考える ③カラーの知識を実習や日常生活で活かす。	オリジナルテキストシート	
11	自己紹介を考える ①自己紹介時のポイント ②文章の組み立て ③グループ内での発表	①自己理解を深め、相手に伝わる内容、伝え方を考える。 ②実際の実習を想定し、30秒以上1分以内の自己紹介を完成させる。	オリジナルテキストシート	
12	聞くことの重要性 ①コミュニケーションにおける「きくこと」とは ②相手が話しやすくなる工夫 ③聴くときの反応の仕方	①情報収集のみならず、相手の話したいことを引き出し会話を弾ませる質問の仕方を理解する。 ②NG、OKな関わり方を知り、日常に活かす。	(P)TX③P122-138	
13	質問のコミュニケーション効果 ①質問の効果 ②うまくいかない質問とは ③こんな時の質問は	①情報収集のみならず、相手の話したいことを引き出し会話を弾ませる質問の仕方を理解する。 ②NG、OKな関わり方を知り、日常に活かす。	(P)TX③P122-138	
14	受容と共感のコミュニケーション1 ①受容と共感のスキル ②傾聴のスキル ①アサーティブなコミュニケーション	①受容的な反応、非受容的な反応を理解し、ロールプレイで体感し、その時の感情を経験する。 ②傾聴の姿勢や行動を知り、ロールプレイで確認する。	(T)P50-52 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
15	受容と共感のコミュニケーション2 ①アサーティブなコミュニケーション(対応事例を考える)	①相手のご満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。	(T)P54-59 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
16	苦情・クレーム対応の基本1 ①クレームのメカニズムと心構え ②対応のステップと気を付けるポイント ③要求に応えられない場合の対応 ④様々な「謝罪」「提案」の仕方	①クレームとは何か、対応の心構えを知る。 ②対応時の言葉遣いや表情、態度を確認する。 ③ロールプレイを通して実際の感情などを確認する。	(T)P60-64 対応のステップを覚える。 ロールプレイ時は言い回しや伝え方を工夫すること。	
17	苦情・クレーム対応の基本2 ①要求に応えられない場合の対応 ②様々な「謝罪」「提案」の仕方 ③様々な「提案」の仕方	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようであるかを確認する。	(T)P63-64 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
18	相手のやる気を引き出すコミュニケーション1 ①コーチングの基本 ②歯科医療でのコーチングの有効性 ③コーチングのコアスキル	①相手のやる気を引き出し、信頼を深める関りであるコーチングの基本を知る。	(T)P89-98 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
19	相手のやる気を引き出すコミュニケーション2 ①目標設定や課題認識・分析を支援する ②行動化を支援する	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようであるかを確認する。	(T)P99-105 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
20	メイク講座 ①1年次の振り返り ②医療業界のメイクのポイント ③自分に合ったメイクを見つける	①自分の顔の特徴を活かして、目的に合ったメイクを身につける。 ②清潔感やきちんと感を演出し、周囲からの印象をアップさせる。	各自、メイク道具一式持参 オリジナルテキストシート	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
21	【現場での対応(ユニットで)】 ①「時間が合わない」という患者様 ②「多忙で来られない」という患者様 ③「なかなか約束(指示)を守れない」患者様に	①まず相手の要求がなんであるかを正しく見極める。 ②その先にある言葉にならない要求を探し出す。 ③相手の感情を想像し、満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。	より良い対応をディスカスする。ロールプレイで確認し、完成後は実践に活かせるよう復習。	
22	高齢の患者様、小児の患者様との関わり ①小児の患者様対応のポイント ②高齢の患者様対応のポイント	①小児の患者に対して気を付けるべきポイントとあわせて、保護者に対する関わりも考える。 ②高齢になると身体的・精神的にどうなるのかを理解し、医療の現場でどのような配慮が必要かを考える。	(P)小児・高齢の患者様への対応・コミュニケーションのポイントを覚える。	
23	配慮ある支援が必要な患者様との関わり ①視覚障害者 ②聴覚障害者 ③言語障害者	①様々な障害がどのようにについての理解を深め、医療の現場でどのような状況になるのかを知る。 ②障害をお持ちの方に対するそれぞれの配慮のポイントおよび心構えを学ぶ。	(T)P106-109 コミュニケーションのポイントを覚える。	
24	<執務の基本>の復習 ①指示命令の受け方、報告連絡の仕方 ②指示命令。報告連絡ワーク ③整理整頓の仕方	①実習時の指示・命令や報告・連絡を想定し、ロールプレイする。 ②整理整頓の基本を確認し、日常生活に活かす。	(T)P112-116 (P)・指示命令の受け方、報告連絡の仕方 ・整理整頓のコツ	
25	より良いチーム作りのために ①職場内での配慮ある表現 ②会議やミーティングの参加・運営 ③読みやすい文章の基本	①失敗や間違いをした時の態度や対応を知り、学院生活や実習で、実践する。 ②会議参加の基本を知る。 ③わかりやすい説明、文章のポイントを確認する。	(T)P116-124 (P)読みやすい文章ワーク	
26	より良いチーム作りのために ①チームビルディング(協働)の実現のための行動 ②相互コミュニケーションと積極的関わり	①チームで働くために必要なポイントを知る。 ②ワークを通して自分の動き方や必要な思考力を考える。	オリジナルテキスト シート ワーク	
27	患者様のお呼び出し～誘導～自己紹介の実技演習①	①待合室での呼び出し～誘導～説明～自己紹介の、一連の流れの言葉かけと動作がスムーズにできる。	ロールプレイおよび成績評価	
28	患者様のお呼び出し～誘導～自己紹介の実技演習②	①待合室での呼び出し～誘導～説明～自己紹介の、一連の流れの言葉かけと動作がスムーズにできる。	ロールプレイおよび成績評価	
29	自己啓発と目標設定 ①自己啓発とは ②目標設定の重要性とポイント ③3年次目標設定	①自己啓発とは何かを知り、今後の人生に役立てる。 ②日々の生活、人生においても大変重要な目標設定の仕方やポイントを知り、実際に目標設定してみる。	オリジナルテキスト シート	
30	まとめ ①「働く」ということ ②学生と社会人の違い ③目標と今後の決意	①「働く」とはということなのかを改めて考え、3年次の実習に向けての自身の心構えを確認する。 ②目標の発表や、他者の価値観や目標を共有し相互激励する。	行動具体策を基本 動作チェックシートに。	

基本情報

学科目名	高齢者医学総論	分野	選択必修分野[専門分野]高齢者医学総論	講師名	澤 美穂
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位
教員の実務経験	看護師として病院勤務(病棟、手術室、内視鏡室など担当)介護老人保健施設で看護、介護師長、ケアマネージャーとして勤務。現在は介護福祉に関わる養成校にて非常勤講師として勤務。				
授業との関連性	看護師として病院・診療所や介護老人保健施設で長年培った経験を踏まえ、加齢に伴う身体的・精神的・心理的特徴や高齢者に多い全身疾患について講義する。				

詳細情報

授業目標	①高齢者の身体機能の特徴を知り、生理的な加齢が身体や心理に及ぼす影響や疾病について理解できる ②超高齢社会の現状を把握し、老化に伴って起こる全身状態、生活機能の状況を理解し、専門職としての観察や支援ができる									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	高齢者歯科学テキスト 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備品・準備物	高齢者歯科学テキスト									
履修上の注意	テキスト中心に授業を展開します。必要な内容は板書します。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	(Ⅱ編 第1.2章) 加齢に伴う身体的機能の変化、精神、心理 敵変化について理解できる	1. 加齢に伴う全体的な変化で身体的な特徴 が理解できる 2. 高齢者の心理的な理解と対応方法が理 解できる	P46~P63	
2	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患 について理解できる	1. 生活習慣病の疾患の特徴や歯科治療と の関連について理解できる (高血圧、心疾患)	P46~P72	
3	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患 について理解できる	1. 生活機能を低下させる全身疾患について 理解できる 2. 疾病のタイプや対応方法が理解できる (脳血管障害、認知症)	P72~80	
4	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患 について理解できる	1. 神経、筋疾患、フレイル、サルコペニア、 廃用性症候群について理解できる	P80~88	
5	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患 について理解できる	1. 神経、筋疾患、フレイル、サルコペニア、 廃用性症候群について理解できる 2. 高齢者に特有な口腔疾患、症状について 理解できる	P88~100	
6	(Ⅲ編 第1章) 高齢者の生活機能評価スケールの種類に ついて理解できる	1. 生活機能評価項目、評価方法が理解で きる (HDS-R評価手順)	P102~113	HDS-R評価表
7	(Ⅲ編 第1章) 高齢者の生活機能評価スケールの種類に ついて理解できる (Ⅲ編 第2章) 高齢者歯科と臨床検査について理解できる	1. 生活機能評価項目(HDS-R評価手順) 2. バイタルサイン、血液検査項目に関連す る疾患や症状について理解できる	P114~121	
8	(Ⅲ編 第3.4章) 高齢者の栄養状態、栄養評価、栄養方法の いついて理解できる 高齢者に薬剤の相互作用、服薬管理、注意 点について理解できる	1. 栄養方法、種類、栄養評価を理解できる 2. 高齢者の薬物感受性、服薬の管理や注 意点が理解できる	P122~138	

令和8年度 【 臨床実習Ⅱ 】 シラバス

名 称	臨床実習Ⅱ
該当学年	2年生(62期生)
日 程	令和8年11月9日(月)～令和8年12月17日(木)
総日数	28日間
単位数 (総時間)	5単位(225時間)
実習時間	8:30～16:30(1日 8時間×28) 事前OR 1時間 * 昼食時間を含む
実習機関 及び 学生割り振り	<一般歯科> 1診療所 1～2名 * 但し、学生数により 人数の変更や実習施設のお休みもあります。
目的	1年次に学んだ基礎実習及び、すでに履修した臨床歯科医学に基づき、歯科治療全体の流れを理解する。
一般目標	(1) 診療の介助及び補助を学ぶ。 (2) 環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 (3) 目標を達成するために、学習習慣を身につける。
行動目標	(1) 診療の介助及び補助を学ぶ。 ① 対象者の心理を理解し、配慮ができる。 ② 適切な診療器材を選択し、準備ができる。 ③ 対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2) 環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 ① 患者が快適な診療を受けられるように環境を整備することができる。 ② 滅菌・消毒の意義を考えながら適切な方法で滅菌、消毒を行うことができる。 ③ 器械、器具、材料、薬品の用途を理解することができる。 ④ 医療廃棄物の取り扱いについて担当者の指導のもとに適切に処理することができる。 (3) 目標を達成するために、学習習慣を身につける。 ① 意欲的に取り組むことができる。 ② 疑問点について列挙し、積極的に調べることができる。 ③ 疑問点についてわからないことは質問することができる。 ④ 必要な文献や資料を収集し、適切にまとめることができる。

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	歯科衛生学Ⅲ	分野	専門分野[歯科衛生士概論]			講師名	野中友紀子	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義・演習・オンライン	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。 本学院教務主任。歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」教本執筆者							
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	15点	実技・発表 ワーク(演習) など	5点	受講態度	減点	合計	100点
	定期試験(80点満点)・提出物(記録方法)・歯科衛生アセスメント内容のルーブリック評価(約15点加算) ・歯科衛生過程一斉ワーク活動内容を加算(5点) ・ワーク欠席者および提出期限遅れは減点対象となります。									
教科書名	(学則) 合格点:60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験:学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課:①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件:各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 (減点対象) 事由のなき提出物遅れ、未提出の際は減点対象とします。									
	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」可児徳子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」医歯薬出版KK 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論第2版」医歯薬出版KK 医歯薬出版KK医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」									
使用設備・ 備品・準備 物	各自PC、USBデータ									
履修上の 注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、主要三教科で今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. 演習の前は、必ず各自で論理的に思考し提出する。(提出後に演習とする) 4. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 5. 感染予防に努めながらグループワークへ参加すること。 6. 学科目「保健指導法」「歯科診療補助法」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。 7. グループワークをオンラインで実施することもあります。指定時間に出席の確認ができなければ欠席とみなします。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	保護者対面実習1 1. 歯科衛生アセスメント 2. 歯科衛生診断 ～クリティカル思考にて検討 ※2年次3～4月季春休暇 個人ワーク課題 3年次歯科衛生学定期試験加算対象			1. 個人の歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べるができる。 2. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断まで検討することができる 3. 班員で協調し内容をまとめることができる 4. 検討した内容を簡潔に記録できる			4/24(金)			
2	保護者対面実習2 1. 歯科衛生アセスメント 2. 歯科衛生診断 ～クリティカル思考にて検討			1. 個人の歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べるができる。 2. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断まで検討することができる 3. 班員で協調し内容をまとめることができる 4. 検討した内容を簡潔に記録できる			5/1(金)			
3	保護者対面実習3 1. 歯科衛生アセスメント 2. 歯科衛生診断の完成 3. 歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標の設定・介入計画立案) ～クリティカル思考にて検討			【専任教員ワーク指導】 1. 指導者の意見をもとに歯科衛生診断までをリフレクションすることができる 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる。 4. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(G-P、E-P、O-P)ができる。 5. 担当専任教員へワーク内容の報告ができる			5/8(金)			
4	保護者対面実習4 1. 歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標の設定・介入計画立案) ～クリティカル思考にて検討			1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(G-P、E-P、O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。 6. 必要器材を列挙することができる			5/29(金)			

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	保護者対面実習5 1. 歯科衛生計画立案 (ケア計画・教育計画・観察計画)の完成 ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士業務の理解 歯科衛生士法の復習	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。 6. 必要器材を列挙することができる	6/12(金)
6	保護者対面実習6 保護者対面実習オリエンテーション 1. 歯科衛生計画立案 (ケア計画・教育計画・観察計画)の見直し 2. 歯科衛生介入流れ一覧の提出 ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 歯科衛生計画立案内容に基づいた必要器材を準備することができる 2. 歯科衛生教育内容に応じた媒体を作成し準備することができる 3. 歯科衛生介入の流れ一覧を完成し提出することができる。 4. ロールプレイの前準備が適切にできる。 5. 患者教育媒体の準備ができる	6/19(金)
7	保護者対面実習7 保護者対面実習ロールプレイ 1. 歯科衛生介入	1. 立案した歯科衛生計画にそって実践することができる。 2. 各自の役割を理解し、適切な行動ができる。 3. 班員で事前打ち合わせ綿密にし臨むことができる。 4. ロールプレイ内容を反映し、歯科衛生計画立案を再考することができる。	6/19(金)
8	保護者対面実習8 1. 歯科衛生介入の再考	1. 保護者対面実習オリエンテーション後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。	7/3(金)
9	保護者対面実習9 保護者対面実習 1. 歯科衛生介入の実施 2. 歯科衛生評価	1. 保護者対面実習後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 臨床での実践に向けて課題を明確にすることができる。	7/4(土)・7/5(日)
10	保護者対面実習10 ※課外扱い 7/17(金)保護者対面実習反省会 1. 歯科衛生評価 2. 歯科衛生計画再検討 3. 症例発表準備	1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。 6. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易い発表シナリオを作成することができる。	7/29(水) 1
11	保護者対面実習11 1. 歯科衛生評価 2. 歯科衛生計画再検討 3. 症例発表準備	1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。 6. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易い発表シナリオを作成することができる。	7/29(水) 2
12	保護者対面実習12 1. 症例発表 2. リフレクション	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。 3. 班員の演習時の活動貢献度について相互評価を行うことができる。 4. 自身の演習への貢献度を振返ることができる。	7/29(水) 3
13	保護者対面実習13 1. 症例発表 2. リフレクション	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。 3. 班員の演習時の活動貢献度について相互評価を行うことができる。 4. 自身の演習への貢献度を振返ることができる。	7/29(水) 4

回	授業計画	到達目標	準備学習
14	歯科衛生過程の実践 1. 高齢者の症例より口腔機能に関するアセスメント実施 2. アセスメント内容をICF概念図に分類・記録することができる 3. 歯科衛生実践における理論の応用を理解することができる	1. 症例検討ができる 高齢者(口腔機能低下症) 2. 事前学習による高齢者の口腔機能管理に関する説明ができる 3. 症例に応じた歯科衛生介入法を列挙することができる	9/8(火) 3
15	歯科衛生過程の実践 1. 高齢者の症例より口腔機能に関するアセスメント実施 2. アセスメント内容をICF概念図に分類・記録することができる 4. 歯科衛生実践における理論の応用を理解することができる	1. ICF概念図の活用法を説明できる 2. ICFの分類内容を説明できる 3. 歯科衛生過程の理論として生活に視点をあてた理論を説明できる 4. 口腔機能訓練を実践する前準備として口腔機能の状態を把握することができる 5. 口腔機能訓練実習に必要な訓練法を説明できる	9/8(火) 4 ↓ 9/9(水)歯科診療補助法実習とつながる

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	歯科予防処置法Ⅲ	分野	専門分野[歯科予防処置論]					
履修学年・学期	3年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	1単位	40時間	授業回数	15

講師名	大塚めぐみ	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							
講師名	西口 真美	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士という専門職としての実技能力を高めるために、今まで学んだ知識、技術を踏まえ、歯科衛生士業務についてさらに理解を深め、患者管理、予防業務の知識、技術を修得する。対象者の問題を科学的な思考をもって解決するために歯科衛生過程の基本的な考え方と展開する方法を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	/点	実技・発表 ワーク(演習) など	/点	受講態度	/点	合計	100点
	項目ごと実技試験									
教科書名	①最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート) ③歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社 ④歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2班 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社 ⑥ポイントチェック5									
使用設備・備 品・準備物	当番は必要な準備物を授業開始3日前までに担当講師に確認をとること。									
履修上の 注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。資料はMoodleから確認することができます。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器(エアポリッシャー)取り扱い・示説1人目 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアポリッ シャー操作(復習)				口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修 得するための器械選択及び操作ができる。			教本P230～231を復習 しておく		
2	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器(エアポリッシャー)2人目 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアポリッ シャー操作(復習)				口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修 得するための器械選択及び操作ができる。			教本P230～231を復習 しておく		
3	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器(エアポリッシャー)3人目 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアポリッ シャー操作(復習)				口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修 得するための器械選択及び操作ができる。			教本P230～231を復習 しておく		
4	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ② 歯面研磨・歯面清掃 マナボットを使用したPTC(人エブラーク) 高齢者疑似体験誘導				①対象者の口腔内に応じた清掃器材を使用する ことができる ②動揺歯に注意しながら歯面清掃を行うことが できる ③高齢者疑似体験を行うことで高齢者の身体的 特徴を理解する。 ④配慮を必要とする方への声掛けを行うことが できる			教本P186～232を復習 しておく		
5	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ② 歯面研磨・歯面清掃 マナボットを使用したPTC				①対象者の口腔内に応じた清掃器材を使用する ことができる ②動揺歯に注意しながら歯面清掃を行うことが できる			教本P186～232を復習 しておく		

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡の取り扱い 拡大鏡使用SRP(ファントム実習)	①拡大鏡の取扱い方を理解する ②エクスプローリング、スケーリング、ルートプレーニングまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
7	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 上顎/下顎 PTC 位相差顕微鏡(復習)	①コードレスハンドピースをスムーズに操作することができる。 ②器材の管理ができる。 ③位相差顕微鏡を確実に取り扱うことができる ④感染性廃棄物を正しく処理することができる	教本P222～228を復習しておく
8	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 スケーリング～PTC操作(一人バキューム) 示説・1人目/PTC用エパチップ取り扱い	①機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとバキューム操作が一人で実施できる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。 ③PTC用器材の準備ができる。 ④エパチップを正しく使用することができる。 ⑤インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
9	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 スケーリング～PTC操作(一人バキューム) 2・3人目	①機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとバキューム操作が一人で実施できる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
10	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用 プロービング操作～PTC操作 示説・1人目	①プロービング、PTCまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、口腔内の状況に合わせてPTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
11	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用 プロービング操作～PTC操作 2・3人目	①プロービング、スケーリング、PTCまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、口腔内の状況に合わせてPTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
12	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング シャープニング・キュレットスケーリング	①手用スケーラーの操作方法、シャープニングについて復習し自身の履修度を確認できる。 ①キュレットスケーラーをスムーズに操作できる ②器材の管理ができる。	教本P202～209を復習しておく
13	(講義・演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口法、フッ化物配合歯磨剤・フッ化物歯面塗布についての練習問題	①フッ化物の取り扱いを正確に行うことができる。 ②練習問題にてこれまで学んだフッ化物の分野について理解度を図る。	教本P233～256を復習
14	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝充填塞法(復習)	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法について術式を理解したうえで、必要な器材の取り扱い及び充填塞を実施できる。	教本P258～264を復習しておく
15	(模擬試験・講義) 歯科予防処置法 模擬試験解説	模擬試験にて、いままで学んだ内容の理解度を知る。	これまでの配布プリントと教本を必ず持参する

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	保健指導法Ⅲ	分野	専門分野[歯科保健指導論]				
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数 15
講師名	岩切 恵子	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院前教務主任。栄養コンシェルジュ二つ星。				
授業との 関連性	人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として健康づくりの為に食生活支援も行う。						
講師名	野中友紀子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。				
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおり、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。						
講師名	佐藤 成美	教員の 実務経験	熊本市歯会在宅訪問歯科衛生士を経て、歯科診療所訪問歯科衛生士として勤務。				
授業との 関連性	熊本市歯会の在宅訪問歯科衛生士として長年活躍し、また現在も歯科診療所にて訪問歯科衛生士として実践している経験を踏まえ、訪問歯科の法的根拠や手法、注意点を講義、演習する。						

3回

6回

6回

詳細情報

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動において対象者への適切な支援や介入ができるよう基礎知識、技術を学び、健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また歯科衛生過程の学習においては、口腔保健の視点から、予防歯科や健康増進を図るため、科学的根拠に基づいた知識や技術を応用し、情報の収集から解釈分析を行い、それを基に歯科衛生介入計画を立案でき実践することができるようになる。また実践したことの最終的評価を行うことを学ぶ。									
成績評価 方法	定期試験	岩切50点 野中30点 佐藤20点	小テスト レポート	提出物の 不備減点 (野中)	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
(学則)	合格点;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験;学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 (減点対象) 事由無き提出物の提出遅れは減点対象となります。									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 秋山正子著他 医歯薬出版KK 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 医歯薬出版KK 歯科衛生学誌「保健生態学」 オーラルヘルスケア事典 麻賀多美代著 学建書院 歯科衛生学 教育動画シリーズ「歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック」高齢者施設での口腔健康管理									
参考文献	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 第2版 遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論第2版」 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	(岩切)準備物は事前に当番を通して連絡します。 (野中)PC、液晶プロジェクター、事前課題は必須とします。QRコードが読み取れるスマホ等を準備ください。 (佐藤)演習に必要な材料はその都度伝達します。忘れず準備してください。									
履修上 の 注意	演習は白衣着用。実習にふさわしい身だしなみを徹底してください。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物	R7年度
1	(野中友紀子) 1. 地域歯科保健活動における歯科衛生実践 ・公衆歯科衛生の場での歯科衛生士の活躍 ①～区役所実習前オリエンテーション ・区役所実習で学ぶ意義	(区役所実習オリエンテーション含む) 1. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる 2. 区役所実習で学ぶ意義を説明できる 3. 区役所実習の役割や業務の概要を説明できる 4. 区役所実習で学びたい事、目的を説明できる 5. 指定の様式で簡潔にレポートをまとめることができる		区役所実習冊子 区役所OR資料 パソコン持参 教本「保健生態学」	4/7(火) 3
2	(野中友紀子) 4. 地域歯科保健活動における歯科衛生実践 ・公衆歯科衛生の場での歯科衛生士の活躍 ②～区役所実習前オリエンテーション ・区役所実習業務に関するレポート作成	(区役所実習オリエンテーション含む) 1. 行政歯科衛生士の役割を理解し、学び内容の焦点を定めることができる。 2. 区役所実習に必要な健康教育媒体を準備することができる 3. 公衆歯科衛生の場での歯科衛生士の役割を説明できる 4. 公衆歯科衛生の場での歯科衛生士の業務を説明できる 5. 事前学習レポートを完成させることができる		区役所実習冊子 区役所OR資料 パソコン持参 教本「保健生態学」	4/7(火) 4
3	(野中友紀子) 2. 地域歯科保健活動における歯科衛生実践 ・高齢者施設での口腔健康管理(動画演習) ※2年次3月履修済 在宅療養者の口腔健康管理(動画演習)	地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解するために、高齢者施設の場を体験し、必要な知識・技術・態度を習得する 1. 高齢者施設(介護付き有料老人ホーム)での入居者の生活・環境を説明できる 2. 高齢者施設で働く職種を列挙できる 3. 歯科訪問診療開始時の事前カンファレンスの確認事項を列挙できる 4. 口腔衛生管理時の患者の姿勢の注意点を説明できる 5. 高齢者集団時の留意点を列挙できる 6. 食事提供の工夫・方法を説明できる	歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック事前学習必須	・歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック ・スマートフォン(QRコード読み取りが可能な器材)	4/8(水) 1
4	(野中友紀子) 3. 地域歯科保健活動における歯科衛生実践 ・高齢者施設での口腔健康管理(動画演習)	高齢者施設で歯科衛生士が行ったこととその目的を理解するために必要な知識・技術・態度を習得する 1. 病態に合わせた口腔衛生管理を説明できる 2. 嚥下体操の意義を説明できる 3. 食形態の分類を説明できる 4. 食事状況と多職種連携を説明できる		・歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック ・スマートフォン(QRコード読み取りが可能な器材)	4/8(水) 2

5	(岩切恵子) 1年生への口腔衛生指導 実施概要説明 介入計画立案①	1.1年生への口腔衛生指導の実施概要を把握する。 2.自身の役割分担を確認する。 3.対象者に応じた指導計画案を立案できる。		オリエンテーション説明 用資料 配布冊子	4/13(月) 2
6	(岩切恵子) 1年生への口腔衛生指導 介入計画立案② 位相差顕微鏡操作ロールプレイ	1.対象者に応じた指導計画案を完成させることができる。 2.位相差顕微鏡kを正しく操作し、対象者の口腔内細菌について適切な説明ができる。 3.対象者のモチベーションを向上させることができる。		オリエンテーション説明 用資料 配布冊子 <当番> 位相差顕微鏡操作に必要な物品 (使用可能な台数を配置)	4/15(水) 3
7	(野中友紀子) 5. 地域歯科保健活動における歯科衛生実践 ・配慮を有する者への歯科健康教育 ・要介護高齢者 ・障害者 施設でのレクリエーションに向けた、歯科健康教育シナリオ検討・作成	(高齢者・障害者施設実習オリエンテーション含む) 1. 要介護高齢者の特徴を概説できる 2. 要介護高齢者へ実施する歯科健康教育内容を説明できる 3. 障害者の特徴を概説できる 4. 障害者へ実施する歯科健康教育内容を説明できる	2年次作成した 臨地実習施設 レポートを見直 しておくこと	①社会福祉施設レ ポート ②教科書 ・高齢者歯科学 ・障害者歯科学 歯科予防処置論・歯 科保健指導論	4/16(水) 3
8	(野中友紀子) 6. 地域歯科保健活動における歯科衛生実践 ・配慮を有する者への歯科健康教育 ・要介護高齢者 ・障害者 施設でのレクリエーションに向けた、歯科健康教育シナリオ検討・作成	(高齢者・障害者施設オリエンテーション含む) 1. 歯科健康教育の実践に向けた準備ができる 2. 臨地実習(高齢者・障害者施設)の概要を説明できる 3. 高齢者施設での歯科健康教育内容のシナリオを検討することができる 4. 作成したシナリオに応じた媒体を準備することができる	2年次作成した 臨地実習施設 レポートを見直 しておくこと	①社会福祉施設レ ポート ②教科書 ・高齢者歯科学 ・障害者歯科学 歯科予防処置論・歯 科保健指導論	4/16(水) 4
9	(岩切恵子) 1年生への口腔衛生指導 終了後のレポート作成、反省	1.1年生への口腔衛生指導終了後のレポートを配布プリントの要項に基づき適切に記録することができる。 2.1年生からの評価・感想を受け、今後の自身の履修目標を具体的に立案し、今後の実習に生かすことができる。		オリエンテーション説明 用資料 配布冊子 レポート作成のための 説明用プリント	4/17(金) 4
10	(佐藤成美) 訪問における歯科衛生士の役割 訪問歯科衛生士の現場 口腔ケア用具の種類と使用法 基本口腔ケア手順 演習症例①～④の説明宿題内容	訪問時における歯科衛生士の役割を理解することができる 口腔のケア用具の種類・使用法を理解することができる 演習症例①～④の内容を理解することができる。	症例①～④の ケア用品、注意 点の宿題プリン ト		5/1(金) 2
11	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅰ ○2階ユニット 【マナボットのケア・相互実習】(A班) [症例①] 動揺歯、義歯あり、口腔清掃不良 [演習] 脱感作法 スポンジブラシの使用法 ○教室【車椅子又は座位相互実習】(B班) [症例②]脳梗塞後遺症右麻痺認知症開口困難	各症例の目的に応じた口腔のケアの方法を理解することができる [症例①] 動揺歯が抜けないように、義歯を着脱し、食渣を除去することができる [演習] 利用者の立場で脱感作を体験し、手技を理解することができる。スポンジブラシの使用法で、清拭、ストレッチ法を習得することができる [症例②] 車椅子・座位での不安定を支え、開口困難に対応しながらケアをすることができる。頬に医療用テープを張り、麻痺で開口保持の困難さを理解することができる。	・症例①②宿題 プリント ・スポンジブラ シ使用法資料 ・義歯着脱注意 資点資料 ・脱感作法資料	白衣着用	5/15(金) 1
12	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅰ ○2階ユニット 【マナボットのケア・相互実習】(A班) [症例①] 動揺歯、義歯あり、口腔清掃不良 [演習] 脱感作法 スポンジブラシの使用法 ○教室【車椅子又は座位相互実習】(B班) [症例②]脳梗塞後遺症右麻痺認知症開口困難	同上	同上		5/15(金) 2
13	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅱ ○2階ユニット【看取り相互実習】(A班) [症例③] 癌治療看取り快楽を追求したケア ○教室【ベッド寝たきり相互実習】(B班) [症例④] 脳血管障害片麻痺廃用症候群寝たきり	各症例の目的に応じた口腔のケアの方法を理解することができる [症例③]癌治療看取りの方に対し、メンタル、過敏粘膜等に考慮したケアをすることができる [症例④]仰臥位で寝たきりの方を、毛布で側臥位安定させ、疲れにくく、誤嚥予防に考慮した体位を作ることができる。乾燥痲痺を体験し、ケアすることができる。巻綿子・スポンジブラシで細目に汚水を取り、誤嚥予防しながらケアをすることができる	症例③④宿 題プリント		5/22 (金) 1
14	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅱ ○2階ユニット【看取り相互実習】(B班) [症例③] 癌治療看取り快楽を追求したケア ○教室【ベッド寝たきり相互実習】(A班) [症例④] 脳血管障害片麻痺廃用症候群寝たきり	同上	同上		5/22 (金) 2
15	(佐藤成美) 演習各症例の振り返りまとめ	各症例の目的に応じた口腔のケアの演習を振り返り、各演習における反省、課題、注意することを理解することができる。	症例①～④ 宿題プリント 他配布資料		5/29 (金) 2

基本情報

学科目名	歯科診療補助Ⅲ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]					
履修学年・学期	3年 前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	1単位	30時間	授業回数	15

講師名	植村博子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	橋本千明	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	中川美里	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							

詳細情報

授業目標	歯科及び歯科衛生士の役割について理解を深めるために、学んだ知識と技術を統合して自らが学んでいける能力を構築する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」合場千佳子 他 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 末瀬一彦 他 医歯薬出版KK ③歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 高阪 利美 他 医歯薬出版KK ④歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 植田耕一郎 他 医歯薬出版KK ⑤歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 千田 彰 他 医歯薬出版KK									
使用設備・ 備品・準備 物	その都度当番を通して連絡します。									
履修上の 注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 *到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	酸化亜鉛コーシノールセメント練和 (用途別①仮封用、②覆髄用)～受渡し(2 人1組)				酸化亜鉛コーシノールセメントの用途別にお ける取り扱い法を修得し指導ができる。			同上		
2	バキューム操作復習2(相互)				口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内に たまった水や唾液をバキューム操作を行い、 患者の苦痛を軽減する。			同上		
3	印象採得1 水平位操作(全顎)				口腔内観察後、的確にトレーを選択し練和か ら水平位での印象採得までの操作を対象者に 不快感を与えないよう配慮しながら行うこと ができる。			同上		
4	印象採得2(寒天印象採得 コア)				①寒天印象材とアルジネート印象材を用いた コアの連合印象の手順と材料の取扱いがで きる。			同上		
5	ゴム質印象(相互)				顎模型上で実習したゴム質印象採得が口腔内 でスムーズに操作できる。			同上		

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	セメント取り扱い（接着性レジンセメント）	接着性レジンセメントの性質を理解し、臨床での取り扱い方法を修得する。	同上
7	ラバーダム防湿操作3 ファントム数歯無翼	①ラバーダム防湿の必要性を理解し、操作法の違いを理解し説明できる。 ②操作法の違いを理解し、数歯露出の技術を習得できる。	同上
8	口腔咽頭吸引（相互）/ 静脈内採血	①吸引の手順を理解し、安全かつ適切に吸引することができる。 ②採血法の準備、手順を理解しトレーニングモデルを使用し採血できる。	同上
9	口腔機能の検査と評価	①口腔健康管理の目的を説明できる。 ②口腔機能の種類とその評価方法を説明できる。	同上
10	口腔機能精密検査	口腔機能低下症の機能評価について理解し実践できる。	同上
11	口腔機能精密検査	口腔機能低下症の機能評価について理解し実践できる。	同上
12	口腔機能の訓練について	①摂食嚥下リハビリテーションとのつながりを説明できる。 ②ライフステージに応じた口腔機能管理が理解できる。 ③口腔機能管理のリスクが理解できる。	同上
13	口腔機能の訓練について	①摂食嚥下リハビリテーションとのつながりを説明できる。 ②ライフステージに応じた口腔機能管理が理解できる。 ③口腔機能管理のリスクが理解できる。	同上
14	暫間被覆冠作製試験（左上1） →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。	同上
15	暫間被覆冠作製試験（左上1） →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。	同上

令和8年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科科目名	隣接医学救急蘇生法Ⅱ	分野	専門分野[歯科診療補助論]			講師名	吉武 博美	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科口腔病院勤務。日本歯科麻酔学会専門医。日本障害者歯科学会専門医。有病者歯科医療学会指導医。AHA-BLSインストラクター歯科医師。							
授業との 関連性	日本歯科麻酔学会専門医・臨床歯科医の経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識、歯科診療時における全身的偶発症や注意が必要な患者の歯科治療について講義を行う。							

詳細情報

授業目標	1. 歯科診療において、患者様に起こり得る合併症とその対処法について理解できる。 2. 救急蘇生を行うべき状態に早期に気づき、適切に対処できる能力を身につける。									
成績評価 方法	定期試験	60点	小テスト レポート	20点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	10点	合計	100点
	(学則) 合格点 ;60点以上とし、不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験 ;学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課 ;①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ;各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 鈺著 学際企画									
参考文献										
使用設備・ 備品・準備 物	PC プロジェクター スピーカー									
履修上の 注意	授業の最初に前回の復習小テストをします									
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	第1章 序論 第2章 救急処置に必要な基礎知識			1. 救急処置の重要性について理解できる。 2. 呼吸の生理・解剖について理解できる。 3. 循環の生理・解剖について理解できる。 4. 自律神経について理解できる。						
2	第3章 バイタルサイン 第4章 全身状態の評価			1. バイタルサインの要素(脈拍、呼吸、血圧、体温、意識)の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。			前回の復習		血圧計 聴診器 SpO2モニター	
3	第5章 歯科診療時における全身的偶発症			1. バイタルサインの要素(脈拍、呼吸、血圧、体温、意識)の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。			前回の復習			
4	第6章 全身疾患を有する患者の歯科治療 (注意が必要な患者の歯科治療)			1. 歯科診療を行うにあたり特に注意を要する基礎疾患について理解できる。 (1)循環器系疾患 (2)呼吸器疾患 (3)内分泌・代謝系疾患 (4)その他の疾患			前回の復習			
5	第7章 麻酔法 第9章 一般的な救急処置			1. 各種麻酔法について理解できる。(局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、はり麻酔など) 2. 外傷、熱傷に対する一般的な救急処置について理解できる。 3. 止血法について理解できる。			前回の復習			
6	第8章 救急蘇生法			1. 救急蘇生法を行うにあたって必要な知識を身につける。(体位、患者搬送、加温・保温、心肺蘇生法、酸素療法、静脈路確保、点滴法、救急処置に必要な器具・器材・薬剤) 2. 救急蘇生の基礎知識について理解できる。			前回の復習			
7	救急蘇生法 演習			1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。			熊本市中央消防署より救急蘇生演習			
8	救急蘇生法 演習			1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。						

必要な場合はご利用ください。

基本情報

学科名	医療保険事務	分野	選択必修分野[専門分野]			講師名	大嶋まなみ	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	15時間	授業回数	8回
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所勤務							
授業との 関連性	臨床歯科医としての経験を踏まえ、日常診療に係る保健、医療、福祉の制度の概要について講義する。							

詳細情報

授業目標	1. 介護保険の内容を理解する。 2. 介護保険報酬請求の実務を行える。 3. 居宅や施設での口腔ケアの実施にあたり、他職種との連携を図るための知識を獲得する。 4. 医療保険を理解する。 5. 医療保険関連の歯科衛生士国家試験問題を理解することができる									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険 第10版」 末高武彦著 医歯薬出版									
参考文献										
使用設備・ 備品・準備 物	プロジェクター									
履修上の 注意										

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	教科書第4章について	医療保険と介護保険の概要を知る 教科書第4章の中身の確認		
2	医療保険の仕組み	医療保険の種類について説明できる		
3	医療保険と歯科衛生士	算定における歯科衛生士の役割を理解する		
4	医療保険における歯科衛生士の実務	算定における歯科衛生士の実務を理解する		
5	介護保険の概要と仕組み	基礎知識の獲得、高齢者の医療福祉の流れと介護保険を理解する		
6	介護保険と歯科の関わり	居宅療養管理指導について理解する		
7	国家試験対策①(問題配布・調べ学習) 1. 歯科衛生士国家試験問題を解く(問題抽出は担任が実施) 2. 調べ学習	1. 保健、医療、福祉の制度に関わる歯科衛生士国家試験の問題を把握することができる 2. 主体的に調べ直しをすることができる		
8	国家試験対策②(問題解説・定期試験対策) 1. 歯科衛生士国家試験問題の解説 2. 歯科衛生士国家試験出題問題の傾向を把握する 3. 確認試験の実施(後日担任にて実施)	1. 保健、医療、福祉の制度に関わる歯科衛生士国家試験の問題を理解することができる 2. 理解の定着を図るために確認試験を受け合格点をとることができる		

令和8年度 授業シラバス

日本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科目名	総合歯科学	分野	専門分野[総合歯科学]			講師名	各分野担当講師		
履修学年・学期	3年 後期	授業方式	講義	単位数	5単位	150時間	授業回数	75	
教員の 実務経験	各歯科診療所歯科医師、歯科衛生士。大学教授。管理栄養士。本学院専任教員(歯科衛生士)。								
授業との 関連性	夫々の経験を活かし、これまで学んだ歯科衛生士としての必要な知識をさらに確認することで歯科衛生士国家試験に合格できるよう講義を行う。								

詳細情報

授業目標	広範囲にわたる歯科医療に関する知識を再確認し、歯科衛生士国家試験に合格するための知識を習得することを目的とする。									
成績評価 方法	定期試験	220点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	220点
	合格点 ; 歯科衛生士国家試験に合わせた出題とし132点以上を合格とする。不合格の学科目は1回限り 再試験 を受けることができる。 追試験 ; 学期試験を欠席した場合は1回限り 追試験 を受けることができる。 欠課 ; ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件 ; 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	各学科目の教本 国家試験のための問題集									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	1. 講義の前には、わからないことなどを確認し、講義は質問などをし積極的に受講すること。 2. 事前に配布された問題等は、必ず解答し受講すること。 3. 教本、ノート、問題集など指示されたものは忘れず持参すること。 4. 歯科衛生士国家試験合格を目指し、講義で行われる小テスト等は合格点がとれるよう努力すること。									
回	授業計画				到達目標			準備学習	準備物	
1	(歯科衛生学分野)1 歯科衛生士法と業務、歯科衛生士義務等について				歯科衛生士法について重要な項目を再度確認し理解する。			わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など	
2	(歯科診療補助法分野)1 主要材料の種類、取り扱いと管理				主要材料の種類と取り扱いについて理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。					
3	(歯科衛生学分野)2 国家試験問題の解説 質疑応答				国家試験に出題される大切なポイントを確認する。					
4	(歯科予防処置法分野)1 歯科予防処置の概要、口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握				口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。					
5	(歯牙解剖学分野) 歯科解剖学の再確認 国家試験問題解説				歯牙解剖に関する出題基準を理解し、関連項目の理解を深める。 過去の国家試験問題を解き、大切なポイントを再確認する。					
6	(歯科予防処置法分野) 2 ブローピング、スケーラーの種類と用途、スケーリング 国家試験問題解説				ブローピング、スケーラーの種類、スケーリングの重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。					
7	(歯科矯正学分野)1 歯科矯正の総論 不正咬合の種類と原因				不正咬合の種類や原因について過去問題を解きながら理解を深める。					
8	(障害者歯科学分野) 1 国家試験問題の疑問点確認、復習①				国家試験に関わる疑問点について理解する。					

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
9	(衛生公衆衛生学分野) 1 新しく変わった部分の解説 プリント解説 小テスト	衛生公衆衛生学分野において、新しく変更になったり、追加された項目について理解する。 国家試験によく出題される大切なポイントを確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
10	(介護技術法分野) 国家試験問題解説①	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
11	(歯科保健指導法分野)1 対象把握 歯科衛生過程の進め方、生活自立度、 BDR指標 全身状態の把握	国家試験の出題基準である対象把握と全身状態把握のポイントを理解することができる。		
12	(生化学口腔生化学分野)1 糖質、脂質、タンパク質の代謝 歯・口の生化学	糖質、脂質、タンパク質の代謝について再確認する。また、歯、口の生化学についても理解する。 国家試験問題を解き大切なポイントを確認する。		
13	(解剖生理学分野) 1 人体解剖学の総論 国家試験問題解説	人体解剖学の総論について再度確認する。 国家試験問題を解き、理解を深め、国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
14	(保存修復歯内療法学分野)1 保存修復各論 国家試験問題の解説	保存修復の各論について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。		
15	(歯科診療補助法分野)2 保存治療時の診療補助	保存治療時の歯科診療補助分野の重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
16	(微生物学分野) 国家試験問題解説①	これまでに出题された国家試験の問題を解き理解力を身につける。		
17	(微生物学分野) 国家試験問題解説②	微生物学分野について重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
18	(歯科口腔放射線学分野)1 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解いて、国家試験に合格できる理解力を身につける。		
19	(歯科矯正学分野)2 歯科矯正の各論 各不正咬合の処置法と使用器材 など	矯正歯科学についての国家試験問題を確認し、重要なポイントを確認する。		
20	(障害者歯科学分野) 国家試験問題の疑問点確認、復習②	国家試験に関わる疑問点について理解する。		
21	(衛生公衆衛生学分野) 2 小テスト解説 プリント解説(残り) ポイントチェック	小テストを解説することで重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
22	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患① 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
23	(保健指導法分野)2 保健指導概要 保健教育 ヘルスプロモーション 国家試験のための練習問題と解説	保健指導の概要、ヘルスプロモーション、保健教育等言葉の意味を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
24	(生化学口腔生化学分野) 2 歯の構成成分 唾液 歯の堆積物 国家試験問題解説	歯の構成成分、唾液、歯の堆積物について再確認する。 過去の国家試験問題を解き、重要なポイントを理解する。		
25	(解剖生理学分野) 2 生理学分野国家試験直前対策	生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。		
26	(歯科予防処置法分野)3 歯面研磨、PMTC	歯面研磨、PMTCについて再確認する。 国家試験に関する出題を解き大切なポイントを理解する。		
27	(隣接医学救急蘇生法分野) 国家試験問題の解説 質疑応答	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
28	(隣接医学救急蘇生法分野) 国家試験問題の解説 質疑応答	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
29	(高齢者歯科学分野) 1 高齢者の現状、健康と疾病、高齢者の口腔の特徴、高齢者と薬剤について、高齢者の歯科疾患と歯科衛生士の関わりについて	高齢者、高齢者歯科に関わる基礎知識を理解する。 国家試験に出題されている関連事項を理解する。		
30	(高齢者歯科学分野) 2 高齢者の現状、健康と疾病、高齢者の口腔の特徴、高齢者と薬剤について、高齢者の歯科疾患と歯科衛生士の関わりについて	高齢者、高齢者歯科に関わる基礎知識を理解する。 国家試験に出題されている関連事項を理解する。		
31	(歯科補綴学分野) 1 歯科補綴学の概論	歯科補綴の概要について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
32	(歯科口腔放射線学分野)2 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解き、予想問題を理解する。		
33	(口腔衛生学分野) 1 口腔衛生学テキスト 国家試験問題の解説 質疑応答	口腔衛生学の領域において、国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
34	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患② 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。		
35	(組織発生学分野) 組織発生学に関する補習講義 国家試験問題解説	組織発生学分野について概要を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
36	(歯科材料学分野)1 印象材、歯冠修復材	印象材、歯冠修復剤について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
37	(小児歯科学分野)1 小児の発育 小児歯科疾患 国家試験練習問題	小児の発育、小児歯科疾患の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
38	(口腔衛生学分野)2 保健情報統計学分野) 2年次講義の復習① 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
39	(歯周療法学分野)1 歯周療法の概要	歯周療法の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
40	(歯科補綴学分野) 1 歯科補綴各論 各補綴物の長所、短所など	各補綴物の長所や短所を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
41	(口腔衛生学分野) 3 口腔衛生学テキスト第1～4章 国家試験問題の解説	口腔衛生学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
42	(医療倫理学分野) 国家試験問題の解説	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
43	(病理学分野) 国家試験問題解説	病理学の大切なポイントを理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
44	(栄養指導分野)1 国試の麗人 8-1 生化学の解説 8-2 栄養素の解説	生化学の概要、栄養素について理解を深める。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
45	(歯科予防処置法分野) 4 う蝕活動性試験、う蝕予防処置法の基礎知識、フッ化物歯面塗布	う蝕活動性試験、う蝕予防処置の各方法、フッ化物の応用について再確認する。 国家試験に出題された問題を解きポイントを理解する。		
46	(歯科材料学分野)2 合着材、接着材、仮封材	合着材、接着材、仮封材について理解する。 国家試験に関する大切なポイントを確認する。		
47	(小児歯科学分野) 2 小児期の特徴と歯科疾患 小児歯科における診療補助 国家試験問題解説	小児期の特徴と歯科疾患、小児歯科における診療補助について再確認する。 国家試験を解き解説を理解する。		
48	(歯科診療補助法分野)3 補綴治療時の診療補助	補綴治療時の歯科診療補助分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを確認する。		
49	(口腔解剖口腔生理学分野) 1 口腔解剖口腔生理学のポイント 解説	口腔解剖口腔生理学の大切なポイントを過去の問題を解きながら再確認する。		
50	(口腔病理学分野) 1 歯の発育異常 う蝕 象牙質・歯髄・複合体の病変 国家試験問題	歯の発育異常、う蝕等の大切なポイントを理解する。 国家試験問題により、出題ポイントを認識する。		
51	(歯周療法学分野)2 歯周治療 イニシャルプレパレーションの準備と補助 外科的歯周療法用器具の種類と説明	歯周治療、イニシャルプレパレーションの準備と補助、外科的歯周療法用器具と用途について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
52	(保存修復歯内療法学分野)2 1.歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解 2.歯内療法に関する疑問点、不明な所の質疑応答と国家試験問題の解説	歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
53	(摂食機能訓練法分野) 国家試験問題解説①	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
54	(保健指導法分野)3 国家試験問題解説① (訪問保健指導の分野)	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
55	(薬理学分野)1 総論 中枢神経系作用薬 末梢神経作用薬 呼吸・循環器作用薬	総論、中枢神経系作用薬、末梢神経作用薬、呼吸・循環器作用薬について大切なポイントを再確認する。 国家試験問題を解き知識を深める。		
56	(歯科診療補助法分野)4 口腔外科治療時の診療補助 矯正歯科治療時の診療補助	口腔外科、矯正治療時の歯科診療補助について重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
57	(口腔解剖口腔生理学分野) 2 国家試験問題集の質疑応答	口腔解剖口腔生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。		
58	(歯科臨床総論分野) 1 復習 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する分野の理解を深める。 国家試験に関する問題を解き、重要なポイントを理解する。		
59	(衛生行政社会福祉分野)1 衛生行政の概要とポイント整理	衛生行政の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
60	(衛生行政社会福祉分野)2 社会保障・社会福祉の概要とポイント	社会保障と社会福祉について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
61	(歯科器械学分野) 各種診療器材① 国家試験問題の解説	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
62	(摂食機能訓練法分野) 国家試験問題解説②	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
63	(保健指導法分野)4 歯・口腔の状態把握 歯垢染色剤 口腔汚染度評価 国家試験のための練習問題と解説	口腔の汚染度の確認手段、評価方法について再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
64	(公衆歯科衛生学分野) 歯磨剤について 指数(特にCPI) 国家試験過去問、テキストに沿った解説補足	歯磨剤、統計指数について理解を深める。 過去の国家試験問題を解き関連する重要なポイントを理解する。		
65	(薬理学分野)2 止血材 抗炎症薬 ビタミン ホルモン 消毒薬 化学療法薬 腐食・収斂薬	薬理学に関する重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された問題の傾向と対策を確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
66	(栄養指導分野)2 国試の麗人 8-3 食生活 8-4 食生活指導の基礎	食生活、食事摂取指導の基礎について理解する。 国家試験に出題された問題を解き、再確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
67	(歯科予防処置法分野) 5 小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布	小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布の重要なポイントについて再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
68	(歯科診療補助法分野)5 小児歯科治療時の診療補助 エックス線写真撮影時の診療補助 救急蘇生法	小児歯科治療時およびエックス線写真撮影時の診療補助について再確認する。 救急蘇生時の診療補助について再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
69	(感染予防学分野) 国家試験問題解答と解説	国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
70	(保健指導法分野)5 口腔清掃用具の知識 補助清掃用具の知識 ブラッシング法 対象別歯科保健指導 全身疾患と歯科保健指導 国家試験のための練習問題と解説	口腔清掃用具、補助清掃用具、ブラッシングの方法の利点、欠点について再確認する。 対象別歯科保健指導、全身疾患と保健指導の具体的内容について再度確認する。 保健指導法に関する国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
71	(口腔病理学分野) 2 根尖性歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 口腔癌 のう胞 顎骨病変 他 国家試験練習問題	根尖性歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、口腔癌、のう胞、顎骨病変について再確認する。 国家試験問題を解き、大切なポイントを理解する。		
72	(歯科臨床総論分野) 2 復習 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する分野の理解を深める。 国家試験に関する問題を解き、重要なポイントを理解する。		
73	(歯科器械学分野) 各種診療器材① 国家試験問題の解説	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題された問題を解き、復習をする。		
74	(歯科器械学分野) 各種診療器材② 国家試験問題の解説残り	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題された問題を解き、復習をする。		
75	(公衆歯科衛生学分野) 歯科疾患実態調査 健康日本21 国家試験に出やすいグラフの確認読み取り テキストに沿った解説と補足	歯科疾患実態調査、健康日本21、グラフに関する理解を深める。 国家試験に出題された重要なポイントを再確認する。		

【 臨地実習 】令和8年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨地実習指導担当者	実務経験	①各障害者施設、高齢者施設における社会福祉士、介護福祉士、保育士、作業療法士、歯科衛生士。
授業との関連性	①各障害者施設、高齢者施設において各専門職の経験を活かし、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方、口腔保健の支援ができる態度と技能を教育する。		

項 目	障がい者(児)施設実習	高齢者施設実習
実施期間	3年次 令和8年5月11日(月)～6月4日(水) 施設によっては日程が変更の場合もあります。	
実習曜日	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日も実習	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日も実習
実習時間	8:30～17:00(8.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。	8:30～17:00(8.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。
時間数	25.5	25.5
施設数	5施設	4施設
単位数	1単位	
評価	出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
準備学習	障害者の定義と概要、原因、特性や高齢者の身体的特徴や対応、障害別の歯科の特徴など要点をまとめ提出期限までに点検を受ける。	
目的	心身障がい者施設において、障がいの特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また専門的立場から心身の機能に合った口腔保健の支援をすることができる能力を養うことを目的とする。	高齢者施設の現場において、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、専門的立場から本人又は介助者へ口腔保健の支援が実践できる能力を養い、生活の質の向上に寄与する能力を身につけることを目的とする。
一般目標	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。
	(2)対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。	(2)対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。
	(3)障がいの種類と特徴を学ぶ。	(3)高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。
	(4)日常生活介助の方法を修得する。	(4)日常生活介助の方法を修得する。
	(5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。	(5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。
行動目標	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②障がい者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④歯科に関わる福祉サービスについて簡単に説明できる。 ⑤他職種と連携のあり方を理解することができる。	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②高齢者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④他職種と連携のあり方を理解することができる。
	(2)対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②障がい者の対応に必要な声掛けやコミュニケーションがとれる。	(2)対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②対象者に応じたスピードで話すことができる。
	(3)障がいの種類と特徴を学ぶ。 ①障がいの種類について説明することができる。 ②各種障がいについて身体的・精神的特徴について説明できる。	(3)高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。 ①加齢に伴う身体の特徴を説明できる。 ②対象者の抱える疾病と特徴を簡単に説明できる。
	(4)日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。	(4)日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。
	(5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①障がい者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④障がい者に対する口腔ケアが実践できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べることができる。 ⑥歯磨きの自立を援助することができる。	(5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①高齢者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②口腔衛生時に適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④高齢者や介助者に対する口腔ケアが実施できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べることができる。

【 臨地実習 】令和8年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨地実習指導 担当者	実務経験	各区役所における歯科医師、歯科衛生士。
授業との 関連性	各区役所での歯科医師、歯科衛生士などの経験を活かし、区役所保健こども課の概要を理解し、多職種との連携における歯科保健サービスの展開を教育する。		
項 目	区役所実習		
実 施 期 間	3年次 令和8年5月25日(月)～6月18日(木)		
実 習 曜 日	1人当り4日間 (月～木曜日)		
実 習 時 間	8:30～17:00 (8.5時間)		
時 間 数	34		
施 設 数	5施設		
単 位 数	1単位		
評 価	出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。		
準 備 学 習	<p>1. 配布資料及び熊本市のホームページ等から、市の組織や業務内容について各自で十分に調査を行いレポートを作成していただきます。また、事前に実習先(区役所保健こども課)や保健所の機能を十分理解し、実習生自身の課題・質問事項を明確にして実習に臨むようお願いします。特に、レポート等について、各区役所から下記のような意見が出ています。</p> <p>①「実習生が保健所と区役所の違い、業務分担について理解しないまま実習に来ている」</p> <p>②「区役所で学びたいことのレポートに、保健所の業務を記載している」</p> <p>このことから、配布資料の「熊本市における保健所機能の特徴」をご覧ください実習先である区役所の業務分担をきちんと理解して実習に臨んでいただくよう重ねてお願いします。</p> <p>2. ①1歳6か月児健康診査②3歳児健康診査③フッ化物応用など要点をまとめ提出期限までに点検を受ける。</p>		
目 的	<p>1. 地域における保健福祉サービスの拠点である区役所保健こども課の概要を理解する。</p> <p>2. 多職種との連携における歯科保健サービスの展開を理解する。</p> <p>3. 将来歯科衛生士として、地域保健医療に従事するため、保健医療専門職としての自覚と責任のもとに地域保健組織活動について理解し、実践力を修得する。</p> <p>4. 各種健診・住民健康教室・相談事業等を通して、対象者が全身と口腔の健康を自ら管理できるための支援の方法を修得する。</p>		
一般目標 行動目標	<p>(抜粋)</p> <p>(1) 区役所保健こども課の概要を理解する。</p> <p>(2) 歯科口腔保健の推進に関する法律、地域保健法及び健康増進法に基づく保健福祉活動を理解する。</p> <p>(3) 全身の健康と口腔の健康の関連を理解し、総合的に対象者の状態を把握する能力を身につける。</p> <p>(4) 対象者に応じた話し方や言葉遣いを修得する。</p> <p>(5) 集団に対する健康教育の方法と技術を実践を通して身につける。</p> <p>(6) フッ化物についての有効性、安全性及び注意点を正しく理解する。</p> <p>(7) フッ化物塗布及び洗口法の各種実施方法を修得する。</p>		

【 臨床実習 】 令和8年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨床実習指導担当歯科医師、歯科衛生士	実務経験	各病院歯科口腔外科、各歯科診療所の歯科医師・歯科衛生士
授業との関連性	①臨床歯科医師並びに臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、医療人の基本姿勢や歯科衛生士として必要な知識、技術について指導を行う。		

臨床実習の目的		臨床実習の評価			
1年次、見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。 その後、2年次において、1年次に学んだ基礎実習及び2年次での臨床歯科医学を座学と平行して臨床現場で学びながら、歯科治療全体の流れを理解する。 また3年次においては、これまでに修得した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとするを目的とする。		1. 出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。 2. 各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。			
名称	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅲ		
該当学年	1年生(第63期生)	2年生(62期生)	3年生(61期生)		
日程	令和8年5月25日(月)～令和8年5月30日(土)	令和8年11月9日(月)～令和8年12月17日(木)	令和8年4月20日(月)～令和8年7月24日(金) / 令和8年9月14日(月)～令和8年10月29日(木)		
総日数	6日間	28日間	60日間		
単位数(総時間)	1単位 (45時間)	5単位 (225時間)	12単位 (540時間)		
実習時間	8:30～16:30 (1日 8時間×5) 8:30～13:30 (1日 5時間×1) * 昼食時間を含む	8:30～16:30(1日 8時間×28) 事前OR 1時間 * 昼食時間を含む	8:00～17:00 又は 8:30～17:30 (1日 9時間×57) * 昼食時間を含む 事前OR 3時間		9:30～17:30(1日 8時間×3) * 昼食時間を含む ※実習日 火・木・土
実習機関及び学生割り振り	<一般歯科> 1診療所 1～2名 * 但し、学生数により 人数の変更や実習施設のお休みもあります。	<一般歯科> 1診療所 2名 * 但し、学生数により 人数の変更や実習施設のお休みもあります。	各病院 1～2名ずつ <一般歯科> 1診療所 2名ずつ <矯正歯科> 1診療所 2名ずつ * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。		口腔保健センター 2～3名ずつ
目的	見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。	1年次に学んだ基礎実習及び、すでに履修した臨床歯科医学に基づき、歯科治療全体の流れを理解する。	・これまでに履修した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとする。 ・外来・入院患者に応じた対応を学び、対象者を包括的に評価、理解する能力を身につける。 ・歯科衛生士の担う役割を理解し、歯科診療、専門的口腔ケアを通じ、全身の健康維持増進、生活の質の向上に貢献できる能力を身につける。		地域医療としての口腔保健センターにおいて、障害の特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また専門的立場から対象者に合った口腔保健の支援ができる能力を養うことを目的とする。
一般目標	(1)見学するに見合う態度と心構えを身につける。 (2)受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 (3)歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。	(1)診療の介助及び補助を学ぶ。 (2)環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 (3)目標を達成するために、学習習慣を身につける。	一般歯科医院/矯正歯科医院	病院(歯科外来・病棟)/歯科口腔病院	口腔保健センター(障害者歯科診療)
行動目標	(1)見学するに見合う態度と心構えを身につける。 ①医療人として身だしなみは清潔・機能的である。 ②患者さんやスタッフに対して、挨拶ができる。 ③相手に応じた正しい言葉遣いができる。 ④謙虚な姿勢で実習に取り組むことができる。 ⑤わからないことを積極的に質問できる。 ⑥自己の健康管理ができる。 ⑦担当者に報告・連絡・相談ができる。 (2)受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 ①見学内容の理解を深めるために、実習手帳に記録することができる。 ②わからないことは自分で調べ記録することができる。 (3)歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。 ①歯科衛生士の歯科診療における役割を説明することができる。	(1)診療の介助及び補助を学ぶ。 ①対象者の心理を理解し、配慮ができる。 ②適切な診療器材を選択し、準備ができる。 ③対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2)環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 ①患者が快適な診療を受けられるように環境を整備することができる。 ②滅菌・消毒の意義を考えながら適切な方法で滅菌、消毒を行うことができる。 ③器械、器具、材料、薬品の用途を理解することができる。 ④医療廃棄物の取り扱いについて担当者の指導のもとに適切に処理することができる。 (3)目標を達成するために、学習習慣を身につける。 ①意欲的に取り組むことができる。 ②疑問点について列挙し、積極的に調べることができる。 ③疑問点についてわからないことは質問することができる。 ④必要な文献や資料を収集し、適切にまとめることができる。	(1)医療職としての基本姿勢を身につける。 ①自己の健康管理に努めることができる。 ②安心・安全な医療を理解し、感染予防に努めることができる。 ③与えられた業務に対して、報告・連絡・相談ができる。 ④自己を客観的に評価し、自ら向上するために、知識と技術の研鑽に努めることができる。 ⑤対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2)学院内で修得した知識、技術を実践できる能力を身につける。 ①必要な器械、器具、材料、薬品の準備管理をすすめることができる。 ②診療の補助・介助業務ができる。 ③資料収集のための補助・介助業務ができる。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 ①口腔と全身疾患との関連を説明することができる。 ②正確な口腔内観察ができる。 ③記録の必要性を自覚し正確な記録ができる。 ④対象者へ適切な予防処置ができる。 ⑤対象者へわかりやすい保健指導ができる。 ⑥歯科衛生過程の流れを理解し実施できる。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 ①対象者へ補綴物の取り扱いと装着後の指導ができる。 ②対象者へ外科手術前後の注意事項を説明できる。 ③口腔筋機能療法の介助ができる。 ④対象者へ矯正装置装着の取り扱い、撤去後の指導ができる。	(1)医療職としての基本姿勢を身につける。 (2)対象者の状態を包括的に把握し、健康段階に応じた生体機能の変化を理解する。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 (5)口腔保健の専門職としての役割と多職種との連携を学ぶ。 ①個別性に応じた口腔のケアのアセスメントを立案できる。 ②急性期・周術期・回復期・維持期・終末期の口腔のケアの必要性と手技の説明ができる。 ③口腔機能向上の手技の説明ができる。 ④口腔機能診断・訓練・評価の介助ができる。 ⑤チーム医療において歯科衛生士の役割を説明することができる。 ⑥多職種の役割を説明することができる。 ⑦多職種と積極的にコミュニケーションを図り連携をとることができる。	(1)障害の種類と特徴を学ぶ。 (2)障害者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。 (3)障害者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。 (4)口腔保健センターの特徴を学ぶ。 ①障害の種類・程度について説明することができる。 ②障害に応じて投与される主な服用薬剤の、主作用・副作用を説明することができる。 (2)障害者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。 ①障害性をもたえて、声掛けができる。 ②運動と姿勢抑制の困難性をふまえて、治療時の歯科衛生士の補助ができる。 ③行動変容法の技法を説明できる。 ④体動コントロールの補助ができる。 ⑤精神鎮静法について説明できる。 (3)障害者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。 ①障害者の家族、介護者から情報収集ができる。 ②障害者に対する口腔ケアが実践できる。 ③障害者歯科における業務記録の作成ができる。 (4)口腔保健センターの特徴を学ぶ。 ①地域医療機関としての役割が説明できる。 ②障害者を取り巻く、歯科医療環境を説明できる。